

2024年度

学生便覧 神田外語大学

外国語学部

■英米語学科

■アジア言語学科

■イberoアメリカ言語学科

■国際コミュニケーション学科



注意事項

◆**掲示の確認**

学生に対する通知・連絡は、特別な場合を除いてすべて掲示によって行います。確認しないしていると不都合が生じることがありますので、必ずKUIS Campus Webや学内の各種掲示板を見る習慣をつけてください。掲示した事柄は、周知されたものとして扱われるので注意してください。

◆**提出期限の厳守**

各種手続きや書類等の提出期限、取り扱い時間は厳守してください。

◆**生活上の注意**

互いを尊重し、健やかなる大学生活のために禁止事項を遵守してください。本学は全面禁煙です。中等教育機関も隣接する文教地区ですので周辺での喫煙もやめてください。また、宗教勧誘や無許可の商行為を禁じます。大学における注意事項はKUIS Campus WebのKUIS Student Guidebookを確認してください。

◆**電話による問い合わせ**

履修、休講、試験、学年暦等に関する事柄は、KUIS Campus Webか教務部窓口で直接確認してください。電話による問い合わせは、間違いの原因となるため一切応じられません。

◆**呼び出し**

大学では原則として、掲示により学生に連絡を取ることになっています。授業等に支障をきたすことから、直接電話口への取次ぎや放送連絡には応じられませんので、あらかじめよく了解し、家族や知人などに周知しておいてください。

◆**事務の取り扱い時間・開室時間**

窓口の受付時間などは次の通りです。受付時間外の申し出には一切応じられませんので注意してください。
※に関しては試験期間中、長期休業期間中などは、開室時間が変更になることがあります。

	総務部 (入学式・学位記授与式、施設に関する事等) 1号館2階	教務部、国際戦略部、学生支援部 (授業、留学、学費・奨学金、課外活動に関する事) 1号館1階	キャリア教育部 (キャリア教育及び就職・進路に関する事) 5号館2階
平日	9:00~17:15	9:00~11:10 12:10~17:15	9:00~17:15
土曜	9:00~11:30	9:00~11:30	9:00~11:30

	図書館※ (図書館の利用に関する事) 7号館1階	メディアプラザ※ (メディア利用に関する事) 6号館1階	SALC※ (自学習に関する事) 8号館	MULC※ (MULCの利用に関する事) 7号館2階	ASC※ (ASCの利用に関する事) 6号館2階
平日	9:00~19:50	9:00~18:00	8:45~19:00	9:00~19:00 ただし事務室は 18:00まで	9:00~18:00 授業期間以外は 10:00~17:00
土曜	9:00~17:00	/	9:00~17:00	/	/

	ボランティアセンター※ (ボランティア活動に関する事) 6号館2階	メディカルセンター (健康に関する事、 心や身体の悩み相談) 5号館1階	体育・スポーツセンター (スポーツに関する事) 体育館	ミレニアムハウス (学生公演に関する事) 5号館1階
平日	9:00~18:00 授業期間以外は 10:00~17:00	9:00~11:10 12:10~17:15	9:00~17:15 授業期間以外は 9:00~17:00	9:00~19:30 授業期間以外は 9:00~17:00
土曜	/	/	/	9:00~17:00

目 次

I 教育方針	1
1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）	
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）	
II 学籍について	14
1. 修業年限と在学年限	
2. 休学	
3. 復学	
4. 退学	
5. 除籍	
6. 留学	
7. 転籍（転科・転専攻）	
8. 再入学	
III 授業について	16
1. 授業期間	
2. 授業時間	
3. 休講	
4. 補講	
5. 出席管理システム	
6. 出席基準について	
7. 遅刻／早退の取り扱い	
8. 欠席の取り扱い	
IV 卒業の要件	20
1. 卒業要件	
2. 学位	
3. 卒業発表	
4. 9月卒業	
V 進級基準について	22
VI 単位と時間数	28
VII 履修登録単位数の上限・「卒業見込証明書」の発行	29
1. 各学年における履修登録単位数の上限について	
2. 「卒業見込証明書」の発行について	
VIII 授業科目について	
【学科専攻別カリキュラム表】	31
1. 履修上の注意	45
2. 科目ナンバリングについて	45
3. 授業科目の紹介	46
(1) 外国語科目	46
(2) 選択外国語科目	53
(3) 基盤教育科目	56

(4) 教養科目	56
(5) 研究科目	59
(6) 演習科目・卒業研究	80
(7) 教職科目	82
(8) 自由選択科目	82
IX 試験及び学力評価について	89
1. 試験	
2. 学力の評価	
3. GPA	
4. 成績確認制度	
5. 2年次、3年次への進級再試験	
6. 卒業再試験	
7. 教職科目再試験	
8. 選択外国語科目再試験	
X 他大学及び他機関で修得した単位の認定等について	96
1. 単位の認定	
2. 必修単位の履修免除制度	
3. 千葉県内の他大学の授業科目の認定について	
4. 入学前修得単位の認定について	
XI 海外留学について	97
1. 認定留学制度について	
2. 海外短期研修について	
3. 海外オンラインプログラムについて	
4. 留学プログラムに関する情報について	
XII 国内留学について	100
XIII 転籍（転科・転専攻）について	101
XIV 学内ネットワーク、コンピュータの利用について	104
1. 学内IT設備について	
2. 学内システムの利用	
3. 大学ネットワーク利用にあたっての注意点	
XV 教職課程履修要項	109
XVI 小学校教諭免許取得支援課程履修要項	134
XVII 日本語教員養成課程履修要項	136
XVIII 児童英語教員養成課程履修要項	139
XIX 英米語学科通訳・翻訳課程履修要項	140
XX KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム履修要項	141
XXI 大学院言語科学研究科の概要	142
XXII 大学院英語学専攻（MA TESOL Program）科目の先行履修・学部修士5年一貫プログラムについて	144

I 教育方針

建学の理念とポリシー

神田外語大学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」です。外国語学部では、この建学の理念に基づき、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）を定めています。

育てたい人物像

神田外語大学は、広く一般知識を授け、深く専門技術を教授研究するとともに、わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成することを目的としています。

外国語学部は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度な言語運用能力を身につけさせるとともに、専攻言語及び同言語圏の様々な事柄に関する知識等を教授することにより、豊かな教養と真のコミュニケーション能力を身につけた国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的としています。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

外国語学部では、高度な外国語運用能力と広い一般知識及び深い専門知識を身につけさせると共に、我が国の伝統文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成を目的としています。

<外国語学部>

外国語学部では、以下の能力と資質を身につけることを目的として編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を取得した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」
- (2) 高度な言語運用能力
- (3) 専攻言語及び同言語圏の様々な事柄に関する知識と理解
- (4) 多文化共生社会に求められるコミュニケーション能力
- (5) 論理的かつ批判的な思考力
- (6) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- (7) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

本学部は、これらの能力を身につけ、専攻言語圏の歴史や文化、社会に関する知識をもとに他者を深く理解し、実践的な言語運用能力を駆使し国際社会に貢献しうる自立した人材を育成することを目的とする。

また、各学科においても、前述の目的と関連させた学科教育・研究目的を設定しています。各学科のディプロマ・ポリシーは次の通りです。

<英米語学科>

英米語学科では、以下の能力と資質を身につけることを目的として編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を取得した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。本学科は、これらの能力を身につけ、専攻言語圏の歴史や文化や、社会に関する知識をもとに他者を深く理解し、実践的な言語運用能力を駆使し国際社会に貢献しうる自立した人材を育成することを目的とする。

<p>(1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」</p> <p>① 大学での学びを効果的に機能させるための基本的なアカデミック・リテラシー</p> <p>② 「成熟した市民」として生きるために必要な幅広い教養</p>
<p>(2) 高度な英語の運用能力</p> <p>① 幅広い教養及び批判的思考力を身につけた上で、それを英語で総合的（読む・聞く・話す・書く）に運用できる力</p> <p>② 言語運用能力の到達目標は以下の通りとする。これは、基本的に本学科の英語の教育課程を確実に履修し単位を修得すれば到達できる目標と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業までに全員がCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B2レベル相当に到達し、加えて多くの学生が同C1レベル相当以上に到達することを目標とする。 ・各技能及び検定等の到達目標は別表の通りとする。
<p>(3) 「言語そのものに対する深い洞察及び英語圏の歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」</p> <p>① 英語、日本語に関する言語学的な知見を学び、両言語の共通性と多様性を多面的に考察する力</p> <p>② 英語、日本語に関する言語学的な知見を学び、それを英語学習・英語教育に活用する力</p> <p>③ 英語圏各国の歴史・文化・社会の特質を理解し、国際社会が直面する諸問題を考察し、解決に向けて行動する力</p>
<p>(4) 「グローバル社会の一員として世界に貢献するための力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」</p> <p>① 民主主義社会を生きる「成熟した市民」として、他者との対話を大切にしながら地域、社会、世界と主体的に関わる力</p> <p>② 批判的思考力の手順を身につけ、それを活用する力</p> <p>③ 個々の情報を引き出す力に加え、個々の情報のなかに関連性を見つけ出し、それらを有機的に結びつけて合理的知見を生み出す力</p>

(別表) 技能別語学到達目標

英語		
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学術分野の専門的な内容を扱うまとまった分量のテキストを読み、理解することができる。 ・新聞を読み、その内容を理解することができる。
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学術分野の専門的な内容を扱う講義や口頭発表を理解することができる。 ・ニュース番組やテレビ番組、映画などの様々なジャンルの内容を理解することができる。
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションでは、専門的な内容について、自分の考えと他者の考えを関連づけつつ、積極的に意見交換をすることができる。 ・社会上、学問上、職業上の目的、及び言語使用場面に応じて、効果的な話し方でやり取りができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学術分野の専門的な内容について、文献・データ・証拠に基づいて説得力があり筋道だったプレゼンテーションやスピーチができる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな学術分野の専門的な内容について、重要な点を強調しつつ、補助的事項・理由・関連する事例を詳細に加えながら説得力のある議論を展開して結論をまとめ、アカデミック・エッセイやリサーチ・ペーパーを書くことができる。 ・文章を構成する際に必要となる、文法、語彙、論理的つながりを示す表現などを効果的に使用してまとまりのある文章を書くことができる。
検定等		<p>TOEFL ITP 550点以上を目指す TOEFL iBT 80点以上を目指す</p> <p>実用英語技能検定 1級を目指す TOEIC® L&R 800点以上を目指す</p> <p>CEFR B2 - C1 レベル相当以上</p>

＜アジア言語学科＞

アジア言語学科では、以下の能力と資質を身につけることを目的として編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を取得した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。本学科は、これらの能力を身につけ、専攻言語圏の歴史や文化や、社会に関する知識をもとに他者を深く理解し、実践的な言語運用能力を駆使し国際社会に貢献しうる自立した人材を育成することを目的とする。

(1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」

- ① 大学での学びを効果的に機能させるための基本的なアカデミック・リテラシー
- ② 「成熟した市民」として生きるために必要な幅広い教養

(2) 専攻言語の高度な運用能力及び国際社会の一員として求められる実践的な英語運用能力

- ① 高度な語学運用能力に加え、専攻言語地域に関連する多岐にわたる教養、及び専攻言語そのものを多面的に考察し、その本質を理解する力
- ② 地域・社会・世界との主体的な関わりにおいて、お互いを理解し合うためのコミュニケーションの基盤となる実践的な英語運用能力
- ③ 各専攻における言語運用能力の到達目標は以下の通りとする。これは、基本的に本学科の外国語の教育課程を確実に履修し単位を修得すれば到達できる目標と考える。

＜中国語、韓国語＞

卒業までに全員がCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B2レベル相当に到達し、加えてより多くの学生が同C1レベル相当に到達することを目標とする。

＜インドネシア語、ベトナム語、タイ語＞

卒業までに全員がCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B1レベル相当に到達し、加えてより多くの学生が同B2レベル相当に到達することを目標とする。

＜英語（全専攻共通）＞

卒業までに全員がCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B1レベル相当に到達し、加えてより多くの学生が同B2レベル相当以上に到達することを目標とする。

各専攻言語の技能及び検定等の到達目標は別表の通りとする。

(3) 「専攻語及び専攻語圏をはじめとするアジアの歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」

- ① 専攻言語が使用される国・地域における歴史、文化、社会、政治、経済の特質を理解するとともに、アジアのダイナミズムに目を向け、広い視野で共生のあり方を考察する力
- ② アジアの多様性に対する理解を深め、互いに協力しながら平和と繁栄に貢献する力

(4) 「グローバル社会で専門性を発揮して活躍するための力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」

- ① 専門分野における学びを有機的に結びつけて体系的な知識を創出し、多角的な観点から諸事象を捉え、それをもとに批判的な議論ができる力
- ② 探求心を持ち、今日の国際社会が直面する諸問題を自分で発見し、国際的な視野をもって解決に向けて主体的に行動できる力
- ③ 自身の資質や能力を継続的に発展させることにより、国際社会を舞台としたキャリアを自立的にデザインする力

(別表) 技能別語学到達目標

<中国語専攻>

中国語		
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌や文学作品などを読み、大意を理解することができる。 ・図表や説明文などを読み、必要な情報を得たり、概要や要点を理解することができる。
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な話題のやや複雑なテキストや、抽象的な話題について、主要な内容を聞き取り、理解することができる。 ・映画やテレビドラマの内容を聞き取り、おおよそ理解することができる。
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が想定していない状況においても、相手の協力を得られれば、ある程度創造的なやり取りができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りのことや関心のあることについて、事前に準備をすればスムーズにプレゼンテーションやスピーチができる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りのことや関心のあることについて、ある程度まとまった文章を書くことができる。 ・さまざまな事象について多面的、かつより正確で適切に書くことができる。
検定等		HSK筆記5級・口頭試験高級を目指す CEFR B2-C1レベル相当

<韓国語専攻>

韓国語		
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事など漢字語の多いテキストを自由に読み、理解することができる。 ・辞書を用いることで、小説など、表現の複雑な文学的文章を読み、理解することができる。
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースや演説などの時事的で、社会的に高度な話題をおおよそ理解することができる。 ・映画やテレビドラマにおける、多彩で口語的な表現を聞き取り、おおよそ理解することができる。
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・話の場面に応じた適切な文体を用いて、公式的で抽象的な話題から、私的で日常的な話題についてのやり取りができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・公的もしくは学術的な場面において、高度な内容のプレゼンテーションやスピーチができる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> ・書きことばにみられるフォーマルな文章や、メッセージ性を持った硬い文章を書くことができる。 ・話しことばにみられるインフォーマルな文章や、メールやSNSなど形式に則らない文章まで自由に書くことができる。
検定等		「ハングル」能力検定試験2級、韓国語能力試験 (TOPIK) 5～6級を目指す CEFR B2-C1レベル相当

<インドネシア語専攻>

インドネシア語		
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度高度な内容の原文の読み物を、辞書なしで読むことができる ・自分に必要な文献や資料などを探し出し、それらの内容の比較ができる。
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアで放送されているテレビなどの内容を、おおよそ理解できる。 ・会議や会話の中で相手(話し手)の意図を正確に理解して対応できる。
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外の環境でも自分の意思を正確に伝えられ、相手の話す内容についても理解し、反応できる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションや会議の場で、自分の意見を順序立てて正確な発音と文法で伝えられる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> ・公式文書(高度な文章)を書くことができる。 ・求められる内容や状況に応じて使い分けることが出来る。
検定等		インドネシア語技能検定試験B級以上を目指す CEFR B1-B2レベル相当

<ベトナム語専攻>

ベトナム語		
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な論説、記事を読むことができる。 ・辞書を引きながら、詩やエッセーなど文学作品を味わうことができる。
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースを聞き、ある程度理解できる。映画の内容をおおよそ理解することができる。 ・大学の講義の内容を聞き取ることができ、理解することができる。
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の意見や意思を、自然体で話すことができる。 ・日常生活を離れたテーマについても高度な会話表現ができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・あるテーマについて筋道の立った発表・プレゼンテーションを行うことができる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> ・内容豊かで高度な文章表現ができる。 ・テーマに沿った短い論説（1,000字程度）を書くことができる。
検定等		iVPT（国際ベトナム語能力試験）B2以上を目指す CEFR B1-B2レベル相当

<タイ語専攻>

タイ語		
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書を含む書類や一般の書籍・新聞などを読んで内容を適切に理解することができる。 ・さまざまな文献から情報収集し、自分なりに分析できる。
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意図を正確に解釈し、誤解なく意思疎通できる。 ・会議など公式的な場で、発表や話し合いの内容を無理なく聞き取れる。
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や相手との関係性などを考慮し、発話状況に即した話し方ができる。 ・明瞭な発音で、誤解を与えない話し方ができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・面接や会議などの公式的な場で、論理的に発言できる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> ・公文書を含む書類や日常生活に必要な書類の文面をそれぞれの用途に応じて正確に書くことができる。 ・相手のことを配慮した書き方ができる。
検定等		チュラロンコン大学シリントン・タイ語研究所のタイ語能力試験（CUTFL）C1を目指す CEFR B1-B2レベル相当

<イベロアメリカ言語学科>

イベロアメリカ言語学科では、以下の能力と資質を身につけることを目的として編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を取得した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。本学科は、これらの能力を身につけ、専攻言語圏の歴史や文化や、社会に関する知識をもとに他者を深く理解し、実践的な言語運用能力を駆使し国際社会に貢献しうる自立した人材を育成することを目的とする。

<p>(1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」</p> <ul style="list-style-type: none">① 大学での学びを効果的に機能させるための基本的なアカデミック・リテラシー② 「成熟した市民」として生きるために必要な幅広い教養
<p>(2) 専攻言語の高度な運用能力及び国際社会の一員として求められる実践的な英語運用能力</p> <ul style="list-style-type: none">① 高度な語学運用能力に加え、専攻言語地域に関連する多岐にわたる教養、及び専攻言語そのものを多面的に考察し、その本質を理解する力② 地域・社会・世界との主体的な関わりにおいて、お互いを理解し合うためのコミュニケーションの基盤となる実践的な英語運用能力③ 言語運用能力の到達目標は以下の通りとする。これは、基本的に本学科の外国語の教育課程を確実に履修し単位を修得すれば到達できる目標と考える。 <p><スペイン語、ブラジル・ポルトガル語></p> <p>卒業までに全員がCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B1レベル相当に到達し、加えてより多くの学生が同B2レベル相当に到達することを目標とする。</p> <p><英語（全専攻共通）></p> <p>卒業までに全員がCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B1レベル相当に到達し、加えてより多くの学生が同B2レベル相当以上に到達することを目標とする。</p> <p>各技能及び検定等の到達目標は別表の通りとする。</p>
<p>(3) 「専攻語及び専攻語圏をはじめとするイベロアメリカの歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」</p> <ul style="list-style-type: none">① 専攻言語が話される国・地域の歴史、文化、社会、政治、経済の特質を学ぶとともに、その多様性を尊重し、広い視野で共生のあり方を考察する力② 世界におけるイベロアメリカのあり方や役割を理解し、互いに協力しながら平和と繁栄に貢献する力
<p>(4) 「グローバル社会で専門性を発揮して活躍するための力」と、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」</p> <ul style="list-style-type: none">① 専門分野における学びを有機的に結びつけて体系的な知識を創出し、多角的な観点から諸事象を捉え、それをもとに批判的な議論ができる力② 探求心を持ち、今日の国際社会が直面する諸問題を自分で発見し、国際的な視野をもって解決に向けて主体的に行動できる力③ 自身の資質や能力を継続的に発展させることにより、国際社会を舞台としたキャリアを自立的にデザインする力

(別表) 技能別語学到達目標

<スペイン語専攻>

スペイン語		
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の新聞、エッセー、メール、ビジネス文書などを読み、理解することができる。 ・専門的なテーマも含め、抽象的ないし具体的な内容からなる複雑な文の趣旨を理解することができる。
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、ラジオのニュースや番組内の会話を理解することができる。 ・日常的な事柄から大学の講義等の専門的な内容まで、地域的なバリエーションを含め、発話を理解することができる。
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・時事問題や相手の関心事項に合わせた会話や討論ができる。 ・ディスカッションでは、多様な意見を尊重しつつ、積極的に意見交換をすることができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・自国を含めた世界の社会・文化について論理的なプレゼンテーションやスピーチができる。 ・社会的、学問的、職業上の目的及び言語使用場面に応じた発言ができる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> ・論文を書いたり、報告書や企画書を作成できるようになる。 ・個人的に関心のある話題や社会的・文化的な事柄について、反対意見や少数意見の長所と短所を示しつつ、論理的な文章を書くことができる。
検定等		<p>DELE B1 以上、スペイン語技能検定 3 級以上を目指す CEFR B1 - B2 レベル相当</p>

<ブラジル・ポルトガル語専攻>

ポルトガル語		
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル語の新聞、エッセー、メール、ビジネス文書などを読み、理解することができる。 ・専門的なテーマも含め、抽象的ないし具体的な内容からなる複雑な文の趣旨を理解することができる。
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、ラジオのニュースや番組内の会話を理解することができる。 ・日常的な事柄から大学の講義等の専門的な内容まで、地域的なバリエーションを含め、発話を理解することができる。
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・時事問題や相手の関心事項に合わせた会話や討論ができる。 ・ディスカッションでは、多様な意見を尊重しつつ、積極的に意見交換をすることができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・自国を含めた世界の社会・文化について論理的なプレゼンテーションやスピーチができる。 ・社会的、学問的、職業上の目的及び言語使用場面に応じた発言ができる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> ・論文を書いたり、報告書や企画書を作成できるようになる。 ・個人的に関心のある話題や社会的・文化的な事柄について、反対意見や少数意見の長所と短所を示しつつ、論理的な文章を書くことができる。
検定等		<p>ブラジル教育省「外国人のためのポルトガル語検定試験」〈中級〉以上を目指す CEFR B1 - B2 レベル相当</p>

<国際コミュニケーション学科>

国際コミュニケーション学科では、以下の能力と資質を身につけることを目的として編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を取得した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。本学科は、これらの能力を身につけ、専攻言語圏の歴史や文化や、社会に関する知識をもとに他者を深く理解し、実践的な言語運用能力を駆使し国際社会に貢献しうる自立した人材を育成することを目的とする。

<p>(1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」</p> <p>① 大学での学びを効果的に機能させるための基本的なアカデミック・リテラシー</p> <p>② 「成熟した市民」として生きるために必要な幅広い教養</p>
<p>(2) 高度な英語の運用能力</p> <p>① 英語の4技能をバランス良く修得することで、相手の伝えたいことを理解し、自分の考えを伝達する力</p> <p>② 英語を使って文化的背景の異なる人々と意思の疎通ができる力</p> <p>③ 言語運用能力の到達目標は以下の通りとする。これは、基本的に本学科の英語の教育課程を確実に履修し単位を修得すれば到達できる目標と考える。</p> <p>・卒業までに全員がCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B2レベル相当に到達し、加えて多くの学生が同C1レベル相当に到達することを目標とする。各技能及び検定等の到達目標は別表の通りとする。</p> <p>※留学生は英語に加えて日本語の4技能をバランス良く修得することで、相手の伝えたいことを理解し、自分の考えを伝達する力を備えていること。</p>
<p>(3) 「多文化共生社会に求められるコミュニケーション能力及びグローバル社会の一員として世界に貢献するための教養と問題解決力」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」</p> <p>① 国際関係、国際社会に関する知識や日本の歴史、文化、社会に関する知識を踏まえ、他者と自らの価値を理解し、国際社会の発展に貢献する力</p> <p>② 幅広い教養を身につけ、様々なメディアを駆使し、国際社会における喫緊の話題に関して自らの考えをもって積極的に対話に参加し、問題解決に貢献する力</p>
<p>(4) 「グローバル社会において学修者自身及び他者のキャリア形成を構築し寄与する力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」</p> <p>① 国際理解の素養のもと、基本的ビジネスコミュニケーションが日英両語で運用できる力</p> <p>② 相互理解の姿勢のもと、互恵の視座で課題解決に貢献する力</p> <p>③ 日々新たな情報を自らとらえ、行動と結びつけられる力</p>

(別表) 技能別語学到達目標

		英語
理解する	読む	<ul style="list-style-type: none"> 学術的なテキストや講義資料を読み、正確に理解することができる。 政治・経済・社会・文化・スポーツなど様々な分野の文章を読み、理解することができる。(国際コミュニケーション専攻) ビジネスを扱った文献及び時事をすすんで読み、理解することができる。(国際ビジネスキャリア専攻)
	聞く	<ul style="list-style-type: none"> 抽象的で複雑な話題について、複数の情報を整理して、概要や要点を理解することができる。 政治・経済・社会・文化・スポーツなど日常的话题について、話し手の意図を理解することができる。(国際コミュニケーション専攻) 体験就業などキャリア形成の場で所属長や顧客の意図を理解することができる。(国際ビジネスキャリア専攻)
話す	やり取り	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な話題について、相手の意見を尊重しながら論理的にやり取りをすることができる。 日常的な話題について、情報や考え、気持ちを積極的に相手と伝え合うことができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な話題について、目的に応じて伝達・指導・説得する発表を論理的に展開することができる。 日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを明確・正確・簡潔に聞き手に伝えることができる。
書く		<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義において、必要に応じて要点を明確・正確・簡潔に書いてまとめることができる。 抽象的で複雑な題目について、論理的文章を書くことができる。
検定等		<p>TOEIC® L&Rテスト 800点以上を目指す</p> <p>CEFR B2 - C1レベル相当</p>

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

<外国語学部>

外国語学部では、建学の理念に基づき、高度な言語運用能力を涵養するとともに、専攻言語圏の様々な事柄に関する知識を教授することで、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる人材の育成を教育の目標とする。その上で、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質を備えた人材を育成するため、教育課程に関する方針を以下の通り設定し、これに基づいて体系的にカリキュラムを編成する。

1. 教育内容

- (1) 授業科目は、基盤教育科目、教養科目、外国語科目、研究科目、演習科目、卒業研究及び自由選択科目に区分され、これらを適切な年次に配当することによって、「言葉」と「歴史・文化・社会」の両面について、バランス良く、また体系的に学習できるカリキュラムを構成する。
- (2) 大学での学びを効果的に機能させ、キャリア形成に必要な能力と、国際社会で活躍する上で必要な幅広い教養を養成するカリキュラムを提供する。
- (3) 外国語教育に関しては、各専攻言語に具体的な到達目標を設定し、「読む、聞く、話す、書く」の技能を総合的に駆使することのできる高度で実践的な言語運用能力を養成するカリキュラムを提供する。
- (4) 国際社会における使用言語としての英語の役割を重視し、英語以外の言語を専攻している学生に対し英語科目を必修とし、専攻言語に加え英語の実践的な運用能力を養成するカリキュラムを提供する。
- (5) 言語の背景にある歴史・文化・社会等の教育については、研究科目、演習科目、学科専攻指定研究コースを設置し、様々な知識を系統立てて修得し、より専門的な知識を身につけるカリキュラムを提供する。

2. 教育方法

アクティブラーニング手法の活用、「研究演習」または「応用演習」の必修化、少人数教育の実施や海外研修の推奨などカリキュラムの実施に効果的な教育方法を取り入れる。

3. 学修成果の評価方法

各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、検定試験取得状況等を定期的に確認する。

また、各学科においても、前述の目的と関連させたカリキュラム・ポリシーを、次のとおり設定しています。

1. 教育内容

<全学科共通>

(1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」を修得するため、以下のカリキュラムを提供する。

1年次から2年次に「基盤教育科目」として「基礎演習I、II」「キャリアデザインI（基礎）」を配置する。「基礎演習I、II」では大学での学び（特に教養科目、研究科目、演習科目）をより深化させ、効果的に機能させるために「アカデミック・ライティング」「デジタル・シチズンシップ」「クリティカル・リーディング」「数的思考」及び「キャリアデザイン」に関する能力を修得するための機会を提供する。

「キャリアデザインI（基礎）」では過去・現在・未来に繋がる個人のキャリア形成を学問と社会との接続の視点から継続的に学ぶ力（生涯学習力）を涵養するカリキュラムを編成する。また、各年次に「外国語科目（選択外国語科目）」及び「教養科目」を配置し、12程度の言語のほか、人文科学、社会科学、自然科学分野などの幅広い学問領域をバランス良く学ぶカリキュラムを提供する。

<英米語学科>

(2) 「高度な英語の運用能力」を修得するため、各年次に「英語科目」を配置し、1年次から2年次では「Freshman English」、「Foundational Literacies：Reading & Writing」、「English for Academic Purposes」、「Media English」、「Academic Literacies：Reading/Writing」などによりアカデミック英語を集中的かつ総合的に学ぶカリキュラムを提供する。

さらに、3年次から4年次では「English for Liberal Arts」及び「英語専門講読」などにより「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」ことに焦点を移し、実践的かつ専門的な英語の運用能力を高めるカリキュラムを提供する。また、これと連動する形で学科指定研究科目のなかに「英語で行われる研究科目」を設け、専門領域の知識と高度な英語運用能力をいっそう有機的に結びつけるカリキュラムを編成する。

(3) 「言語そのものに対する深い洞察及び英語圏の歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」を修得するため、各年次に「導入（1～2年）」「基礎（2～3年）」「発展（3～4年）」の「学科指定研究科目」を配置する。同時に「英語研究」「英語教育研究」「英語圏地域研究」の3コースよりいずれか1コースを選択して「基礎」「発展」「英語による研究科目」を履修することにより、専門領域に関連した知識を段階的かつ体系的に修得するカリキュラムを提供する。また、学科内の研究コース、あるいは学科の枠を超えて幅広く学ぶことができるようカリキュラムを編成する。

(4) 「グローバル社会の一員として世界に貢献するための力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」を修得するため、「学科指定研究科目」に加えて全学科共通の「研究科目（その他）」を設け、多角的な視点と多面的な知識を養う。その上で、本学での学びの成果を可視化する機会として、3年次から4年次に「演習科目」を配置する。「演習科目」は「研究演習」と「応用演習」からなる。「研究演習」では学術的な観点から研究成果をまとめる。「応用演習」では、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げ学習成果をまとめる。「研究演習」の成果は、4年次に「卒業研究」としてまとめることができる。

<アジア言語学科>

- (2)-1 「専攻言語（中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語）の高度な運用能力」を修得するため、各年次に「地域言語科目」を配置する。1年次から2年次では、正確な発音、文法、語彙、会話表現等の専攻言語の基礎を徹底的に学ぶためのトレーニング科目により、総合的な専攻語の運用能力を養うカリキュラムを提供する。3年次から4年次では、スピーチやプレゼンテーションさらには通訳・翻訳・討論等を取り入れた実践科目や専攻言語地域のさまざまなテーマを扱うコンテンツベース科目により、より高度で実践的な専攻言語運用能力を養うカリキュラムを提供する。
- (2)-2 「国際社会の一員として求められる実践的な英語運用能力」を修得するため、1年次から2年次では「Freshman English」、「Sophomore English」、「アカデミック英語」、「総合英語」、「Media English」などの科目を通じて、基盤となる英語力を身につけるカリキュラムを提供する。また、3年次から4年次では、さまざまなテーマについて英語で学ぶ「English for Multicultural Communication」などの科目を通じて、実践的な英語運用能力を養うとともに、グローバル社会における課題を解決するための思考力や協働力を育成するカリキュラムを提供する。
- (3) 「専攻語及び専攻語圏をはじめとするアジアの歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」を修得するため、各年次に「導入（1～2年）」「基礎（2～3年）」「発展（3～4年）」の「専攻指定研究科目」を配置する。同時に「言語研究（中国語専攻、韓国語専攻）／言語文化研究（インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻）」及び「地域文化研究（中国語専攻）／地域社会研究（韓国語専攻、インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻）」に区分された研究コースよりいずれか1コースを選択して指定の研究科目を履修することにより、専門領域に関連した知識を段階的かつ体系的に修得するカリキュラムを提供する。また、専攻内の研究コース、あるいは学科専攻の枠を超えて幅広く学ぶことができるようカリキュラムを編成する。
- (4) 「グローバル社会で専門性を発揮して活躍するための力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」を修得するため、「専攻指定研究科目」に加えて全学科共通の「研究科目（その他）」を設け、多角的な視点と多面的な知識を養う。その上で、本学での学びの成果を可視化する機会として、3年次から4年次に「演習科目」を配置する。「演習科目」は「研究演習」と「応用演習」からなる。「研究演習」では学術的な観点から研究成果をまとめる。「応用演習」では、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げ学習成果をまとめる。「研究演習」の成果は、4年次に「卒業研究」としてまとめることができる。

<イペロアメリカ言語学科>

- (2)-1 「専攻言語（スペイン語、ブラジル・ポルトガル語）の高度な運用能力」を修得するため、各年次に「地域言語科目」を配置する。1年次から2年次では、専攻言語の基礎を徹底的に学ぶためのトレーニング科目により、総合的な専攻語の運用能力を養うカリキュラムを提供する。3年次から4年次では、通訳・翻訳・討論・スピーチ等を取り入れた実践科目や国内外のさまざまなテーマを扱うコンテンツベース科目により、より高度で実践的かつ専門的な言語の運用能力を養うカリキュラムを提供する。
- (2)-2 「国際社会の一員として求められる実践的な英語運用能力」を修得するため、1年次から2年次では「Freshman English」、「Sophomore English」、「アカデミック英語」、「Media English」などの科目を通じて、基盤となる英語力を身につけるカリキュラムを提供する。また、3年次から4年次では、さまざまなテーマについて英語で学ぶ「English for Multicultural Communication」などの科目を通じて、実践的な英語運用能力を養うとともに、グローバル社会における課題を解決するための思考力や協働力を育成するカリキュラムを提供する。

(3) 「専攻語及び専攻語圏をはじめとするイペロアメリカの歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」を修得するため、各年次に「専攻指定研究科目」を配置する。同時に「言語文化研究」及び「地域社会研究」に区分された研究コースよりいずれか1コースを選択して指定の研究科目を履修することにより、専門領域に関連した知識を段階的かつ体系的に修得するカリキュラムを提供する。また、専攻内の研究コース、あるいは学科専攻の枠を超えて幅広く学ぶことができるようカリキュラムを編成する。

(4) 「グローバル社会で専門性を発揮して活躍するための力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」を修得するため、「専攻指定研究科目」に加えて全学科共通の「研究科目（その他）」を設け、多角的な視点と多面的な知識を養う。その上で、本学での学びの成果を可視化する機会として、3年次から4年次に「演習科目」を配置する。「演習科目」は「研究演習」と「応用演習」からなる。「研究演習」では学術的な観点から研究成果をまとめる。「応用演習」では、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げ学習成果をまとめる。「研究演習」の成果は、4年次に「卒業研究」としてまとめることができる。

<国際コミュニケーション学科>

(2) 「高度な英語の運用能力」を修得するため、各年次に適切なレベルの「英語科目」を配置し、1年次から2年次では「English for International Communication I、II」「Reading/Writing」「Media English」「Advanced Reading」などにより、コミュニケーションに重点をおいた英語を集中的かつ総合的に学ぶカリキュラムを提供する。さらに、3年次から4年次では、「English for International Communication III」などにより、コミュニケーションを題材としたさまざまなテーマを英語で学ぶ、実践的かつ専門的な英語の運用能力を高めるカリキュラムを提供する。
※外国人留学生には、入学時の語学力に応じたレベルの英語科目及び、日本語総合講座などの日本語科目を提供する。

(3) 「多文化共生社会に求められるコミュニケーション能力及びグローバル社会の一員として世界に貢献するための教養と問題解決力」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」を修得するため、各年次に「専攻指定研究科目」を配置する。同時に、「コミュニケーション研究（国際コミュニケーション専攻、国際ビジネスキャリア専攻）」、「国際・日本研究（国際コミュニケーション専攻）」及び「国際ビジネス研究（国際ビジネスキャリア専攻）」コースよりいずれか1コースを選択して指定の研究科目を履修することにより、専門領域に関連した知識を段階的かつ体系的に修得するカリキュラムを提供する。また、専攻内の研究コース、あるいは学科専攻の枠を超えて幅広く学ぶことができるようカリキュラムを編成する。

(4) 「グローバル社会において学修者自身及び他者のキャリア形成を構築し寄与する力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」を修得するため、「専攻指定研究科目」に加えて全学科共通の「研究科目（その他）」を設け、多角的な視点と多面的な知識を養う。その上で、本学での学びの成果を可視化する機会として、3年次から4年次に「演習科目」を配置する。「演習科目」は「研究演習」と「応用演習」からなる。「研究演習」では学術的な観点から研究成果をまとめる。「応用演習」では、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げ学習成果をまとめる。「研究演習」の成果は、4年次に「卒業研究」としてまとめることができる。

2. 教育方法

<全学科共通>

- (1) オンライン授業を教育課程に応じ効果的に取り入れる。
- (2) 自律学習を促し、学修成果の定着をはかるため、主に専門科目にアクティブラーニングの手法を効果的に取り入れる。
- (3) 3年次より少人数の演習科目を必修化し、新たな価値の創造を可能にする対話や議論重視の教育を実施する。
- (4) 外国語科目を中心に少人数教育を実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。また、1年次からアカデミック英語を集中的かつ総合的に学ぶことにより、説得力があり筋道だったプレゼンテーションやライティングができるようにする。
- (5) 海外での体験学習（留学）を積極的に推奨する。
- (6) 準備学修（予習・復習）の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。
- (7) CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
- (8) 教員のオフィスアワーを設け、学生が自由に教員に授業内容の質問や履修計画、就職相談などをできるようにする。
- (9) 授業評価アンケートを実施し、その結果に対してフィードバックする。

3. 学修成果の評価方法

<全学科共通>

各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、検定試験取得状況等を定期的に確認する。

Ⅱ 学籍について

1. 修業年限と在学年限

1) 修業年限

4年間

本学の教育課程を修了するために必要な期間です。

ただし、3年次編入生の場合は2年間、2年次編入生の場合は3年間です。

2) 在学年限

8年間

本学において学生の身分を有している期間で、休学・停学の期間を除きます。

ただし、1年次及び2年次の在学はそれぞれ2年を越えることができません。また、3年次編入生の場合は4年間、2年次編入生の場合は6年間在学することができます。

2. 休学

病気その他やむを得ない理由で1学期間（半年）以上に渡り修学することができない者は休学することができます。保証人と十分相談のうえ、申し出てください。（教務部）

1) 休学期間

- ① 1学期間（半年）あるいは2学期間（1年）
- ② 特別な理由がある場合は、改めて許可を得た上で3年を限度として延長可
- ③ 通算して4年を超えることはできない

2) 学費一部免除

- ① 対象：学年の1学期間あるいは2学期間を通じて休学する者
- ② 免除額：授業料及び施設設備費

ただし、以下の経費の納入が必要です。

	1学期間	全学期間
在籍料	5万円	10万円
学友会費	5千円	
いしずゑ会費	1万円	
学外宿泊キャンプ費	1万円	

3) 必要なもの

- ① 休学願（所定の書式に保証人連署・捺印）
- ② その他

4) 休学手続完了期限

前期は3月末日、後期は8月末日（教務部）

※これを過ぎると休学は認められません。所定の期日までに必要な面談を終えたうえで、休学願を提出し、休学手続きを完了してください。

3. 復学

休学していた者で復学する者は、復学の手続きが必要です。（教務部）

1) 必要なもの

- ① 復学願
- ② 復学年度の学費の納入（分納もしくは全納）
- ③ （休学理由が病気や怪我等の場合）通学可能とする医師の診断書

2) 復学願提出期限

休学期間終了前に送付する復学手続きの案内に従って、所定の期日までに提出してください。

4. 退 学

病気その他やむを得ない理由によって退学を希望する場合は、保証人と十分相談のうえ、申し出てください。(教務部)

1) 必要なもの

- ① 退学願 (所定の書式に保証人連署・捺印)
- ② 学生証
- ③ 在籍確認票シール

2) 退学手続完了期限

所定の期日までに必要な面談を終えたうえで、退学願を提出し、退学手続きを完了してください。

期日超過後に退学願を提出した場合は、次の期末での退学となります。

5. 除 籍

次のいずれかに該当する者は、除籍される場合があります。

- ① 在学年限を越える者
- ② 休学期間を越えても、なお復学もしくは退学しない者
- ③ 学費納入の義務を怠った者

※除籍された場合、本学での在籍の証明が一切できません。(在籍期間証明書・成績証明書等の発行はできません)

※学則第3条の定めにより、留年は1年次、2年次についてはそれぞれ1回限りとします。2回目の留年をすると退学手続きをしなければ除籍となるので、注意してください。

6. 留 学

本学認定留学制度や国内留学制度を利用する場合、その留学期間を修業年限及び在学年限に算入します。(認定留学制度；国際戦略部、国内留学制度；教務部)

(「XI 海外留学について」、「XII 国内留学について」、並びにKUIS Campus Webキャビネット内 02. 各部署情報／02. 国際戦略部及び国際戦略部ウェブサイトを参照のこと。)

7. 転籍 (転科・転専攻)

転籍 (転科・転専攻) を希望する者は、所定の期日までに手続きをしてください。(教務部)

(「XIII 転籍 (転科・転専攻) について」を参照のこと)

8. 再入学

1) 対象者

本学を退学した者で、退学年度を含めて3学年度以内の者 (出願時)

2) 再入学先

退学時に在籍していた学科

3) 入学年次

原則として退学時の年次としますが、既修得単位が進級基準を充たしている場合は、進級年次に再入学できることもあります。

Ⅲ 授業について

1. 授業期間

本学での授業は、原則として前期15週、後期15週の2学期制をとっています。

2. 授業時間

本学における授業時間は次の通りです。

1 限目	9 : 00～10 : 30
2 限目	10 : 40～12 : 10
昼休み 60分	
3 限目	13 : 10～14 : 40
4 限目	14 : 50～16 : 20
5 限目	16 : 30～18 : 00

3. 休 講

1) 授業が教員の都合や大学の行事などにより休講になる場合

KUIS Campus Webに掲示します。

2) 全学休講になる場合

次のいずれかに該当する場合、授業を全学休講とします。

A. 交通機関が運休した場合

B. 暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

C. 自然災害や大規模な事故の発生などで学長が必要と判断した場合

A. 交通機関が運休した場合

判断基準とする路線及び区間（遅延・間引き運転を除く）

- ・ JR総武線（秋葉原～千葉）
- ・ JR京葉線（東京～蘇我）

上記の両路線が運休した場合は休講とします。ただし、いずれかの路線が運行している場合は、その限りではありません。

また、両路線のうち、1路線でも運行を開始した場合は、次の通りとします。

- ・ 午前6時00分までに運行開始の場合は、1限から平常通り
- ・ 午前10時00分までに運行開始の場合は、3限から平常通り
- ・ 午前10時00分を過ぎても不通の場合は、全時限休講とします。

B. 暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

千葉県全域もしくは千葉県北西部に出された場合は、休講とします。なお、対象となる警報は上記の2つに限り、大雨警報等は含まないので注意してください。ただし、警報が解除された場合の授業の取り扱いは、次の通りとします。

- ・ 午前6時00分までに解除の場合は、1限から平常通り
- ・ 午前10時00分までに解除の場合は、3限から平常通り
- ・ 午前10時00分を過ぎても解除されなかった場合は、全時限休講とします。

上記AまたはBの場合、大学の電話回線は緊急対応専用としますので、学生は大学へ電話で問い合わせはせず、以下の本学ホームページで確認してください。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

C. 自然災害や大規模な事故の発生などで学長が必要と判断した場合

上記AまたはBに該当しない場合でも、大規模な自然災害や事故等が発生した場合、これらの取り決めに関わらず、学長が休講を必要と判断した場合には、休講措置をとることがあります。

【注意】

- ・ 授業最終週に上記の措置が講じられた場合は、定期試験の取り扱いについては別途掲示等で連絡します。
- ・ 上記交通機関または地域以外で不通・暴風警報等の影響を受けた学生は、科目担当教員に、遅延証明等を提示した上で、その旨を申し出てください。

4. 補 講

授業が休講になった場合、補講を行う場合があります。KUIS Campus Webの掲示で連絡するので注意してください。

5. 出席管理システム

授業の出席確認は、出席管理システムによって行います。原則すべての授業で担当教員の指示により各自のスマートフォンなどから出席を登録します。登録された内容は、授業時間終了時刻後に学生自身がスマートフォンなどで確認できます。毎回の授業終了後すぐに、出席状況が正しく登録されているかどうか、各自で確認してください。

6. 出席基準について

神田外語大学が開講するすべての科目について、単位修得の前提条件として授業回数の3分の2以上の出席が必要です。欠席の理由を問わず、出席回数が満たない場合は単位修得に必要な学修量が不足となり、レポート・課題・期末試験（受験資格を喪失）等の結果を問わず不合格となります。

＜例：週1コマ（全15回）授業の場合10回以上の出席が必要（6回以上の欠席は不合格）

週2コマ（全30回）授業の場合20回以上の出席が必要（11回以上の欠席は不合格）＞

なお、各教員または各学科の運営方針により、上記と異なる基準を設け、ガイダンスやシラバス、及び初回授業にて周知する場合は、それに従うこととします。

7. 遅刻／早退の取り扱い

授業開始後20分以内に出席した場合は「遅刻」、授業終了前20分以内に退席した場合は「早退」とし、それよりも遅い出席／早い退席は欠席の扱いとします。「遅刻」・「早退」は合計3回で欠席1回の扱いとします。

8. 欠席の取り扱い

授業においては毎回の出席が要求されますが、授業を欠席する（した）場合は、すみやかに授業時に直接担当教員に欠席理由等を報告してください。「公欠」に該当しない事由で授業を欠席した場合は、理由を問わず欠席扱いとなります。なお、定期試験については別に定めます。

公欠：次の場合に限って、所定の手続きを経ることで欠席回数から除外します。

- (1) 学校感染症による出席停止（メディカルセンター）
- (2) 裁判員制度による欠席（教務部）

1) 「公欠」学校感染症に罹患した場合

学校感染症に罹患した場合は、出席停止となります。感染拡大防止のため、罹患したことがわかり次第速やかにメディカルセンターへ連絡が必要です。公欠については、大学所定の手続きを守った場合に限り認められます。

- ※ 学校感染症の種類は次ページの表を参照してください。
- ※ 学校感染症に罹患した場合の連絡及び公欠手続きの方法は、KUIS Campus Web informationで確認してください。
- ※ 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザを除き、医療機関で大学指定の「KUIS登校許可書」（以下よりダウンロードして印刷）に記入してもらう必要があります。
KUIS Campus Web→キャビネット→各部署情報→メディカルセンター→KUIS登校許可書
KUIS ホームページ→キャンパスライフ→施設案内→5号館（ミレニアムハウス）
→メディカルセンター→KUIS登校許可書

2) 「公欠」裁判員制度による欠席

裁判員制度により、学生が裁判員候補者として選任手続きのため裁判所に出頭したり、裁判員、補充裁判員として職務に従事するために授業を欠席した場合は、所定の手続きを行うことにより「公欠」として取り扱います。手続き方法は以下の通りです。

- ① 「出頭命令書」（裁判所発行）と、欠席した科目ごとに必要事項を記入した「裁判員制度による「公欠」の確認書」（以下「確認書」）を教務部に提出する。

提出期限：裁判員候補者として出頭した場合＝選任手続き期日後1週間以内

裁判員、補充裁判員として職務に従事した場合＝公判終了後1週間以内

- ※ 「確認書」は以下よりダウンロードして必要枚数を用意すること

KUIS Campus Web → キャビネット → 学生用フォルダ → 授業用
→ 裁判員制度による「公欠」の確認書

- ② 教務部が確認印を押した「確認書」を学生へ交付する。
- ③ 学生本人が「確認書（教務部確認印付）」の原本を教員に提出する。

学校感染症の種類と出席停止の基準（学校保健安全法施行規則第18条、第19条による）

種別	疾 患 名	出席停止の基準
第1種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘そう 南米出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎 ジフテリア 重症急性呼吸器症候群（SARS） 中東呼吸器症候群（MERS） 特定鳥インフルエンザ	治癒するまで
	新型インフルエンザ等感染症 指定感染症 新感染症	
第2種	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	発症後5日を経過し、かつ、症状軽快後1日を経過するまで
	インフルエンザ （特定鳥インフルエンザを除く）	発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹発現後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状消退後2日を経過するまで
	結核	医師が感染のおそれがないと認めるまで
第3種	髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	【その他の感染症】※	

※第3種【その他の感染症】は、学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要がある時に限り、学校医の意見を聞き、校長が第3種の感染症として緊急措置をとることができるもの

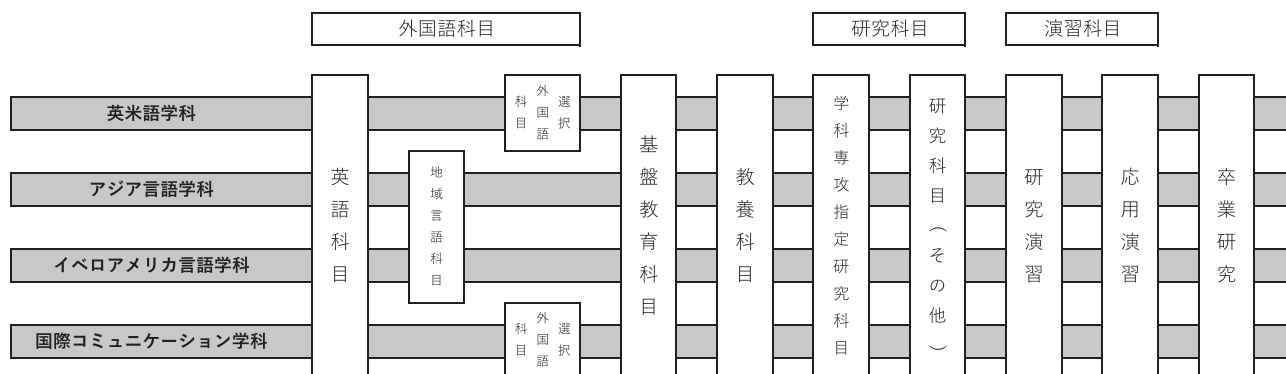
IV 卒業の要件

1. 卒業要件

外国語学部を卒業するためには、4年以上在学し、学科専攻及び各科目群で定めた授業科目・単位数の要件を満たさなければなりません。

外国語学部で卒業に要する単位数は、124単位です。

1) 学科と科目群



2) 学科専攻及び各科目群で定めた授業科目・単位数

科目群	学科専攻	英米語	アジア言語			イberoアメリカ言語		国際コミュニケーション		
			中国語	韓国語	インドネシア語 ベトナム語 タイ語	スペイン語	ブラジル・ポルトガル語	国際コミュニケーション	国際コミュニケーション 留学生	国際ビジネス キャリア
外国語科目	英語科目	45	24	24	24	24	24	40	36 ※1	40
	地域言語科目	-	34	34	30	30	30	-	-	-
	選択外国語科目	4	-	-	-	-	-	4	-	4
基盤教育科目		6	6	6	6	6	6	6	6	6
教養科目		10	10	10	10	10	10	10	10	10
研究科目	学科専攻指定研究科目	34	24	24	18	18	18	34	34	34
	研究科目(その他)	16	16	16	16	16	16	16	16	16
演習科目	研究演習	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	応用演習	4	4	4	4	4	4	4	4	4
卒業研究 ※2		(4 or 0)	(4 or 0)	(4 or 0)	(4 or 0)	(4 or 0)	(4 or 0)	(4 or 0)	(4 or 0)	(4 or 0)
自由選択科目		5	6	6	16	16	16	10	18	10
合計		124	124	124	124	124	124	124	124	124

※1 国際コミュニケーション専攻留学生の英語科目36単位には、日本語科目も含まれる。

※2 卒業研究4単位の履修は任意(選択科目)。修得した場合は、研究科目(その他)に加算される。

2. 学 位

4年以上在学し、卒業要件を満たした学生は、その学科を卒業したものとして、学位が与えられます。

3. 卒業発表

学期末に掲示（Web）をもって行います。定められた期間内に必ず本人が確認してください。

4. 9月卒業

- イ. 4年次生として1年を超えて在学し、卒業要件単位を取得できなかった学生を対象に、9月（前期終了時）卒業制度が適用されます。
- ロ. 前期終了時点で卒業要件を満たした場合、9月15日付で卒業となります。ただし、夏期集中講義科目の単位は9月卒業の卒業要件単位に算入することはできませんので前期の履修登録の際には注意してください。
- ハ. 3月卒業希望者は、前期履修登録時に「3月卒業申請書」を教務部へ提出して手続きを行ってください。（手続きを行わない場合は、前期終了時に卒業要件を満たしていれば自動的に9月卒業となります。）

V 進級基準について

各学科専攻とも、1年次、2年次に定められた科目の修得を進級の基準とします。進級基準を満たすことができなかった場合は留年となり、翌年度に未修得科目を履修し、すでに修得した単位を含めて進級基準を満たさなければなりません。

- ア. 各学科専攻の進級基準対象となる科目の詳細は、以下の表を参照してください。
- イ. 学則第3条の規定により、留年は1年次、2年次についてはそれぞれ1回限りとします。同一年次で2回目の留年をすると除籍となるので、注意してください。
- ウ. 3年次以降については基準を設けません。
- エ. 進級発表は、学年末に掲示（Web）をもって行います。定められた期間内に、必ず本人が確認してください。
- オ. アジア言語学科、イペロアメリカ言語学科の一部の専攻では、所定の条件を満たした場合のみ、進級再試験を受験することができます。詳細は「IX 試験及び学力評価について」の「5. 2年次、3年次への進級再試験」を参照してください。

【英米語学科】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	Freshman English I	4	16単位中 12単位 以上修得	28単位中 24単位 以上修得
	Freshman English II	4		
	Foundational Literacies: Reading & Writing I	2		
	Foundational Literacies: Reading & Writing II	2		
	English for Academic Purposes I	2		
	English for Academic Purposes II	2		
2年次	Media English I	2	/	
	Media English II	2		
	Academic Literacies: Reading I	2		
	Academic Literacies: Reading II	2		
	Academic Literacies: Writing I	2		
	Academic Literacies: Writing II	2		

【アジア言語学科 中国語専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	中国語基礎Ⅰ(a)	4	12単位 すべて修得	修得済
	中国語基礎Ⅰ(b)	2		
	中国語基礎Ⅱ(a)	4		
	中国語基礎Ⅱ(b)	2		
2年次	中国語基礎Ⅲ(a)	4	/	12単位 すべて修得
	中国語基礎Ⅲ(b)	2		
	中国語基礎Ⅳ(a)	4		
	中国語基礎Ⅳ(b)	2		

【アジア言語学科 韓国語専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	韓国語基礎Ⅰ	5	10単位 すべて修得	修得済
	韓国語基礎Ⅱ	5		
2年次	韓国語基礎Ⅲ	5	/	10単位 すべて修得
	韓国語基礎Ⅳ	5		



【アジア言語学科 インドネシア語専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	インドネシア語基礎Ⅰ(a)	1	10単位中 8単位 以上修得	修得済
	インドネシア語基礎Ⅰ(b)	1		
	インドネシア語基礎Ⅰ(c)	1		
	インドネシア語基礎Ⅰ(d)	1		
	インドネシア語基礎Ⅰ(e)	1		
	インドネシア語基礎Ⅱ(a)	1		
	インドネシア語基礎Ⅱ(b)	1		
	インドネシア語基礎Ⅱ(c)	1		
	インドネシア語基礎Ⅱ(d)	1		
	インドネシア語基礎Ⅱ(e)	1		
2年次	インドネシア語基礎Ⅲ(a)	1	10単位中 8単位 以上修得	修得済
	インドネシア語基礎Ⅲ(b)	1		
	インドネシア語基礎Ⅲ(c)	1		
	インドネシア語基礎Ⅲ(d)	1		
	インドネシア語基礎Ⅲ(e)	1		
	インドネシア語基礎Ⅳ(a)	1		
	インドネシア語基礎Ⅳ(b)	1		
	インドネシア語基礎Ⅳ(c)	1		
	インドネシア語基礎Ⅳ(d)	1		
	インドネシア語基礎Ⅳ(e)	1		

【アジア言語学科 ベトナム語専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	ベトナム語基礎Ⅰ(a)	1	10単位中 8単位 以上修得	修得済
	ベトナム語基礎Ⅰ(b)	1		
	ベトナム語基礎Ⅰ(c)	1		
	ベトナム語基礎Ⅰ(d)	1		
	ベトナム語基礎Ⅰ(e)	1		
	ベトナム語基礎Ⅱ(a)	1		
	ベトナム語基礎Ⅱ(b)	1		
	ベトナム語基礎Ⅱ(c)	1		
	ベトナム語基礎Ⅱ(d)	1		
	ベトナム語基礎Ⅱ(e)	1		
2年次	ベトナム語基礎Ⅲ(a)	1	10単位中 8単位 以上修得	修得済
	ベトナム語基礎Ⅲ(b)	1		
	ベトナム語基礎Ⅲ(c)	1		
	ベトナム語基礎Ⅲ(d)	1		
	ベトナム語基礎Ⅲ(e)	1		
	ベトナム語基礎Ⅳ(a)	1		
	ベトナム語基礎Ⅳ(b)	1		
	ベトナム語基礎Ⅳ(c)	1		
	ベトナム語基礎Ⅳ(d)	1		
	ベトナム語基礎Ⅳ(e)	1		

【アジア言語学科 タイ語専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	タイ語基礎Ⅰ(a)	1	10単位中 8単位 以上修得	修得済
	タイ語基礎Ⅰ(b)	1		
	タイ語基礎Ⅰ(c)	1		
	タイ語基礎Ⅰ(d)	1		
	タイ語基礎Ⅰ(e)	1		
	タイ語基礎Ⅱ(a)	1		
	タイ語基礎Ⅱ(b)	1		
	タイ語基礎Ⅱ(c)	1		
	タイ語基礎Ⅱ(d)	1		
	タイ語基礎Ⅱ(e)	1		
2年次	タイ語基礎Ⅲ(a)	1	10単位中 8単位 以上修得	
	タイ語基礎Ⅲ(b)	1		
	タイ語基礎Ⅲ(c)	1		
	タイ語基礎Ⅲ(d)	1		
	タイ語基礎Ⅲ(e)	1		
	タイ語基礎Ⅳ(a)	1		
	タイ語基礎Ⅳ(b)	1		
	タイ語基礎Ⅳ(c)	1		
	タイ語基礎Ⅳ(d)	1		
	タイ語基礎Ⅳ(e)	1		

【イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	スペイン語基礎Ⅰ(a)	2	10単位中 7単位 以上修得	修得済
	スペイン語基礎Ⅰ(b)	3		
	スペイン語基礎Ⅱ(a)	2		
	スペイン語基礎Ⅱ(b)	3		
2年次	スペイン語基礎Ⅲ(a)	2	10単位中 7単位 以上修得	
	スペイン語基礎Ⅲ(b)	2		
	スペイン語基礎Ⅲ(c)	1		
	スペイン語基礎Ⅳ(a)	2		
	スペイン語基礎Ⅳ(b)	2		
	スペイン語基礎Ⅳ(c)	1		

【イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	ポルトガル語基礎Ⅰ(a)	2	10単位中 8単位 以上修得	修得済
	ポルトガル語基礎Ⅰ(b)	2		
	ポルトガル語基礎Ⅰ(c)	1		
	ポルトガル語基礎Ⅱ(a)	2		
	ポルトガル語基礎Ⅱ(b)	2		
	ポルトガル語基礎Ⅱ(c)	1		
2年次	ポルトガル語基礎Ⅲ(a)	2	10単位中 8単位 以上修得	
	ポルトガル語基礎Ⅲ(b)	1		
	ポルトガル語基礎Ⅲ(c)	1		
	ポルトガル語基礎Ⅲ(d)	1		
	ポルトガル語基礎Ⅳ(a)	2		
	ポルトガル語基礎Ⅳ(b)	1		
	ポルトガル語基礎Ⅳ(c)	1		
	ポルトガル語基礎Ⅳ(d)	1		

【国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件	
			1年→2年	2年→3年
1年次	English for International Communication Ⅰ (a)	4	16単位中 12単位 以上修得	28単位中 22単位 以上修得
	English for International Communication Ⅰ (b)	4		
	Reading/Writing Ⅰ	4		
	Reading/Writing Ⅱ	4		
2年次	English for International Communication Ⅱ (a)	2		
	English for International Communication Ⅱ (b)	2		
	Media English Ⅰ	2		
	Media English Ⅱ	2		
	Advanced Reading Ⅰ	2		
	Advanced Reading Ⅱ	2		

【国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻 留学生】

進級基準は定めない。

カリキュラム表に従い、指定されたクラスの卒業要件単位を修得すること。

【国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻】

	授 業 科 目	単位数	進 級 条 件		
			1年→2年	2年→3年	
1年次	English for International Communication I (a)	4	16単位中 12単位 以上修得	28単位中 22単位 以上修得	
	English for International Communication I (b)	4			
	Reading/Writing I	4			
	Reading/Writing II	4			
2年次	English for International Communication II (a)	2			28単位中 22単位 以上修得
	English for International Communication II (b)	2			
	Media English I	2			
	Media English II	2			
	Advanced Reading I	2			
	Advanced Reading II	2			

VI 単位と時間数

1. 単位制度

単位とは、個々の科目の学修量を示す基準であり、大学での学修はすべて単位制となっています。全ての授業科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録を行い、授業を受け、かつ試験その他の方法により合格と判定された場合、単位が与えられます。

それぞれの授業科目に与えられている単位を一定の基準に従って修得し、修得単位の合計が学則に定められた卒業要件単位数を満たせば卒業の資格が与えられます。

2. 単位と時間数

イ. 1学年は前期・後期の2学期に分かれています。各学期は原則として15週で1学期、30週で1学年としています。

ロ. 1単位は原則として、教室の内外合わせて45時間の学修に対して与えられます（教室内の授業時間＋自学自習の時間）。したがって、1週につき教室内外3時間・15週をもって1単位とします。ただし、本学においては授業時間割の1/2時限（45分）を1時間とみなし、1時限は2時間とみなします。

ハ. 単位は科目の性質によって次のように分類されます。

授業科目	学修時間	内 訳	
		授業（教室内）	自学自習（教室外）
外国語科目※ 基盤教育科目 教養科目 研究科目 演習科目	45時間 （毎週3時間15週）	15時間 （毎週1時間15週）	30時間 （毎週2時間15週）
外国語科目 （☆トレーニング科目） 選択外国語科目 体育・スポーツ	45時間 （毎週3時間15週）	30時間 （毎週2時間15週）	15時間 （毎週1時間15週）

※ 時間数と単位数の計算について本学の外国語科目の中には講義科目の扱いを受けるものがあります。

☆ トレーニング科目とは語学の訓練や実技を中心に行う科目を言います。

Ⅶ 履修登録単位数の上限・「卒業見込証明書」の発行

1. 各学年における履修登録単位数の上限について

1～3年次は前期・後期にそれぞれ履修登録できる単位数を20単位までとします。また、4年次は前期・後期にそれぞれ履修登録できる単位数を26単位までとします。これは少数の授業科目をより深く実質的に学習してもらうことをねらいとするものです。ただし、例外等については下記の【履修登録上限単位数に関する注意点】を参照してください。

	前期履修登録	後期履修登録
1～3年次	20単位	20単位
4年次以降	26単位	26単位

※2年次・3年次編入生の2～3年次履修登録単位数は各学期26単位とします。

※この規定は2021年度入学者から適用されます。2020年度以前入学者は上限単位数が異なりますので注意してください。

【履修登録上限単位数に関する注意点】

- ① 以下の科目の履修は履修登録上限単位数から除外します。
 - ・ Effective Learning Module I
 - ・ Effective Learning Module II
 - p.52【全学科専攻 英語科目分野・選択必修・選択科目 Effective Learning Module】を参照
 - ・ 「トライ・外国語」、「トライ・ことばと文化」
 - ・ 教育職員免許状取得に必要な科目のうち、以下の分野の科目
 - (1) 教科及び教科の指導法に関する科目のうち、ロ) 各教科の指導法（8～12単位）
 - (2) 教育の基礎的理解に関する科目（11単位）
 - (3) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（10単位）
 - (4) 教育実践に関する科目（8単位）
 - p.112～「XV 教職課程履修要項」B 教職課程の履修について<各学科共通部分>の表を参照
- ② 夏期集中講義科目の履修登録は、前期登録単位数に数えるものとします。
- ③ 春期集中講義科目の履修登録は、後期登録単位数に数えるものとします。
- ④ 通年科目の履修登録は、前期登録単位数と後期登録単位数に2分割して数えるものとします。
- ⑤ 入学前及び留学先で修得した科目の認定単位は履修登録上限単位数から除外します。
- ⑥ 検定試験、海外実地研究、海外実地研修、学習支援活動ボランティア、ビジネス・インターンシップは履修登録上限単位数から除外します。
- ⑦ 前学期のGPA得点が3.2以上の成績優秀者は、履修登録時に履修登録上限単位数を超えて履修登録できるものとします。
(夏期集中講義科目のGPAは前期分として加算されますが、一部科目を除き成績評価の発表が後期開始後であるため上限単位数免除の計算外とします。)
- ⑧ 教職課程履修者又は日本語教員養成課程履修者で考慮すべき事由を有しているものに限り、履修登録上限単位数を超えて履修できる場合があります。ただし、事前に教務部に申し出て、次の条件を満たしていると認められたものに限り、
 - 1) 履修上限単位数により、4年間での課程履修が困難であることが明らかな者。
 - 2) 履修上限単位数を超えて登録するに足る学力を有している者。

2. 「卒業見込証明書」の発行について

3年次終了までに80単位以上を修得していない者に対しては、「卒業見込証明書」（就職活動等で必要とされる）が発行できないので、十分注意して履修計画を立ててください。

VIII 授業科目について

1. 履修上の注意

イ. 授業科目の履修にあたっては、履修年次に注意してください。

「履修年次」欄の「1～4」という表記は、1年次から4年次までの間にいつでも履修できるということを示しています。「2～4」「3～4」についても同様です。

ロ. 必修・選択必修・選択について十分注意してください。

ハ. 履修条件を設けている授業科目があるので、科目表及びシラバスで確認してください。なお語学検定試験のスコアを用いた履修基準については、以下の表を参照してください。

	TOEIC® L&R ※1	TOEFL®		IELTS	実用英語技能検定
		iBT ※2	ITP		
S基準	800	80	550	6.5	準1級
A基準	730	68	520	6.0	準1級 1次試験合格
B基準	650	61	500	5.5	
C基準	600	54	480	4.5	

・注意事項（単位認定においても同様）

※1 TOEIC L&R IPを含みます。

※2 MyBest Scoresは利用できません。

前ページまでの折り込み表は、各学科専攻別のカリキュラムをまとめたものです。履修にあたっては、自身の学科専攻のカリキュラム表と、「4. 授業科目の紹介」を参照してください。

2. 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付して分類し、学習段階や順序を整理し、教育課程をより体系的に理解するためのツールです。履修科目を選択する際などに活用してください。

(1) 科目ナンバリングの付番原則

例) Freshman English I の科目ナンバー

ENG 1 11

科目区分コード 授業レベル 管理上の通し番号

(2) コードの詳細

(2)-1. 科目区分コード

科目群	科目区分コード
英語科目	ENG
地域言語科目	各言語の国コード3桁 (JISコード)
選択外国語科目	ElectiveのE + 各言語の国コード2桁 (JISコード)
基盤教育科目	分野・教科により付与 (ART, BAS, COMなど)
教養科目	
研究科目	
演習科目	SEM
卒業研究	GRA

(2)- 2. 授業レベル

コード	レベル	身につく能力	主な科目系列
100番台	入門	入門的・初歩的な知識を修得し、幅広い視野を得る	導入科目及び概論系の科目
200番台	初級	各学問分野における基礎的な知識を修得する	概論系の科目
300番台	中級	実践的・専門的に高度な内容を扱い、専門的知識を修得する	各論系、特論系の科目
400番台	上級	専門領域の演習や研究を通じて、専門知識を総合的に活用する力が身につく	専門的、応用的な科目

3. 授業科目の紹介

(1) 外国語科目

外国語科目のうち、各学科専攻の必修英語科目及びアジア言語学科・イベロアメリカ言語学科の各専攻の地域言語科目は、他の学科専攻の学生は履修できません。

選択必修となる外国語科目は学科により異なっており、他の学科専攻の選択必修科目を履修した場合は、自由選択科目となります。選択必修科目または自由選択科目となるTOEFL演習・TOEIC演習については、(8) 自由選択科目別表3で詳細を確認してください。

【英米語学科】

＜必修英語科目の履修についての注意＞

英米語学科の必修英語科目は、以下の表の通りとなります。1・2年次の必修英語科目は次の学年への進級基準になっており、指定されたクラスで履修します。3・4年次の必修英語科目は履修条件が設定され、自分の選んだクラスで履修します。

科 目 名	履修年次	単位数	履修条件・備考
Freshman English I / II	1	各 4	
Foundational Literacies: Reading & Writing I / II	1	各 2	
English for Academic Purposes I / II	1	各 2	
Media English I / II	2	各 2	
Academic Literacies: Reading I / II	2	各 2	
Academic Literacies: Writing I / II	2	各 2	
English for Liberal Arts	3～4	各 4	TOEFL C基準 (ITP 480, iBT 54) またはIntensive Academic Reading I 3年次前期は8単位まで履修可 12単位を超えて修得した場合は、自由選択科目となる
英語専門講読	3～4	各 2	TOEFL B基準 (ITP 500, iBT 61) またはIntensive Academic Reading II 3年次2単位、4年次2単位を履修上限とする。3年次で単位未修得の場合は4年次に4単位履修可 4単位を超えて修得した場合は自由選択科目となる ※留学時の単位振替不可

＜選択必修英語科目の履修についての注意＞

英米語学科の選択必修英語科目は、「TOEFL 演習」(1単位)です。3・4年次の必修科目である「English for Liberal Arts」はTOEFL C基準 (ITP 480, iBT 54)、「英語専門講読」はTOEFL B基準 (ITP 500, iBT 61) が履修条件となることから、1・2年次のうちに「TOEFL演習」の科目を単位修得できるように努めてください。

なお、1・2年次のうちに「TOEFL 演習」の単位が修得できなかった場合は、3年次以降もTOEFL演習科目を履修することになります。3年次前期以降は、基準を達成できなかった該当者のみに開講される週2コマの科目「Intensive Academic Reading I」を履修することもできますが、その科目の単位も修得できなかった場合は、選択必修英語科目に関する卒業要件を満たすことができないため、卒業できません。1年次から計画的に英語を学習し、必要単位を修得できるよう努めてください。

イ. TOEFL演習 (選択必修科目)

「TOEFL演習」は、他の科目と同様に前期または後期の履修登録期間に登録した上で、①授業に出席し*、②TOEFL ITPまたはTOEFL iBTを受験してそれぞれのレベルで目標とするスコアを取得することで単位を修得する科目です (TOEFL iBTでは期末試験で60点をクリアすることでも単位修得が可能です)。このうち、TOEFL ITP 480演習は①授業に出席し*、②課題テストの70%をクリアし、③TOEFL ITPまたはTOEFL iBTを受験して目標とするスコアを取得することで単位を修得する科目です。授業を履修したが①～③のいずれかの条件が整わず不合格の場合は、次の学期以降に再履修してください。

*欠席回数が5回以上の場合、必要な学修量が不足となるため、単位を修得できません。

TOEFL ITP 480点は、英米語学科3・4年次の必修科目である「English for Liberal Arts」の履修基準であるTOEFL C基準を満たすスコアでもあるので、授業に真面目に取り組み、できるだけ早い学年で「TOEFL ITP 480演習」の単位を修得できるようにしてください。

同様に、TOEFL ITP 500点は、英米語学科3・4年次の必修科目である「英語専門講読」の履修条件であるTOEFL B基準を満たすスコアでもあるので、「TOEFL ITP 500演習」の授業を活用し、できるだけ早い学年でスコアを達成できるようにしてください。

<履修上の特例措置>

・ 「TOEFL ITP 480演習」を履修する以前にTOEFL ITP 480点 (iBT54点) 以上を取得した場合は、次のように扱います。

1) 入学前に学内実施するTOEFL ITPを受験し480点以上取得した場合 (入学時にスコア取得済)
→ 1年次前期の「TOEFL ITP 480演習」(1単位) を単位認定した上で履修免除する。

2) 入学後に受験したTOEFLテストでITP480点 (iBT54点) 以上を取得した場合
→ 取得したスコアは単位修得条件③の取得スコアとして有効とするが、選択必修英語科目として「TOEFL ITP480演習」(1単位) を履修し、①、②の条件を満たして単位を修得すること。

なお、希望する場合は「TOEFL ITP 480演習」ではなく「TOEFL ITP 500演習」、「TOEFL iBT 68演習 Listening/Reading」、「TOEFL iBT 68演習 Speaking/Writing」、「TOEFL iBT 80演習 Listening/Reading」、「TOEFL iBT 80演習 Speaking/Writing」(各1単位) から1科目を履修し、単位修得することも認める (履修条件に注意すること)。

ロ. Intensive Academic Reading I / II

3・4年次の必修科目である「English for Liberal Arts」を3年次前期から履修するには、1・2年次のうちにTOEFL C基準 (ITP 480, iBT 54) を達成することが必要です。達成できなかった場合、3年次前期に「Intensive Academic Reading I」を履修・単位修得して、3年次後期以降「English for Liberal Arts」を履修します。

同様に、3・4年次の必修科目である「英語専門講読」を3年次前期から履修するには、1・2年次のうちにTOEFL B基準 (ITP 500, iBT 61) を達成することが必要です。達成できなかった場合、3年次後期に「Intensive Academic Reading II」を履修・単位修得して、4年次前期以降「英語専門講読」を履修します。

また、英米語学科指定の研究科目である選択必修Ⅲ群の履修にあたっては、B基準またはC基準 (TOEFL以外の試験によるB基準・C基準も可) が必要となりますが、基準を達成できず、3年次以降にIntensive Academic Reading I / IIの単位修得をした場合は、これらの科目の履修に限り認められます。ただし、B基準またはC基準が履修条件となる学内の他の科目については、Intensive Academic Reading I / IIの単位修得をしても、履修条件を満たしたことはないので注意してください。

科目名	履修年次	単位数		履修条件・備考
		選択必修	選択	
Intensive Academic Reading I	3～4	2		TOEFL C基準 (ITP 480, iBT 54) 未満 3年 <u>前期</u> 以降履修可 ※English for Liberal Arts、学科指定研究科目 選択必修Ⅲ群 基礎科目の履修条件
Intensive Academic Reading II	3後～4		2	TOEFL B基準 (ITP 500, iBT 61) 未満 3年 <u>後期</u> 以降履修可 Intensive Academic Reading I と同時履修可 ※英語専門講読、学科指定研究科目 選択必修Ⅲ群 発展科目の履修条件

【アジア言語学科 中国語専攻・韓国語専攻 必修英語科目】

科 目 名	履修年次	単位数	履修条件・備考
Freshman English I / II (CK)	1	各 2	
総合英語 I / II	1	各 1	
Sophomore English I / II (CK)	2	各 2	Freshman English I / II (CK)
総合英語 III / IV	2	各 1	総合英語 I / II
English for Multicultural Communication	3 ~ 4	各 4	Freshman English I / II (CK) 及び Sophomore English I / II (CK) 3年次は前期 4 単位、後期 4 単位を履修上限とする。3年次前期で単位未修得の場合は3年次後期で8単位履修可 8単位を超えて修得した場合は、英語選択必修科目となる

＜必修英語科目の履修についての注意＞

- イ. 1年次、2年次に、前期の必修英語科目が修得できなかった場合でも、後期の同一名称の科目を先に履修することができます（例：Sophomore English I (CK)が未修得でもSophomore English II (CK)を履修可能）。その場合は、未修得科目を次の年度に再履修し、修得しなければなりません。
- ロ. 必修の英語科目のうち、English for Multicultural Communication以外はあらかじめクラスが指定されています。自分がどのクラスに属するかは、後期の分も含め年度初めにKUIS Campus Webで確認してください。
- ハ. 3・4年次のEnglish for Multicultural Communicationは事前登録制となっています。KUIS Campus Webに掲示される手順に従い、学期開始前に履修希望クラスを提出してください。
- ニ. 2・3年生に進級後、下位学年の未修得科目がある場合、再履修する科目についてもあらかじめクラスが指定されているので、指定されたクラスで履修してください。
- ホ. 留年した場合、必修の英語科目については、それぞれの科目の履修条件を満たしていれば上位学年の科目を履修することができます。この場合もEnglish for Multicultural Communication以外はあらかじめクラスが指定されているので、年度初めにKUIS Campus Webで自身のクラスを確認し、指定されたクラスで履修してください。
- ヘ. 英語科目は直接的な進級基準にはなっていませんが、一定の科目の単位修得ができていない場合、次の必修科目の履修を開始できないことから、計画的に単位修得しないと4年間で卒業できなくなります。2年次終了の段階でFreshman English II (CK)の単位が修得できていない場合、3年次終了の段階でSophomore English II (CK)、総合英語 I / IIの単位が修得できていない場合などは、4年次に必要な英語科目が履修できず、4年間で卒業できなくなるので、十分注意してください。

【アジア言語学科 インドネシア語・ベトナム語・タイ語専攻／

イペロアメリカ言語学科 スペイン語・ブラジル・ポルトガル語専攻 必修英語科目】

科 目 名	履修年次	単位数	履修条件・備考
Freshman English I / II (ML)	1	各2	
アカデミック英語 I / II	1	各2	
Sophomore English I / II (ML)	2	各2	Freshman English I / II (ML)
Media English I / II (ML)	2	各2	アカデミック英語 I / II
English for Multicultural Communication	3～4	4	Freshman English I / II (ML) 及び Sophomore English I / II (ML) 4単位を超えて修得した場合は、英語選択必修科目となる。ただし、3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする

<必修英語科目の履修についての注意>

- イ. 1年次、2年次に、前期の必修英語科目が修得できなかった場合でも、後期の同一名称の科目を先に履修することができます（例：Sophomore English I (ML)が未修得でもSophomore English II (ML)を履修可能）。その場合は、未修得科目を次の年度に再履修し、修得しなければなりません。
- ロ. 必修の英語科目のうち、English for Multicultural Communication以外はあらかじめクラスが指定されています。自分がどのクラスに属するかは、後期の分も含め年度初めにKUIS Campus Webで確認してください。
- ハ. 3・4年次のEnglish for Multicultural Communicationは事前登録制となっています。KUIS Campus Webに掲示される手順に従い、学期開始前に履修希望クラスを提出してください。
- ニ. 2・3年生に進級後、下位学年の未修得科目がある場合、再履修する科目についてもあらかじめクラスが指定されているので、指定されたクラスで履修してください。
- ホ. 留年した場合、必修の英語科目については、それぞれの科目の履修条件を満たしていれば上位学年の科目を履修することができます。この場合もEnglish for Multicultural Communication以外はあらかじめクラスが指定されているので、年度初めにKUIS Campus Webで自身のクラスを確認し、指定されたクラスで履修してください。
- ヘ. 英語科目は直接的な進級基準にはなっていませんが、一定の科目の単位修得ができていない場合、次の必修科目の履修を開始できないことから、計画的に単位修得しないと4年間で卒業できなくなります。2年次終了の段階でFreshman English II (ML)の単位が修得できていない場合、3年次終了の段階でSophomore English II (ML)、アカデミック英語 I / IIの単位が修得できていない場合などは、4年次に必要な英語科目が履修できず、4年間で卒業できなくなるので、十分注意してください。

【国際コミュニケーション学科】(留学生を除く)

＜必修英語科目・選択必修英語科目の履修についての注意＞

国際コミュニケーション学科の必修英語科目は、以下の表の通りとなります。1・2年次の必修英語科目は次の学年への進級基準になっており、指定されたクラスで履修します。3・4年次の必修英語科目は、国際コミュニケーション専攻については自分の選んだクラスで、国際ビジネスキャリア専攻については指定されたクラスで履修します。

科目名	履修年次	単位数	履修条件・備考
English for International Communication I (a)/(b)	1	各4	
Reading/Writing I / II	1	各4	
English for International Communication II (a) / (b)	2	各2	
Media English I / II	2	各2	
Advanced Reading I / II	2	各2	
【国際コミュニケーション専攻のみ】 English for International Communication III	3～4	各4	C基準 12単位を超えて修得した場合は、自由選択科目となる ただし3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする
【国際ビジネスキャリア専攻のみ】 English for International Communication III (IBC)	3前	4	English for International Communication IIIとは別科目（末尾に（IBC）の記載がある科目を指定クラスで受講すること）

イ. English for International Communication III (EIC III)の履修条件について（国際コミュニケーション専攻）

3・4年次必修科目のEnglish for International Communication III (EIC III)は、C基準が履修条件になっています。2年次終了時までにTOEIC L&R 600点、TOEFL iBT 54点、TOEFL ITP 480点、IELTS 4.5点のいずれかを満たすようにしてください。

2年次終了時にC基準未達成の場合、3年次に「TOEIC 600演習」を履修して、TOEIC L&R 600点以上の取得を目指してください。3年次前期に600点以上を取得できれば、3年次後期からEIC IIIを履修できます。3年次後期に「TOEIC 600演習」を履修して600点未達成の場合、「EIC III履修認定試験」を受けることができます。合格すれば4年次前期からEIC IIIを履修できます。

※ 「EIC III履修認定試験」に合格した場合でも、C基準が履修条件となる学内の他の科目については、履修条件を満たしたことはありませんので注意してください。

ロ. 選択必修英語科目について（国際ビジネスキャリア専攻）

国際ビジネスキャリア専攻の選択必修英語科目は8単位の修得が必要ですが、そのうち4単位はビジネス英語 I / II（各2単位、履修年次1～4年）またはEnglish for International Communication III（4単位、履修年次3～4年）から修得しなければなりません。English for International Communication IIIは、English for International Communication III (IBC)とは別科目でクラス指定がされておらず、学期初めの抽選に申し込む必要があります。加えて、履修にあたってはC基準の取得が必要となります。

【アジア言語学科・イペロアメリカ言語学科・国際ビジネスキャリア専攻 英語科目分野・選択必修科目 Effective Learning Module】

【英米語学科・国際コミュニケーション専攻 自由選択科目（*） Effective Learning Module】

＜履修についての注意＞

科目名	履修年次	単位数	履修条件・備考
Effective Learning Module I (ELM I)	1～4	1	SALCラーニングアドバイザーのサポートを受けながら、自分に合った効果的な言語学習方法を学ぶコース。 重複履修は不可、評価は「P」
Effective Learning Module II (ELM II)	1～4	1	ELM IまたはELLC I で学んだことを踏まえ、SALCラーニングアドバイザーのサポートを受けながら自分の決めた目標に取り組み、学習者としての力を更に伸ばすコース。 履修条件：ELM IまたはELLC Iを履修済、またはこれに相当する能力を有すること。 重複履修可、評価は「P」

イ. 履修登録は必要ありませんが、モジュールの登録は必要です。各学期の初めに出されるKUIS Campus WebのSALCモジュールの受講に関する説明に従い、オンライン登録してください。

ロ. オンライン登録後に行われる各モジュールの説明会に必ず出席してください。

ハ. 各モジュールの履修期間は1学期間です。

ニ. ELM IとEffective Language Learning Course I (ELLC I)は同時履修できません。

ホ. ELM IIとEffective Language Learning Course II (ELLC II)は同時履修できません。

ヘ. 履修登録上限単位数には含まれません。

（*）国際コミュニケーション学科留学生が履修した場合、英語・日本語選択科目となります。

【共通英語科目一覧】

科目名	履修年次	単位数	学科指定状況					関連情報・備考
			英米語学科	アジア言語学科 イペロアメリカ 言語学科	国際コミュニケーション学科			
		国際コミュニ ケーション専攻			国際コミュニ ケーション専攻 留学生	国際ビジネス キャリア専攻		
時事英語 I / II	1～4	2	自由選択	選択必修	自由選択	選択必修	選択必修	時事英語 II の履修条件： 時事英語 I または C 基準 (4 単位まで履修可)
ビジネス英語 I / II	1～4	2	自由選択	選択必修	自由選択	選択必修	選択必修	
Oral Communication	1～4	1	自由選択	選択必修	自由選択	自由選択	自由選択	
Effective Language Learning Course I / II	1～4	1	自由選択	選択必修	自由選択	選択必修	選択必修	本ページ上段参照 ※ 1
Effective Learning Module I / II	1～4	1	自由選択	選択必修	自由選択	選択必修	選択必修	※ 1
TOEIC500/600/700/800/900演習	1～4	1	自由選択	選択必修	自由選択	選択必修	選択必修	履修条件はp.86を参照
TOEFL ITP480/500演習	1～4	1	選択必修	自由選択	自由選択	選択必修	自由選択	履修条件はp.87を参照
TOEFL iBT68/80演習 (Listening/Reading)	1～4	1	選択必修	自由選択	自由選択	選択必修	選択必修	履修条件はp.87を参照
TOEFL iBT68/80演習 (Speaking/Writing)	1～4	1	選択必修	自由選択	自由選択	選択必修	選択必修	履修条件はp.87を参照
検定試験（英語）	1～4	2～6	自由選択	選択必修	自由選択	選択必修	自由選択	単位認定条件はp.84～85 を参照

※ 1 「II」の履修条件：Effective Language Learning Course I 又は Effective Learning Module I (IIは重複履修可)

(2) 選択外国語科目

選択外国語科目は、12の言語（中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、アラビア語、ポルトガル語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語）が開講されています。12の言語とも、Ⅰ(a)、Ⅰ(b)、Ⅱ(a)、Ⅱ(b)が設定されています。また、一部の言語にはⅢ(a)、Ⅲ(b)が設定されています。科目の詳細は以下のとおりです。

	難易度	開講期	授業回数	科目区分	単位数	備考
Ⅰ(a)	初級	前期	週2回	英米語・国際コミュニケーション学科 選択必修	各2	
Ⅰ(b)		後期				
Ⅱ(a)	中級	前期	週1回	選択	各1	(a)(b)それぞれ2単位、最大4単位まで履修可
Ⅱ(b)		後期				
Ⅲ(a)	上級	前期				(a)(b)それぞれ4単位、最大8単位まで履修可
Ⅲ(b)		後期				

イ. 英米語学科、国際コミュニケーション学科（国際コミュニケーション専攻の留学生を除く）

次ページ表の「中国語Ⅰ」、「スペイン語Ⅰ」、「韓国語Ⅰ」、「フランス語Ⅰ」、「ドイツ語Ⅰ」、「ロシア語Ⅰ」、「イタリア語Ⅰ」、「アラビア語Ⅰ」、「ポルトガル語Ⅰ」、「ベトナム語Ⅰ」、「インドネシア語Ⅰ」、「タイ語Ⅰ」のうちから1つの外国語を選択し、必ず同じ言語でⅠ(a)、Ⅰ(b)4単位を修得しなければなりません。

ロ. アジア言語学科、イベロアメリカ言語学科

選択外国語科目を修得した場合、自由選択科目となります。自身の専攻語を履修することはできません。

卒業必修単位としての選択外国語Ⅰの履修について（前記イ.の4年生対象）

4年次前期で選択外国語Ⅰ(a)が不合格だった場合、卒業を勧奨した特別措置として、後期に選択外国語Ⅰ(b)を履修することができます。該当する者は、前期と同じクラスを履修してください。

Web履修登録では、選択外国語Ⅰ(a)を修得していないと選択外国語Ⅰ(b)を登録できないので、履修登録期間中に教務部に登録を希望する旨申し出てください。

なお、その場合のⅠ(a)の再試験については、「Ⅸ 試験及び学力評価について 8. 選択外国語科目再試験」を参照してください。ただし、すべての科目で再試験が実施されるとは限りません。

ハ. 選択外国語科目は、同じ外国語をⅠ(a)→Ⅰ(b)の順で履修しなくてはなりません。

① 前期にⅠ(a)を修得できなかった場合、後期にⅠ(b)を履修することはできません。この場合、次年度にまたⅠ(a)から履修します。

② 選択外国語Ⅱは、Ⅰの続きです。Ⅱ(a)・Ⅱ(b)の履修には同じ言語のⅠ(a)及びⅠ(b)を履修済でなければなりません。Ⅱ(a)→Ⅱ(b)の順で履修することが望ましいですが、Ⅱ(a)を履修しなくてもⅡ(b)を履修することができます。Ⅱ(a)、Ⅱ(b)とも2単位(2回)まで履修できます。

ニ. 選択外国語Ⅰは、週2回授業があります。

ホ. 選択外国語Ⅱは、前・後期とも2単位まで履修することができます。クラスは指定されないため、各自クラスを選び、登録してください。登録希望者が多い場合は人数調整を行う場合もあります。

ヘ. 同じ外国語の、ⅠとⅡを同時に履修することはできません。

ト. 選択外国語Ⅲは、中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語が開講されています（年によって開講状況が異なることがありますので、最新のシラバス・時間割で確認をしてください）。Ⅰを4単位かつ、Ⅱ(a)またはⅡ(b)を1単位以上、修得すれば履修可能です。前・後期とも4単位まで履修可能で、Ⅲ(a)を履修しなくてもⅢ(b)を履修することができます。

授業科目の名称		履修年次	単位数	
			選択必修※	選択
中国語	中国語Ⅰ(a)	1~4	2	
	中国語Ⅰ(b)	1~4	2	
	中国語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	中国語Ⅱ(b)	2~4		1~2
	中国語Ⅲ(a)	3~4		1~4
	中国語Ⅲ(b)	3~4		1~4
スペイン語	スペイン語Ⅰ(a)	1~4	2	
	スペイン語Ⅰ(b)	1~4	2	
	スペイン語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	スペイン語Ⅱ(b)	2~4		1~2
	スペイン語Ⅲ(a)	3~4		1~4
	スペイン語Ⅲ(b)	3~4		1~4
韓国語	韓国語Ⅰ(a)	1~4	2	
	韓国語Ⅰ(b)	1~4	2	
	韓国語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	韓国語Ⅱ(b)	2~4		1~2
	韓国語Ⅲ(a)	3~4		1~4
	韓国語Ⅲ(b)	3~4		1~4
フランス語	フランス語Ⅰ(a)	1~4	2	
	フランス語Ⅰ(b)	1~4	2	
	フランス語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	フランス語Ⅱ(b)	2~4		1~2
	フランス語Ⅲ(a)	3~4		1~4
	フランス語Ⅲ(b)	3~4		1~4
ドイツ語	ドイツ語Ⅰ(a)	1~4	2	
	ドイツ語Ⅰ(b)	1~4	2	
	ドイツ語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	ドイツ語Ⅱ(b)	2~4		1~2
	ドイツ語Ⅲ(a)	3~4		1~4
	ドイツ語Ⅲ(b)	3~4		1~4
ロシア語	ロシア語Ⅰ(a)	1~4	2	
	ロシア語Ⅰ(b)	1~4	2	
	ロシア語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	ロシア語Ⅱ(b)	2~4		1~2
イタリア語	イタリア語Ⅰ(a)	1~4	2	
	イタリア語Ⅰ(b)	1~4	2	
	イタリア語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	イタリア語Ⅱ(b)	2~4		1~2
	イタリア語Ⅲ(a)	3~4		1~4
	イタリア語Ⅲ(b)	3~4		1~4
アラビア語	アラビア語Ⅰ(a)	1~4	2	
	アラビア語Ⅰ(b)	1~4	2	
	アラビア語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	アラビア語Ⅱ(b)	2~4		1~2
ポルトガル語	ポルトガル語Ⅰ(a)	1~4	2	
	ポルトガル語Ⅰ(b)	1~4	2	
	ポルトガル語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	ポルトガル語Ⅱ(b)	2~4		1~2
ベトナム語	ベトナム語Ⅰ(a)	1~4	2	
	ベトナム語Ⅰ(b)	1~4	2	
	ベトナム語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	ベトナム語Ⅱ(b)	2~4		1~2
インドネシア語	インドネシア語Ⅰ(a)	1~4	2	
	インドネシア語Ⅰ(b)	1~4	2	
	インドネシア語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	インドネシア語Ⅱ(b)	2~4		1~2
タイ語	タイ語Ⅰ(a)	1~4	2	
	タイ語Ⅰ(b)	1~4	2	
	タイ語Ⅱ(a)	2~4		1~2
	タイ語Ⅱ(b)	2~4		1~2

※英米語学科、国際コミュニケーション学科（留学生を除く）が対象。詳しくは前ページのイを参照してください。

チ. 「トライ・外国語」・「トライ・ことばと文化」

言語と文化の入門的な体験ができる「トライ・外国語」を自由選択科目として開講します。多くの場合集中講義として開講します。12の選択外国語以外の言語も「トライ・ことばと文化」として開講することがあります。詳しくは「(8) 自由選択科目」を参照してください。

リ. 選択外国語科目（Ⅱ及びⅢを履修する際の）飛び級制度

- 1) 下記の条件を満たしている者は、それぞれの選択外国語のⅠ(a)・Ⅰ(b)、Ⅱ(a)・Ⅱ(b)を飛ばして、Ⅱ(a)・Ⅱ(b)、Ⅲ(a)・Ⅲ(b)に飛び級履修することができます。

	言語	内容
Ⅰ(a)・Ⅰ(b) の飛び級	中国語	中国語検定試験4級以上 または 漢語水平考試 (HSK) 3級以上
	スペイン語	スペイン語技能検定6級以上
	韓国語	ハングル能力検定試験4級以上 または 韓国語能力試験2級以上
	インドネシア語	インドネシア語技能検定D級以上
	ポルトガル語	CAPLE 入門(ACESSO)A1以上 または Celpe-Bras 中級以上
	フランス語	実用フランス語技能検定4級以上
	ドイツ語	ドイツ語技能検定4級以上
	イタリア語	実用イタリア語検定4級以上

	言語	内容
Ⅱ(a)・Ⅱ(b) の飛び級	中国語	中国語検定試験3級以上 または 漢語水平考試 (HSK) 4級以上
	スペイン語	スペイン語技能検定5級以上、DELE A1以上、SIELE A1以上
	韓国語	ハングル能力検定試験3級以上 または 韓国語能力試験3級以上
	フランス語	実用フランス語技能検定3級以上、TCFレベル1以上、DELTA A1以上
	ドイツ語	ドイツ語技能検定3級以上
	イタリア語	実用イタリア語検定3級以上

- 2) 学生は選択外国語ⅡまたはⅢの最初の授業でスコアのコピーを持参し、担当教員から履修の許可を得て、履修することになります。
- 3) 学生は履修登録期間に、スコアのコピーを教務部に提出し、登録の申請を行ってください。
- 4) 上記の条件を満たしていない場合でも、特例措置として飛び級を認めることがあります。必ず履修要件を確認した上で、担当教員の履修許可を得てから、履修登録期間に登録の申請を行ってください。

【注意】

- ① 飛び級するⅠまたはⅡの単位認定は行いません。
- ② 英米語学科及び国際コミュニケーション学科の学生は、選択外国語Ⅰを飛び級してⅡを履修することができますが、卒業要件単位（英米語学科及び国際コミュニケーション学科（国際コミュニケーション専攻の留学生を除く）：選択必修4単位）は、その他の言語の選択外国語Ⅰで修得する必要があります。

(3) 基盤教育科目

基盤教育科目は、大学での学習を進めるうえで必要となるアカデミック・リテラシーを身につける科目です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、アカデミック・ライティング、デジタル・シチズンシップ、クリティカル・リーディング、数的思考法（データサイエンス初歩）、キャリアデザインの5領域を体系的に学び、外国語大学の学生として国際社会の課題に対応できる思考力と表現力の基礎を修得します。2年次の「キャリアデザインⅠ（基礎）」では、就職だけではない生涯にわたる自身のキャリアをいかに設計するかについて学びます。大学時代から将来の人生を見つめ、キャリア形成と学問、社会とのつながりを結びつけることで、学生時代だけでなく社会人となってからも継続的に学び、行動する力が身につきます。

【基盤教育科目】

授業科目の名称	履修年次	単位数		履修条件・備考
		必修	選択	
基礎演習Ⅰ	1（前期）	2		
基礎演習Ⅱ	1（後期）	2		
キャリアデザインⅠ（基礎）	2（前期）	2		
情報基礎Ⅰ	1～4		1	オンライン科目：履修希望者は学期のはじめに説明会（オンデマンド）に出席すること
情報基礎Ⅱ	1～4		1	
日本語表現力基礎	1～4		1	

イ。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」及び「キャリアデザインⅠ（基礎）」は必修科目です。授業はオンデマンドで開講されますが、履修ペースや課題締切が指定されていますので、指示に従って履修を進めてください。また、履修内容に関連した対面でのフォローアップ・セッションが開催される予定ですので、うまく履修が進まなかったり、さらに内容を深めたい場合は積極的に参加しましょう。

ロ。「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」及び「日本語表現力基礎」は、オンライン上で履修が完結するeラーニング科目です。前者はPCを扱うスキルだけでなく情報を扱う際に留意すべきことがら（リテラシー）も含んでいます。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」におけるアカデミック・ライティング、デジタル・シチズンシップ、数的思考法をさらに発展させた内容です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得してから履修したほうが、より効率的に学習が進むと思いますが、1年次からの履修も可能です。

ハ。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」及び「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修することで、KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラムを修了できます。詳細は「Ⅹ KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム履修要項」を参照してください。

(4) 教養科目

どのような分野の学問でも、ある程度学習が進んだ段階で改めて基本を見直すことが必要です。自然とは何か、社会とは何か、人間とは何か。これらの問いは、一見自明と思われるものが少し考えてみるとそれほど明確なものでないことを教えてくれます。教養科目は、人文科学、社会科学、自然科学など多岐の分野について幅広く学ぶことができます。専門の枠を超えて広い視野に立って見渡すことで、より深く、多角的な視点を身につけることができるのです。

【教養科目】

授業科目の名称	履修年次	単位数		必要単位数
		必修	選択	
体育・スポーツ	1～4		1～4	<p>左記の講義系科目から少なくとも4科目8単位を修得しなくてはならない</p> <p>10単位</p>
歴史学Ⅰ	1～4		2	
歴史学Ⅱ	1～4		2	
哲学Ⅰ	1～4		2	
哲学Ⅱ	1～4		2	
倫理学Ⅰ	1～4		2	
倫理学Ⅱ	1～4		2	
宗教学Ⅰ	1～4		2	
宗教学Ⅱ	1～4		2	
文学Ⅰ	1～4		2	
文学Ⅱ	1～4		2	
美術史学Ⅰ	1～4		2	
美術史学Ⅱ	1～4		2	
言語学Ⅰ	1～4		2	
言語学Ⅱ	1～4		2	
社会学Ⅰ	1～4		2	
社会学Ⅱ	1～4		2	
法学Ⅰ	1～4		2	
法学Ⅱ	1～4		2	
憲法Ⅰ	1～4		2	
憲法Ⅱ	1～4		2	
政治学Ⅰ	1～4		2	
政治学Ⅱ	1～4		2	
経済学Ⅰ	1～4		2	
経済学Ⅱ	1～4		2	
心理学Ⅰ	1～4		2	
心理学Ⅱ	1～4		2	
教育学	1～4		2	
経営学Ⅰ	1～4		2	
経営学Ⅱ	1～4		2	
統計学Ⅰ	1～4		2	
統計学Ⅱ	1～4		2	
生物学Ⅰ	1～4		2	
生物学Ⅱ	1～4		2	
化学Ⅰ	1～4		2	
化学Ⅱ	1～4		2	
物理学Ⅰ	1～4		2	
物理学Ⅱ	1～4		2	
自然科学概論Ⅰ	1～4		2	
自然科学概論Ⅱ	1～4		2	

体育・スポーツの履修について

1. 単位について

「体育・スポーツ」は、半期1種目1単位とし、4年間で最大4単位まで履修することができます。半期で1単位を超えて履修することはできません。また、同一種目を1単位を超えて履修することもできません。半期1単位（1種目）より多く履修登録をした場合、「体育・スポーツ」の履修登録が無効になります。

2. 種目について

「体育・スポーツ」は、学内施設を利用して次の種目を履修することができます。

テニス、フライングディスク、卓球、フットサル、バドミントン、フィットネス、バスケットボール、ダンス、ダイエットエクササイズ、合気道、バレーボール、アドベンチャーコミュニケーションプログラム

※年度によって、開講されない科目もあります。

※アドベンチャーコミュニケーションプログラムⅡは、同Ⅰを修得済の場合のみ履修可

3. 履修登録について

イ. 「体育・スポーツ」の履修登録は、他の授業科目と同様に行います。

授業の形態や施設の関係から人数調整を行うことがあるので、履修を希望する種目の初回授業には必ず出席し、履修が許可された種目の科目を登録してください。

ロ. 第1回目の授業を実施する場所は、時間割冊子で確認してください。

(5) 研究科目

研究科目は、学科専攻のコース指定研究科目と、研究科目（その他）があります。卒業までに、

- 1) 学科専攻のコース指定研究科目を18～34単位（学科専攻によって単位数が異なる。p.60の表を参照）、
- 2) 研究科目（その他）を16単位修得することが必要です。

(5)-1. 研究科目の概要

イ. 研究コース制について

外国語学部の授業科目は、大きく分けると専攻語の「外国語教育」に関わる科目と専攻語を取り巻く研究領域に関わる「研究科目」からなります。特に後者では、専攻語の言語そのものの特徴やその背景にある歴史・文化・社会について理解を深めるための科目が開設されています。

その中において、「研究コース制」は、専攻語の学習とは独立しているものの、専攻語と密接に関連する領域の研究成果について系統立てて学習し、外国語学部ならではの学問的課題の探究を目的としています。皆さんは、2年次にそれぞれの興味関心に基づいて、所属する学科専攻の2つの「研究コース」（英米語学科では3つの「研究コース」）から1つを選択し、登録します。各学科専攻の「研究コース」に開設されている科目は有機的に連動しており、その科目群を履修することによって、各自の興味関心を学問的問いへと昇華させ、それを探究していくことができます。また、その過程で先行研究を読み解く力、粘り強く徹底的に考え抜く力、データに基づき仮説を立ててそれを論証する方法、論理的・批判的な思考法などを身につけることができます。

「研究コース」で養った知識を「研究演習」「応用演習」「卒業研究」で深掘りし、独自の研究課題へと深化させていくことが期待されています。

ロ. 研究科目（その他）について

「研究コース制」で修得する科目（18～34単位）とは別に、研究科目（その他）として16単位を修得することが求められています。これは各自選択した「研究コース」を超えて、幅広い知識を身に付けることができるからです。皆さんは学びたいと思う研究科目を自由に選択することができます。自身が選択している研究コースの科目を更に学んだり、選択していない研究コースの研究科目を学んだり、また、他学科・他専攻の研究科目を学んだり、と自由に研究科目を選ぶことができます。

(5)-2. 学科専攻のコース指定研究科目

自分の所属する学科専攻の研究コースから 1 コース を選択し、自分が選択したコースの指定研究科目 (18~34単位) を修得してください。

〔研究コース名と指定単位数〕

学科専攻	英米語	アジア言語			イペロアメリカ言語		国際コミュニケーション	
		中国語	韓国語	インドネシア語 ベトナム語 タイ語	スペイン語	ブラジル・ポルトガル語	国際コミュニケーション	国際ビジネス キャリア
研究コース①	英語	言語	言語	言語文化	言語文化	言語文化	コミュニケーション	コミュニケーション
研究コース②	英語教育	地域文化	地域社会	地域社会	地域社会	地域社会	国際・日本	国際ビジネス
研究コース③	英語圏地域	-	-	-	-	-	-	-
必修	4	6	2	4	2	4	8	18
選択必修Ⅰ群	2	4	22	6	4	4	18	12
選択必修Ⅱ群	8	8	-	8	4	6	8	4
選択必修Ⅲ群	8	6	-	-	8	4	-	-
選択必修Ⅳ群	12	-	-	-	-	-	-	-
指定単位合計	34	24	24	18	18	18	34	34

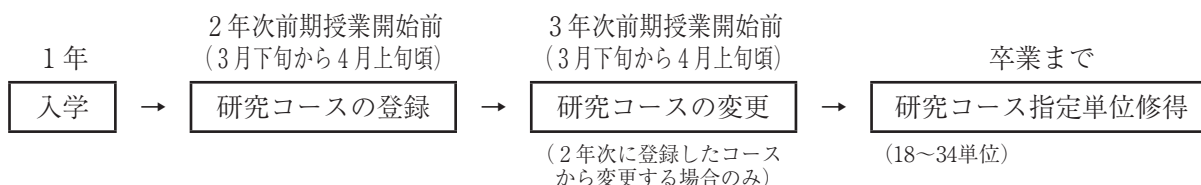
【履修上の注意】

- イ. 必修科目は全て修得してください。
- ロ. 選択必修科目は、選択必修科目の一覧から卒業要件単位数を修得してください。Ⅰ群からⅣ群に分かれていますので、各々の群から卒業に必要な単位を修得してください (学科専攻によって群の数や単位数が異なりますので、上記の表を参照してください)。

【研究コースの登録】

- イ. 研究コースの登録は、2年次前期授業開始前の研究コース登録期間に行います。適切な研究コースを選択するためには、1年次から、自分がどのコースに関心があるのか、関連する科目を履修しながら考えておく必要があります。
- ロ. 3年次前期授業開始前の研究コース登録期間に研究コースの変更ができます。2年次に登録した研究コースの変更を希望する場合はこのときに変更できますが、卒業要件 (研究コースの修得済単位数) が異なってくるので、良く理解した上で慎重に行ってください。

<研究コース登録の流れ>



(5)-3. 研究科目(その他)

学科専攻のコース指定研究科目 (18~34単位) とは別に、研究科目 (その他) を16単位修得してください。研究科目であれば、自分の所属する学科専攻の研究科目、他学科専攻の研究科目、学科専攻に属さない研究科目のいずれを修得した場合でも、研究科目 (その他) の単位となります。また、演習科目の超過修得点や卒業研究を修得した場合も、研究科目 (その他) の単位として加算されます。

【履修上の注意】

- イ. (5)-2. 学科専攻のコース指定研究科目（18～34単位）の指定単位数を超えて修得した場合、超過分は研究科目（その他）に加算されます。
- ロ. 研究演習または応用演習を合計8単位修得した場合、超過分の4単位は研究科目（その他）に加算されます。
- ハ. 卒業研究（4単位）を修得した場合、研究科目（その他）に加算されます。
- ニ. 研究科目（その他）の所定単位16単位を超えて修得した場合、超過分は自由選択科目に加算されます。

[研究科目等の修得単位の取り扱い]

	必要 単位数	研究科目等の種類	修得単位の 取り扱い	備考
(5)-2. 学科専攻の コース指定 研究科目	18～34 単位	自分が選んだ学科専攻のコース 指定研究科目 (<u>卒業要件単位数内</u>)	学科専攻のコース指定研 究科目 (卒業要件単位数まで)	・卒業要件単位数は18～34単位 ・必修科目は全て修得 ・選択必修科目はI群からIV群で 各々所定の単位数の修得が必要 ※卒業要件単位数と選択必修科目群 の数は学科専攻によって異なる
(5)-3. 研究科目 (その他)	16 単位	自分が選んだ学科専攻のコース 指定研究科目 (卒業要件単位数 <u>超過分</u>)	研究科目（その他） (卒業要件単位数を <u>超過</u> した分)	・学科専攻のコース指定研究科目の 卒業要件単位数（18～34単位）を超 えて修得した場合、 <u>超過分は研究科 目（その他）に加算</u>
		自分の所属する学科専攻のコース のうち、自分が選択しなかつ たコースの研究科目	研究科目（その他）	
		他学科専攻の研究科目	研究科目（その他）	
		学科専攻に属さない研究科目	研究科目（その他）	
		研究演習または応用演習を合計 8単位修得	研究科目（その他） (4単位)	・4単位は演習科目の選択必修科目 ・超過分の4単位は研究科目（その 他）に加算
卒業研究（4単位）	研究科目（その他）	・卒業研究科目を修得した場合は研 究科目（その他）に加算		

学科専攻指定研究科目一覧 【英米語学科】

区分	必要単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング分野・レベル	コース指定状況		
		1年	2年	3年	4年				英語	英語教育	英語圏地域
必修	4	英語学概論				4		LIN 2	○	○	○
選択必修Ⅰ群	2	英国研究入門Ⅰ				2		ARE 1	○	○	○
		英国研究入門Ⅱ				2		ARE 1	○	○	○
		米国研究入門Ⅰ				2		ARE 1	○	○	○
		米国研究入門Ⅱ				2		ARE 1	○	○	○
		オセアニア研究入門Ⅰ				2		ARE 1	○	○	○
		オセアニア研究入門Ⅱ				2		ARE 1	○	○	○
		カナダ研究入門Ⅰ				2		ARE 1	○	○	○
		カナダ研究入門Ⅱ				2		ARE 1	○	○	○
選択必修Ⅱ群 (研究科目基礎)	8	英語音声学				4	「Outline of English Phonetics」と「英語音声学」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可	LIN 2	○	○	
		世界の英語				2		LIN 2	○	○	
		社会言語学				2		LIN 2	○	○	
		現代英文法				4	「英語学概論」	LIN 3	○	○	
		英語音韻論				4	「英語学概論」	LIN 3	○	○	
		英語統語論Ⅰ				4	「自然科学としての言語学入門」	LIN 3	○	○	
		自然科学としての言語学入門				4		LIN 1	○		
		英語通訳法Ⅰ				4		COM 2	○		
		英語通訳法Ⅱ				4	C基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」	COM 3	○		
		認知発達と英語教育				4		PED 2		○	
		児童英語教育論				4		PED 2		○	
		第二言語習得研究				4	「英語学概論」	LIN 3		○	
		英国史概論Ⅰ				2		HIS 2			○
		英国史概論Ⅱ				2		HIS 2			○
		英国社会・文化論Ⅰ				2		SOC 2			○
		英国社会・文化論Ⅱ				2		SOC 2			○
		英文学の歩みⅠ				2		LIT 2			○
		英文学の歩みⅡ				2		LIT 2			○
		英連邦社会・文化論Ⅰ				2		SOC 2			○
		英連邦社会・文化論Ⅱ				2		SOC 2			○
		米国史概論Ⅰ				2		HIS 2			○
		米国史概論Ⅱ				2		HIS 2			○
		米国社会論Ⅰ				2		SOC 2			○
		米国社会論Ⅱ				2		SOC 2			○
		米国文化論Ⅰ				2		LIT 2			○
		米国文化論Ⅱ				2		LIT 2			○
米文学の歩みⅠ				2		LIT 2			○		
米文学の歩みⅡ				2		LIT 2			○		
米国政治・外交論Ⅰ				2		POL 2			○		
米国政治・外交論Ⅱ				2		POL 2			○		
米国経済論Ⅰ				2		ECO 2			○		
米国経済論Ⅱ				2		ECO 2			○		
選択必修Ⅲ群 * 選択必修Ⅲ群(英語で行われる研究科目)は、なるべく、自分の研究コースで内容的関連が強いと推奨されている◎科目を履修するようにする。	8	Introduction to Language and Communication				2	「自然科学としての言語学入門」かつC基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」	LIN 2	◎	◎	○
		Outline of English Phonetics				4	C基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」 「Outline of English Phonetics」と「英語音声学」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可	LIN 2	◎	◎	○
		Topics in Sociolinguistics				4	B基準または「Intensive Academic ReadingⅡ」	LIN 3	◎	◎	○
		Japanese Language and Culture				2	C基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」	LIN 2	◎	○	○
		Public Speaking				4	C基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」	COM 3	◎	○	○
		Debate				4	B基準または「Intensive Academic ReadingⅡ」	COM 3	◎	○	○
		Approaches and Strategies in Learning English				4	C基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」	ENG 2	○	◎	○
		TESOL海外研究				4	B基準または「Intensive Academic ReadingⅡ」 ※海外連携大学の短期プログラム	PED 3	○	◎	○
		Issues in Second Language Acquisition				4	「第二言語習得研究」かつB基準または「Intensive Academic ReadingⅡ」	LIN 3	○	◎	○
		Issues in Applied Linguistics				4	「応用言語学」または「第二言語習得研究」かつB基準または「Intensive Academic ReadingⅡ」	LIN 3	○	◎	○
		Pedagogies in Oral Communication				4	B基準または「Intensive Academic ReadingⅡ」	PED 3	○	◎	○
Japanese Popular CultureⅠ				2	C基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」	ANT 2	○	○	◎		
Japanese Popular CultureⅡ				2	C基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」	ANT 2	○	○	◎		

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況		
		1年	2年	3年	4年				英語	英語 教育	英語圏 地域
選択必修 Ⅲ群 * 選択必修Ⅲ群 (英語で行われる研究科目) は、なるべく、自分の研究コースで内容的関連が強いと推奨されている◎科目を履修するようにする。	8	The History of Modern Japan				2	C基準または「Intensive Academic Reading I」	HIS 2	○	○	◎
		Topics in British Studies I				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	ARE 3	○	○	◎
		Topics in British Studies II				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	ARE 3	○	○	◎
		History of the United States I				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	HIS 2	○	○	◎
		History of the United States II				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	HIS 2	○	○	◎
		Topics in Oceanian Studies I				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	ARE 3	○	○	◎
		Topics in Oceanian Studies II				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	ARE 3	○	○	◎
		Topics in Canadian Studies I				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	ARE 3	○	○	◎
		Topics in Canadian Studies II				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	ARE 3	○	○	◎
		Survey of American and English Literature				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	LIT 3	○	○	◎
		Themes in American and English Literature				2	B基準または「Intensive Academic Reading II」	LIT 3	○	○	◎
		Japanese Literature				2	C基準または「Intensive Academic Reading I」	LIT 3	○	○	◎
		International Relations: Japan in a Global Context				2	C基準または「Intensive Academic Reading I」	POL 3	○	○	◎
		Japanese Politics				2	C基準または「Intensive Academic Reading I」	POL 3	○	○	◎
英国文化実地研究				4	※海外連携大学の短期プログラム(同一校不可)	ARE 2	○	○	◎		
米国文化実地研究				4	※海外連携大学の短期プログラム(同一校不可)	ARE 2	○	○	◎		
オセアニア文化実地研究				4	※海外連携大学の短期プログラム(同一校不可)	ARE 2	○	○	◎		
カナダ文化実地研究				4	※海外連携大学の短期プログラム(同一校不可)	ARE 2	○	○	◎		
選択必修 Ⅳ群	12	国際共通語としての英語				2	「世界の英語」	LIN 2	○	○	
		英語オーラルインタープリテーション				4	C基準または「Intensive Academic Reading I」かつ「英語音声学」または「Outline of English Phonetics」	COM 3	○	○	
		英語談話分析				2	「社会言語学」または「世界の英語」	LIN 3	○	○	
		英語会話分析				2	「社会言語学」または「世界の英語」	LIN 3	○	○	
		日本語から英語を見る				4	「英語統語論I」または「現代英文法」	LIN 3	○	○	
		英語を歴史的に見る				4	「英語学概論」	LIN 2	○		
		日英翻訳法 I				4	A基準	COM 3	○		
		英日翻訳法 I				4	A基準	COM 3	○		
		英語統語論 II				4	「英語統語論 I」	LIN 3	○		
		英語意味論・語用論				4	「英語統語論 I」	LIN 3	○		
		英語語法研究				4	「英語統語論 I」または「現代英文法」	LIN 3	○		
		日英翻訳法 II				4	A基準かつ「時事英語 II」「Media English I / II (英米)」 「Media English II (IC)」のいずれか	COM 3	○		
		英日翻訳法 II				4	A基準かつ「時事英語 II」「Media English I / II (英米)」 「Media English II (IC)」のいずれか	COM 3	○		
		外国語評価法				2	「第二言語習得研究」	LIN 2		○	
		第二言語語用論				2	「英語学概論」	LIN 2		○	
		児童英語指導法 (Listening & Speaking)				4	「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」を修得済、かつ C基準/「Intensive Academic Reading I」/英検 2級以上のいずれか	PED 3		○	
		児童英語指導法 (Reading & Writing)				4	「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」を修得済、かつ C基準/「Intensive Academic Reading I」/英検 2級以上のいずれか	PED 3		○	
		応用言語学				4		LIN 2		○	
		英文法指導研究				2	「現代英文法」	LIN 3		○	
		英語授業研究				2	「第二言語習得研究」かつ A基準	PED 3		○	
		英米法と社会 I				2		LAW 2			○
		英米法と社会 II				2		LAW 2			○
		地域比較文化論 I				2		ARE 2			○
		地域比較文化論 II				2		ARE 2			○
		日米関係論 I				2		POL 3			○
		日米関係論 II				2		POL 3			○
		英文学と文化 I				2		LIT 3			○
		英文学と文化 II				2		LIT 3			○
		米文学と文化 I				2		LIT 3			○
		米文学と文化 II				2		LIT 3			○
英語圏歴史・政治講読 I				2		ARE 3			○		
英語圏歴史・政治講読 II				2		ARE 3			○		
ダイバーシティ研究 I				2		COM 3			○		
ダイバーシティ研究 II				2		COM 3			○		
フィルム・スタディーズ I				2		COM 3			○		
フィルム・スタディーズ II				2		COM 3			○		

学科専攻指定研究科目一覧 【アジア言語学科 中国語専攻】

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				言語	地域 文化
必修	6	アジア研究入門				2		ARE 1	○	○
		中国社会事情 I				2		SOC 1	○	○
		中国社会事情 II				2		SOC 1	○	○
選択必修 I 群	4	中国語学概論 I				2		LIN 2	○	○
		中国語学概論 II				2		LIN 2	○	○
		中国思想概論 I				2		PHI 2	○	○
		中国思想概論 II				2		PHI 2	○	○
		中国文化概論 I				2		LIT 2	○	○
		中国文化概論 II				2		LIT 2	○	○
		中国文学概論 I				2		LIT 2	○	○
		中国文学概論 II				2		LIT 2	○	○
		中国史概論 I				2		HIS 2	○	○
		中国史概論 II				2		HIS 2	○	○
		中国現代史 I				2		HIS 2	○	○
		中国現代史 II				2		HIS 2	○	○
		中国経済概論 I				2		ECO 2	○	○
		中国経済概論 II				2		ECO 2	○	○
		中国政治外交概論 I				2		POL 2	○	○
		中国政治外交概論 II				2		POL 2	○	○
選択必修 II 群	8	中国語文法論 I				2		LIN 2	○	
		中国語文法論 II				2		LIN 2	○	
		中国語音韻論 I				2		LIN 2	○	
		中国語音韻論 II				2		LIN 2	○	
		中国語音声学 I				2		LIN 2	○	
		中国語音声学 II				2		LIN 2	○	
		中国語学研究 I				2		LIN 2	○	
		中国語学研究 II				2		LIN 2	○	
		広東語 I				2		CHN 2	○	
		広東語 II				2		CHN 2	○	
		福建語 I				2		CHN 2	○	
		福建語 II				2		CHN 2	○	
		ビジネス中国語 I				2		CHN 3	○	
		ビジネス中国語 II				2		CHN 3	○	
		中国語映像翻訳法 I				2		COM 3	○	
		中国語映像翻訳法 II				2		COM 3	○	
		中国語通訳法 I				2		LIN 3	○	
		中国語通訳法 II				2		LIN 3	○	
		日中比較言語 I				2		LIN 2	○	
		日中比較言語 II				2		LIN 2	○	
		中国文学史 I				2		LIT 2		○
		中国文学史 II				2		LIT 2		○
		日中関係論 I				2		POL 3		○
		日中関係論 II				2		POL 3		○
		中国現代文学研究 I				2		LIT 2		○
		中国現代文学研究 II				2		LIT 2		○
中国文化研究 I				2		LIT 2		○		
中国文化研究 II				2		LIT 2		○		
中国社会研究 I				2		SOC 3		○		
中国社会研究 II				2		SOC 3		○		
中国経済研究 I				2		ECO 3		○		
中国経済研究 II				2		ECO 3		○		
中国政治外交研究 I				2		POL 3		○		
中国政治外交研究 II				2		POL 3		○		

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				言語	地域 文化
選択必修 Ⅱ群	8		海外華人論Ⅰ		2		SOC 3		○	
			海外華人論Ⅱ		2		SOC 3		○	
			中国古典講読Ⅰ		2		LIT 3		○	
			中国古典講読Ⅱ		2		LIT 3		○	
			中国文学研究Ⅰ		2		LIT 3		○	
			中国文学研究Ⅱ		2		LIT 3		○	
選択必修 Ⅲ群	6		中国語翻訳法Ⅰ		2		COM 3	○	○	
			中国語翻訳法Ⅱ		2		COM 3	○	○	
			中国語翻訳法Ⅲ		2		COM 3	○	○	
			中国語翻訳法Ⅳ		2		COM 3	○	○	
			中国語表現法Ⅰ		2		LIN 3	○	○	
			中国語表現法Ⅱ		2		LIN 3	○	○	
			中国語表現法Ⅲ		2		LIN 3	○	○	
			中国語表現法Ⅳ		2		LIN 3	○	○	

学科専攻指定研究科目一覧 【アジア言語学科 韓国語専攻】

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				言語	地域 社会
必修	2	アジア研究入門				2		ARE 1	○	○
選択必修 I群	22	韓国文化概論 I				2		ANT 1	○	○
		韓国文化概論 II				2		ANT 1	○	○
		韓国史概論 I				2		HIS 1	○	○
		韓国史概論 II				2		HIS 1	○	○
		韓国語学概論 I				2		LIN 2	○	
		韓国語学概論 II				2		LIN 2	○	
		韓国語文法論 I				2		LIN 2	○	
		韓国語文法論 II				2		LIN 2	○	
		日韓対照言語研究 I				2		LIN 2	○	
		日韓対照言語研究 II				2		LIN 2	○	
		韓国語学特講 I				2		LIN 2	○	
		韓国語学特講 II				2		LIN 2	○	
		韓国語社会言語学 I				2		LIN 2	○	
		韓国語社会言語学 II				2		LIN 2	○	
		韓国語文章表現法 I				2		LIN 2	○	
		韓国語文章表現法 II				2		LIN 2	○	
		韓国語史 I				2		LIN 2	○	
		韓国語史 II				2		LIN 2	○	
		日韓コミュニケーション研究 I				2		COM 3	○	
		日韓コミュニケーション研究 II				2		COM 3	○	
		韓国語映像翻訳法 I				2		COM 3	○	
		韓国語映像翻訳法 II				2		COM 3	○	
		日韓関係史 I				2		HIS 2		○
		日韓関係史 II				2		HIS 2		○
		韓国の宗教・社会 I				2		ARE 3		○
		韓国の宗教・社会 II				2		ARE 3		○
		韓国映像文化論 I				2		ANT 2		○
		韓国映像文化論 II				2		ANT 2		○
		韓国文化特定研究 I				2		ANT 3		○
		韓国文化特定研究 II				2		ANT 3		○
		韓国政治論 I				2		POL 3		○
		韓国政治論 II				2		POL 3		○
		韓国経済論 I				2		ECO 3		○
		韓国経済論 II				2		ECO 3		○
		韓国経済特講 I				2		ECO 3		○
		韓国経済特講 II				2		ECO 3		○
		韓国企業研究 I				2		BUS 3		○
		韓国企業研究 II				2		BUS 3		○
		韓国近代史 I				2		HIS 3		○
		韓国近代史 II				2		HIS 3		○
韓国史特講 I				2		HIS 3		○		
韓国史特講 II				2		HIS 3		○		
韓国現代文学研究 I				2		LIT 3		○		
韓国現代文学研究 II				2		LIT 3		○		

学科専攻指定研究科目一覧 【アジア言語学科 インドネシア語専攻】

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況			
		1年	2年	3年	4年				言語 文化	地域 社会		
必修	4	アジア研究入門				2		ARE 1	○	○		
		インドネシア研究入門				2		ARE 1	○	○		
選択必修 I群	6	インドネシアの民族・地理				2		HGE 2	○	○		
		インドネシアの歴史				2		HIS 3	○	○		
		インドネシアの文化・芸術				2		ART 2	○	○		
		インドネシアの宗教・社会				2		SOC 3	○	○		
		インドネシアの政治・経済 I				2		POL 3	○	○		
		インドネシアの政治・経済 II				2		POL 3	○	○		
選択必修 II群	8	東南アジア研究入門 I				2		ARE 1	○	○		
		東南アジア研究入門 II				2		ARE 1	○	○		
		東南アジア地域研究 I				2		ARE 2	○	○		
		東南アジア地域研究 II				2		ARE 2	○	○		
		東南アジア地域研究 III				2		ARE 2	○	○		
		東南アジア宗教論 I				2		ARE 2	○	○		
		東南アジア宗教論 II				2		ARE 2	○	○		
				Topics in Language and Culture (東南アジア・イベロ)				2		ARE 3	○	○
		東南アジアの宗教と文化 I				2		ANT 2	○			
		東南アジアの宗教と文化 II				2		ANT 2	○			
		東南アジアの宗教と文化 III				2		ANT 2	○			
		東南アジアの芸術 I				2		ART 2	○			
		東南アジアの芸術 II				2		ART 2	○			
		東南アジアの芸術 III				2		ART 2	○			
		東南アジアの芸術 IV				2		ART 2	○			
		東南アジア言語概論 I				2		LIN 2	○			
		東南アジア言語概論 II				2		LIN 2	○			
		東南アジア言語概論 III				2		LIN 2	○			
		ベトナムの文化・芸術				2		ART 2	○			
		ベトナムの民族・地理				2		HGE 2	○			
		タイの文化・芸術				2		ART 2	○			
		タイの民族・地理				2		HGE 2	○			
		東南アジア史 I				2		HIS 2		○		
		東南アジア史 II				2		HIS 2		○		
		東南アジア社会論 I				2		SOC 3		○		
		東南アジア社会論 II				2		SOC 3		○		
		東南アジア政治経済論 I				2		POL 3		○		
東南アジア政治経済論 II				2		POL 3		○				
ベトナムの歴史				2		HIS 3		○				
ベトナムの宗教・社会				2		SOC 3		○				
ベトナムの政治・経済 I				2		POL 3		○				
ベトナムの政治・経済 II				2		POL 3		○				
タイの歴史				2		HIS 3		○				
タイの宗教・社会				2		SOC 3		○				
タイの政治・経済 I				2		POL 3		○				
タイの政治・経済 II				2		POL 3		○				

学科専攻指定研究科目一覧 【アジア言語学科 ベトナム語専攻】

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				言語 文化	地域 社会
必修	4	アジア研究入門				2		ARE 1	○	○
		ベトナム研究入門				2		ARE 1	○	○
選択必修 I群	6	ベトナムの民族・地理				2		HGE 2	○	○
		ベトナムの歴史				2		HIS 3	○	○
		ベトナムの文化・芸術				2		ART 2	○	○
		ベトナムの宗教・社会				2		SOC 3	○	○
		ベトナムの政治・経済 I				2		POL 3	○	○
		ベトナムの政治・経済 II				2		POL 3	○	○
選択必修 II群	8	東南アジア研究入門 I				2		ARE 1	○	○
		東南アジア研究入門 II				2		ARE 1	○	○
		東南アジア地域研究 I				2		ARE 2	○	○
		東南アジア地域研究 II				2		ARE 2	○	○
		東南アジア地域研究 III				2		ARE 2	○	○
		東南アジア宗教論 I				2		ARE 2	○	○
		東南アジア宗教論 II				2		ARE 2	○	○
		Topics in Language and Culture (東南アジア・イペロ)				2		ARE 3	○	○
		東南アジアの宗教と文化 I				2		ANT 2	○	
		東南アジアの宗教と文化 II				2		ANT 2	○	
		東南アジアの宗教と文化 III				2		ANT 2	○	
		東南アジアの芸術 I				2		ART 2	○	
		東南アジアの芸術 II				2		ART 2	○	
		東南アジアの芸術 III				2		ART 2	○	
		東南アジアの芸術 IV				2		ART 2	○	
		東南アジア言語概論 I				2		LIN 2	○	
		東南アジア言語概論 II				2		LIN 2	○	
		東南アジア言語概論 III				2		LIN 2	○	
		インドネシアの文化・芸術				2		ART 2	○	
		インドネシアの民族・地理				2		HGE 2	○	
		タイの文化・芸術				2		ART 2	○	
		タイの民族・地理				2		HGE 2	○	
		東南アジア史 I				2		HIS 2		○
		東南アジア史 II				2		HIS 2		○
		東南アジア社会論 I				2		SOC 3		○
		東南アジア社会論 II				2		SOC 3		○
		東南アジア政治経済論 I				2		POL 3		○
東南アジア政治経済論 II				2		POL 3		○		
インドネシアの歴史				2		HIS 3		○		
インドネシアの宗教・社会				2		SOC 3		○		
インドネシアの政治・経済 I				2		POL 3		○		
インドネシアの政治・経済 II				2		POL 3		○		
タイの歴史				2		HIS 3		○		
タイの宗教・社会				2		SOC 3		○		
タイの政治・経済 I				2		POL 3		○		
タイの政治・経済 II				2		POL 3		○		

学科専攻指定研究科目一覧 【アジア言語学科 タイ語専攻】

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況			
		1年	2年	3年	4年				言語 文化	地域 社会		
必修	4	アジア研究入門				2		ARE 1	○	○		
		タイ研究入門				2		ARE 1	○	○		
選択必修 I群	6	タイの民族・地理				2		HGE 2	○	○		
		タイの歴史				2		HIS 3	○	○		
		タイの文化・芸術				2		ART 2	○	○		
		タイの宗教・社会				2		SOC 3	○	○		
		タイの政治・経済 I				2		POL 3	○	○		
		タイの政治・経済 II				2		POL 3	○	○		
選択必修 II群	8	東南アジア研究入門 I				2		ARE 1	○	○		
		東南アジア研究入門 II				2		ARE 1	○	○		
		東南アジア地域研究 I				2		ARE 2	○	○		
		東南アジア地域研究 II				2		ARE 2	○	○		
		東南アジア地域研究 III				2		ARE 2	○	○		
		東南アジア宗教論 I				2		ARE 2	○	○		
		東南アジア宗教論 II				2		ARE 2	○	○		
				Topics in Language and Culture (東南アジア・イペロ)				2		ARE 3	○	○
		東南アジアの宗教と文化 I				2		ANT 2	○			
		東南アジアの宗教と文化 II				2		ANT 2	○			
		東南アジアの宗教と文化 III				2		ANT 2	○			
		東南アジアの芸術 I				2		ART 2	○			
		東南アジアの芸術 II				2		ART 2	○			
		東南アジアの芸術 III				2		ART 2	○			
		東南アジアの芸術 IV				2		ART 2	○			
		東南アジア言語概論 I				2		LIN 2	○			
		東南アジア言語概論 II				2		LIN 2	○			
		東南アジア言語概論 III				2		LIN 2	○			
		インドネシアの文化・芸術				2		ART 2	○			
		インドネシアの民族・地理				2		HGE 2	○			
		ベトナムの文化・芸術				2		ART 2	○			
		ベトナムの民族・地理				2		HGE 2	○			
		東南アジア史 I				2		HIS 2		○		
		東南アジア史 II				2		HIS 2		○		
		東南アジア社会論 I				2		SOC 3		○		
		東南アジア社会論 II				2		SOC 3		○		
		東南アジア政治経済論 I				2		POL 3		○		
東南アジア政治経済論 II				2		POL 3		○				
インドネシアの歴史				2		HIS 3		○				
インドネシアの宗教・社会				2		SOC 3		○				
インドネシアの政治・経済 I				2		POL 3		○				
インドネシアの政治・経済 II				2		POL 3		○				
ベトナムの歴史				2		HIS 3		○				
ベトナムの宗教・社会				2		SOC 3		○				
ベトナムの政治・経済 I				2		POL 3		○				
ベトナムの政治・経済 II				2		POL 3		○				

学科専攻指定研究科目一覧 【イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻】

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				言語 文化	地域 社会
必修	2	イベロアメリカ研究入門				2		ARE 1	○	○
選択必修 I群	4	イベリア史概論 I				2		HIS 2	○	○
		イベリア史概論 II				2		HIS 2	○	○
		ラテンアメリカ史概論 I				2		HIS 2	○	○
		ラテンアメリカ史概論 II				2		HIS 2	○	○
		スペイン文学史 I				2		LIT 2	○	○
		スペイン文学史 II				2		LIT 2	○	○
		スペイン語学概論 I				2		LIN 2	○	○
		スペイン語学概論 II				2		LIN 2	○	○
選択必修 II群	4	西洋古典語概論 I (ラテン語)				2		LIN 2	○	
		西洋古典語概論 II (ラテン語)				2		LIN 2	○	
		西洋古典語概論 III (古典ギリシア語)				2		LIN 2	○	
		西洋古典語概論 IV (古典ギリシア語)				2		LIN 2	○	
		スペイン語音声学 I				2		LIN 2	○	
		スペイン語音声学 II				2		LIN 2	○	
		スペイン語の歴史と地理 I				2		LIN 2	○	
		スペイン語の歴史と地理 II				2		LIN 2	○	
		日西語対照研究 I				2		LIN 2	○	
		日西語対照研究 II				2		LIN 2	○	
		現代スペイン文学 I				2		LIT 2	○	
		現代スペイン文学 II				2		LIT 2	○	
		現代ラテンアメリカ文学 I				2		LIT 2	○	
		現代ラテンアメリカ文学 II				2		LIT 2	○	
		スペイン語翻訳法 I				2		COM 2	○	
		スペイン語翻訳法 II				2		COM 2	○	
		ポルトガル語学概論 I				2		LIN 2	○	
		ポルトガル語学概論 II				2		LIN 2	○	
		ロマンス語学概論				2		LIN 2	○	
		ラテンアメリカ政治論 I				2		POL 3		○
		ラテンアメリカ政治論 II				2		POL 3		○
		ブラジル研究入門				2		ARE 1		○
		イベロアメリカの法と文化 I				2		LAW 2		○
イベロアメリカの法と文化 II				2		LAW 2		○		
現代イベリア研究 I				2		SOC 3		○		
現代イベリア研究 II				2		SOC 3		○		
現代ラテンアメリカ研究 I				2		SOC 3		○		
現代ラテンアメリカ研究 II				2		SOC 3		○		
ラテンアメリカ経済論 I				2		SOC 3		○		
ラテンアメリカ経済論 II				2		SOC 3		○		

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				言語 文化	地域 社会
選択必修 Ⅲ群	8			Topics in Language and Culture (東南アジア・イベロ)		2		ARE 3	○	○
				スペイン語圏マス・ コミュニケーション論Ⅰ		2		COM 3	○	
				スペイン語圏マス・ コミュニケーション論Ⅱ		2		COM 3	○	
				スペイン語スピーチ・ コミュニケーションⅠ		2		COM 3	○	
				スペイン語スピーチ・ コミュニケーションⅡ		2		COM 3	○	
				スペイン語通訳法Ⅰ		2		COM 3	○	
				スペイン語通訳法Ⅱ		2		COM 3	○	
				スペイン語映像翻訳法Ⅰ		2		COM 3	○	
				スペイン語映像翻訳法Ⅱ		2		COM 3	○	
				スペイン語学研究Ⅰ		2		LIN 3	○	
				スペイン語学研究Ⅱ		2		LIN 3	○	
				スペイン語圏文学研究Ⅰ		2		LIT 3	○	
				スペイン語圏文学研究Ⅱ		2		LIT 3	○	
				商業スペイン語Ⅰ		2		LIN 2		○
				商業スペイン語Ⅱ		2		LIN 2		○
				メキシコ研究Ⅰ		2		SOC 3		○
				メキシコ研究Ⅱ		2		SOC 3		○
				スペイン美術史Ⅰ		2		HIS 2		○
				スペイン美術史Ⅱ		2		HIS 2		○
				スペイン文化研究Ⅰ		2		LIT 2		○
				スペイン文化研究Ⅱ		2		LIT 2		○
				スペイン時事研究Ⅰ		2		ARE 3		○
				スペイン時事研究Ⅱ		2		ARE 3		○
		ラテンアメリカ時事研究Ⅰ		2		ARE 3		○		
		ラテンアメリカ時事研究Ⅱ		2		ARE 3		○		

学科専攻指定研究科目一覧 【イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻】

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				言語 文化	地域 社会
必修	4	イベロアメリカ研究入門				2		ARE 1	○	○
		ブラジル研究入門				2		ARE 1	○	○
選択必修 I群	4	イベリア史概論 I				2		HIS 2	○	○
		イベリア史概論 II				2		HIS 2	○	○
		ラテンアメリカ史概論 I				2		HIS 2	○	○
		ラテンアメリカ史概論 II				2		HIS 2	○	○
		ブラジルの歴史				2		HIS 3	○	○
		ブラジルの民族・地理				2		HGE 3	○	○
		ポルトガル語学概論 I				2		LIN 2	○	○
		ポルトガル語学概論 II				2		LIN 2	○	○
選択必修 II群	6	ポルトガル語学研究 I				2		LIN 2	○	○
		ポルトガル語学研究 II				2		LIN 2	○	○
		西洋古典語概論 I (ラテン語)				2		LIN 2	○	
		西洋古典語概論 II (ラテン語)				2		LIN 2	○	
		西洋古典語概論 III (古典ギリシア語)				2		LIN 2	○	
		西洋古典語概論 IV (古典ギリシア語)				2		LIN 2	○	
		ロマンス語学概論				2		LIN 2	○	
		スペイン語学概論 I				2		LIN 2	○	
		スペイン語学概論 II				2		LIN 2	○	
		スペイン語の歴史と地理 I				2		LIN 3	○	
		スペイン語の歴史と地理 II				2		LIN 3	○	
		現代ラテンアメリカ文学 I				2		LIT 2	○	
		現代ラテンアメリカ文学 II				2		LIT 2	○	
		ラテンアメリカ政治論 I				2		POL 3		○
		ラテンアメリカ政治論 II				2		POL 3		○
		イベロアメリカの法と文化 I				2		LAW 2		○
		イベロアメリカの法と文化 II				2		LAW 2		○
		ブラジルの文化・芸術				2		ART 2		○
		ブラジルの宗教・社会				2		SOC 2		○
		ブラジルの政治・経済 I				2		POL 3		○
ブラジルの政治・経済 II				2		POL 3		○		
現代イベリア研究 I				2		SOC 3		○		
現代イベリア研究 II				2		SOC 3		○		
現代ラテンアメリカ研究 I				2		SOC 3		○		
現代ラテンアメリカ研究 II				2		SOC 3		○		
ラテンアメリカ経済論 I				2		ECO 3		○		
ラテンアメリカ経済論 II				2		ECO 3		○		
選択必修 III群	4	ポルトガル語通訳・ 翻訳法 I				2		COM 3	○	○
		ポルトガル語通訳・ 翻訳法 II				2		COM 3	○	○
		ポルトガル語圏総合研究 I				2		LIN 3	○	○
		ポルトガル語圏総合研究 II				2		LIN 3	○	○
		Topics in Language and Culture (東南アジア・イベロ)				2		ARE 3	○	○

学科専攻指定研究科目一覧 【国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻】 ※留学生含む

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				コミュニ ケーション	国際・ 日本
必修	8	国際コミュニケーション入門				2	国際コミュニケーション専攻のみ履修可	COM 1	○	○
		コミュニケーション論 I				2		COM 2	○	○
		異文化コミュニケーション論 I				2		COM 2	○	○
		Introduction to Japan Studies				2		LIT 2	○	○
選択必修 I 群	18	日本語パブリック・スピーキング				4		COM 2	○	○
		コミュニケーション論 II				2		COM 2	○	○
		異文化コミュニケーション論 II				2		COM 2	○	○
		多文化社会コミュニケーション論 I				2		COM 2	○	○
		組織コミュニケーション論 I				2		COM 2	○	○
		ジャーナリズム論 I				2		COM 2	○	○
		ジャーナリズム論 II				2		COM 2	○	○
		デジタル・メディアと社会 I				2		COM 2	○	○
		コミュニケーション研究法 I				2		COM 2	○	○
		コミュニケーション研究法 II				2		COM 2	○	○
		国際ビジネス・コミュニケーション論 I				2		COM 2	○	○
		国際ビジネス・コミュニケーション論 II				2		COM 2	○	○
		国際関係論 I				2		POL 2	○	○
		国際関係論 II				2		POL 2	○	○
		国際関係史 I				2		POL 2	○	○
		日本語スモールグループ・コミュニケーション				4		COM 2	○	
		日本語ディベート				4		COM 2	○	
		Debate				4	B基準	COM 3	○	
		Public Speaking				4	C基準	COM 3	○	
		多文化社会コミュニケーション論 II				2		COM 2	○	
		対人コミュニケーション論				2		COM 2	○	
		組織コミュニケーション論 II				2		COM 2	○	
		Leadership Communication I				2		COM 3	○	
		メディアリテラシー				2		COM 2	○	
		デジタル・メディアと社会 II				2		COM 2	○	
		メディア文化論 I				2		COM 2	○	
		メディア文化論 II				2		COM 2	○	
		メディア表現論 I				2		COM 2	○	
		メディア表現論 II				2		COM 2	○	
		メディア・コミュニケーション表現 I				2		COM 2	○	
		メディア・コミュニケーション表現 II				2		COM 2	○	
		認知言語学入門 I				2		LIN 2	○	
		認知言語学入門 II				2		LIN 2	○	
		国際開発論 I				2		SOC 3		○
		国際開発論 II				2		SOC 3		○
		国際機構論 I				2		POL 3		○
		国際機構論 II				2		POL 3		○
		国際協力論 I				2		SOC 2		○
		国際協力論 II				2		SOC 2		○
		国際マーケティング論 I				2		BUS 2		○
		国際マーケティング論 II				2		BUS 2		○
		国際社会論 I				2		POL 2		○
国際社会論 II				2		POL 2		○		
国際経営論 I				2		BUS 2		○		
国際経営論 II				2		BUS 2		○		
The History of Premodern Japan				2	C基準	HIS 3		○		
The History of Modern Japan				2	C基準	HIS 2		○		
Japanese Popular Culture I				2	C基準	ANT 2		○		
Japanese Popular Culture II				2	C基準	ANT 2		○		
Japanese Language and Culture				2	C基準	LIN 3		○		
Tourism and Local Cultures of Japan				2	C基準	ANT 2		○		

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況		
		1年	2年	3年	4年				コミュニ ケーション	国際・ 日本	
選択必修 I群	18	日本倫理想史 I				2		PHI 2		○	
		日本倫理想史 II				2		PHI 2		○	
		日本文学論 I				2		LIT 2		○	
		日本文学論 II				2		LIT 2		○	
		日本文化論 I				2		ANT 2		○	
		日本文化論 II				2		ANT 2		○	
		日本近代史				2		HIS 2		○	
		日本現代史				2		HIS 2		○	
		日本美術史 I				2		ART 2		○	
		日本美術史 II				2		ART 2		○	
		日本大衆文化論				2		ANT 2		○	
民族・宗教問題研究				2		ANT 2		○			
選択必修 II群	8					多様性と コミュニケーション I	2		COM 2	○	○
						多様性と コミュニケーション II	2		COM 2	○	○
						コミュニケーション 論特講 I	2		COM 3	○	
						コミュニケーション 論特講 II	2		COM 3	○	
						脳・心と コミュニケーション I	2		COM 3	○	
						脳・心と コミュニケーション II	2		COM 3	○	
						Leadership Communication II	2		COM 3	○	
						Media and Japanese Society	2	C基準	SOC 3	○	
						フィルム・スタディーズ I	2		COM 3	○	
						フィルム・スタディーズ II	2		COM 3	○	
						国際関係史 II	2		POL 2		○
						日本外交史	2		POL 3		○
						国際経済論 I	2		ECO 2		○
						国際経済論 II	2		ECO 2		○
						東アジア政治経済論 I	2		POL 3		○
						東アジア政治経済論 II	2		POL 3		○
						Japanese Literature	2	C基準	LIT 2		○
International Relations: Japan in a Global Context	2	C基準	POL 3		○						
Japanese Politics	2	C基準	POL 3		○						
Women's Studies in Japan	2	C基準	GEN 3		○						

学科専攻指定研究科目一覧 【国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻】

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				コミュニ ケーション	国際 ビジネス
必修	18		企業研究 I			2		BUS 2	○	○
			企業研究 II			2		BUS 2	○	○
			簿記会計 I			2		BUS 2	○	○
			簿記会計 II			2		BUS 2	○	○
			ビジネスリサーチ演習 I			2	国際ビジネスキャリア専攻のみ履修可	ECO 2	○	○
			ビジネスリサーチ演習 II			2	国際ビジネスキャリア専攻のみ履修可	ECO 2	○	○
			キャリアデザイン II (応用)			2	国際ビジネスキャリア専攻のみ研究科目として履修可。他学科専攻が履修した場合、自由選択科目となる	SOC 2	○	○
	ビジネス・インターンシップ			2	国際ビジネスキャリア専攻のみ研究科目として履修可。他学科専攻が履修した場合、自由選択科目となる	SOC 2	○	○		
			経営戦略		2		BUS 3	○	○	
選択必修 I 群	12		国際ビジネス・コミュニケーション論 I			2		COM 2	○	○
			国際ビジネス・コミュニケーション論 II			2		COM 2	○	○
			日本語パブリック・スピーキング			4		COM 2	○	
			日本語スモールグループ・コミュニケーション			4		COM 2	○	
			日本語ディベート			4		COM 2	○	
			Debate			4	B基準	COM 3	○	
			Public Speaking			4	C基準	COM 3	○	
			コミュニケーション論 I			2		COM 2	○	
			コミュニケーション論 II			2		COM 2	○	
			異文化コミュニケーション論 I			2		COM 2	○	
			異文化コミュニケーション論 II			2		COM 2	○	
			多文化社会コミュニケーション論 I			2		COM 2	○	
			多文化社会コミュニケーション論 II			2		COM 2	○	
			組織コミュニケーション論 I			2		COM 2	○	
			組織コミュニケーション論 II			2		COM 2	○	
			国際関係論 I			2		POL 2	○	
			国際関係史 I			2		POL 2	○	
			ジャーナリズム論 I			2		COM 2	○	
			ジャーナリズム論 II			2		COM 2	○	
			デジタル・メディアと社会 I			2		COM 2	○	
			デジタル・メディアと社会 II			2		COM 2	○	
			対人コミュニケーション論			2		COM 2	○	
			Leadership Communication I			2		COM 3	○	
			メディアリテラシー			2		COM 2	○	
			メディア文化論 I			2		COM 2	○	
			メディア文化論 II			2		COM 2	○	
			メディア表現論 I			2		COM 2	○	
			メディア表現論 II			2		COM 2	○	
			メディア・コミュニケーション表現 I			2		COM 2	○	
			メディア・コミュニケーション表現 II			2		COM 2	○	
			コミュニケーション研究法 I			2		COM 2	○	
			コミュニケーション研究法 II			2		COM 2	○	
			認知言語学入門 I			2		LIN 2	○	
			認知言語学入門 II			2		LIN 2	○	
	国際経営論 I			2		BUS 2		○		
	国際経営論 II			2		BUS 2		○		
	国際マーケティング論 I			2		BUS 2		○		
	国際マーケティング論 II			2		BUS 2		○		
	商法概論 I			2		LAW 2		○		
	商法概論 II			2		LAW 2		○		
	国際ビジネス法 I			2		LAW 3		○		
	国際ビジネス法 II			2		LAW 3		○		
	企業財務 I			2		BUS 3		○		
	企業財務 II			2		BUS 3		○		

区分	必要 単位数	履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル	コース指定状況	
		1年	2年	3年	4年				コミュニ ケーション	国際 ビジネス
選択必修 II群	4			多様性と コミュニケーション I	2		COM 2	○		
				多様性と コミュニケーション II	2		COM 2	○		
				コミュニケーション 論特講 I	2	重複履修可	COM 3	○		
				コミュニケーション 論特講 II	2	重複履修可	COM 3	○		
				脳・心と コミュニケーション I	2		COM 3	○		
				脳・心と コミュニケーション II	2		COM 3	○		
				Leadership Communication II	2		COM 3	○		
				Media and Japanese Society	2	C基準	SOC 3	○		
				マーケティング リサーチ	2		BUS 3		○	
				アントレプレナー シップ論	2		BUS 3		○	
				企業行動論 I	2		BUS 3		○	
				企業行動論 II	2		BUS 3		○	

学科専攻に属さない研究科目一覧

以下の科目は学科専攻に属さない研究科目である。修得した場合、研究科目（その他）として加算される。各課程科目については課程科目のページを参照すること。

【児童英語教育】

履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル
1年	2年	3年	4年			
	児童英語教育実習（船橋）			2	「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」	PED 3
	児童英語教育実習（沖縄）			2	「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」を修得済、かつTOEFL ITP 500点又はi B T 60点、IELTS 5.5点程度の英語力又は英検準1級	PED 3
	児童英語海外実習（アメリカ）			2	「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」	PED 3
	児童英語海外実習（ニュージーランド）			2	「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」を修得済、かつTOEFL ITP 500点又はi B T 60点、IELTS 5.5点程度の英語力又は英検準1級	PED 3

【日本語学・言語学】

履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル
1年	2年	3年	4年			
	日本語学概論			4		LIN 2
	日本語学 I			4		LIN 2
	日本語学 II			4		LIN 2
	日本語表現法 I			2		LIN 2
	日本語表現法 II			2		LIN 2
	日本語教育概論			2		PED 3
	日本語教授法			4	「日本語学概論」「日本語学 I」「日本語学 II」「日本語教育概論」4科目全て修得済	PED 3
	日本語教育実習			2	「日本語教授法」修得済	PED 3
	心理言語学			4		LIN 2

【通訳・翻訳】

履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル
1年	2年	3年	4年			
	通訳・翻訳への招待			2		COM 2
	英語通訳法Ⅲ			4	A基準	COM 3
	英語通訳法Ⅳ			4	S基準	COM 3
	英語映像翻訳法			4	A基準	COM 3
		通訳演習 (a)		2	英米語学科通訳翻訳課程履修者以外の学生は履修不可	COM 3
		通訳演習 (b)		2	英米語学科通訳翻訳課程履修者以外の学生は履修不可	COM 3
		翻訳演習 (a)		2	英米語学科通訳翻訳課程履修者以外の学生は履修不可	COM 3
		翻訳演習 (b)		2	英米語学科通訳翻訳課程履修者以外の学生は履修不可	COM 3
	日中通訳法 I			4	留 学 生：「日本語特別演習 I」修得済、かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 一般学生：「中国語検定1級」相当	COM 3
	日中通訳法 II			4	留 学 生：「日本語特別演習 I」修得済、かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 一般学生：「中国語検定1級」相当	COM 3
	日韓・韓日通訳法 I			2	留 学 生：「日本語特別演習 I」修得済、かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 一般学生：「韓国語能力試験6級」相当	COM 3
	日韓・韓日通訳法 II			2	留 学 生：「日本語特別演習 I」修得済、かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 一般学生：「韓国語能力試験6級」相当	COM 3

【コミュニケーションとメディアデザイン】

履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル
1年	2年	3年	4年			
非言語コミュニケーション論Ⅰ				2		COM 2
非言語コミュニケーション論Ⅱ				2		COM 2
デジタル・メディアとコミュニケーションⅠ				2		COM 2
デジタル・メディアとコミュニケーションⅡ				2		COM 2
ソフトウェアデザインⅠ				2		COM 2
ソフトウェアデザインⅡ				2		COM 2
	プログラミングⅠ			2		COM 2
	プログラミングⅡ			2		COM 2
	ウェブデザインⅠ			2		COM 2
	ウェブデザインⅡ			2		COM 2
	グラフィックデザインⅠ			2		COM 2
	グラフィックデザインⅡ			2		COM 2

【思想・宗教】

履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル
1年	2年	3年	4年			
言語哲学Ⅰ				2		PHI 2
言語哲学Ⅱ				2		PHI 2
日本の宗教				2		PHI 2
日本近代思想史Ⅰ				2		PHI 2
日本近代思想史Ⅱ				2		PHI 2
比較思想Ⅰ				2		PHI 2
比較思想Ⅱ				2		PHI 2
キリスト教文化論Ⅰ				2		PHI 2
キリスト教文化論Ⅱ				2		PHI 2
イスラム文化論Ⅰ				2		PHI 2
イスラム文化論Ⅱ				2		PHI 2

【文化・芸術】

履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル
1年	2年	3年	4年			
日本芸能史Ⅰ				2		HIS 2
日本芸能史Ⅱ				2		HIS 2
文化について考える				2	4単位まで履修可	ANT 1
民族と文化Ⅰ				2		ANT 2
民族と文化Ⅱ				2		ANT 2
文化人類学概論Ⅰ				2		ANT 2
文化人類学概論Ⅱ				2		ANT 2
文化人類学研究Ⅰ				2		ANT 2
文化人類学研究Ⅱ				2		ANT 2
	比較文学概論Ⅰ			2		LIT 2
	比較文学概論Ⅱ			2		LIT 2
	文化心理学Ⅰ			2		PSY 2
	文化心理学Ⅱ			2		PSY 2
健康科学論				2		SPO 1
スポーツ文化論Ⅰ				2		SPO 2
スポーツ文化論Ⅱ				2		SPO 2
ジェンダー論				2		GEN 2
演劇「実技」Ⅰ				1		ART 2
演劇「実技」Ⅱ				1		ART 2

【国際・法律】

履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル
1年	2年	3年	4年			
国際社会が見えてくる				2		SOC 1
国際法Ⅰ				2		LAW 2
国際法Ⅱ				2		LAW 2
民法概論Ⅰ				2		LAW 2
民法概論Ⅱ				2		LAW 2
人権論				2		LAW 2
法と国際ビジネス				2		LAW 3
国際平和論Ⅰ				2		POL 3
国際平和論Ⅱ				2		POL 3

【政治経済・地域社会】

履修年次				単位	履修条件	ナンバリング 分野・レベル
1年	2年	3年	4年			
日本政治論				2		POL 3
日本経済論				2		ECO 3
日本社会論				2		SOC 3
ヨーロッパ政治経済論Ⅰ				2		POL 3
ヨーロッパ政治経済論Ⅱ				2		POL 3
アフリカ研究入門Ⅰ				2		ARE 1
アフリカ研究入門Ⅱ				2		ARE 1
	地域研究			2		ARE 2
社会調査法Ⅰ				2		BIN 2
社会調査法Ⅱ				2		BIN 2
環境科学Ⅰ				2		ENV 2
環境科学Ⅱ				2		ENV 2

(6) 演習科目・卒業研究

演習科目は、「研究演習」、「応用演習」の2種類の科目から構成され、卒業までに4単位を修得することが必要です。3年次に「研究演習」又は「応用演習」のいずれか一方の科目を選んで演習科目の履修を始めるのが一般的です。

「卒業研究」は、「研究演習」を履修している4年次生が履修できる科目であり、所属の「研究演習」の教員の指導の下、本学での学修成果を卒業論文等の形でとりまとめます。

自分が希望する演習科目での学修効果を高めるためには、1年次から4年次までの学年進行において、どのような科目を履修するのか考慮することが重要です。授業担当教員に相談したり、「ゼミ説明会」・「オープンゼミ」等にも積極的に参加して、適切な情報に基づいて判断するようにしてください。

科目名	履修年次	単位数		備考	必要単位数
		選択必修	選択		
研究演習	3～4	4			4
応用演習	3～4	4			
卒業研究	4		4	履修条件：研究演習同時履修	(選択)

(6)-1. 研究演習

「研究演習」とは、いわゆる少人数制のゼミナール（ゼミ）です。講義とは異なり、学生が自ら積極的に授業に参加し、発表・討論することで進行していきます。研究科目・語学必修科目の学修を前提として、学術的な研究を深め、成果物の作成を目指すような内容の科目が多くあります。

2年間の継続を前提とする科目／1年間のみの履修が可能な科目、一定程度の語学力を前提に進める科目など、科目ごとの特色の差が大きいことから、事前にシラバス等で所属を希望する「研究演習」の情報を収集しましょう。

(6)-2. 応用演習

「応用演習」も、「研究演習」と同様に、学生が自ら積極的に授業に参加し、発表・討論することで進行していきます。ただし、1年間で完結する形で、一定のテーマについて、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げていく点が異なります。

(6)-3. 卒業研究

「卒業研究」は普通の科目とは大きく異なり、研究演習担当教員の指導の下、学生が自ら論文又は制作物をまとめ上げるものです。評価は、そのプロセス及び結果に対して行われます。研究演習の授業と密接に連動する形で行われることから、4年次で「研究演習」を履修している教員の許可がある場合のみ、「卒業研究」を履修することができます。

【履修上の注意】

- イ. 「研究演習」は、同一の授業科目を2年連続して履修することができます。通年の履修に4単位が付与されることから、2年連続で履修して単位修得した場合は、合計単位数が8単位になります。「応用演習」は、同一の授業科目を2年連続して履修することはできませんが、定員に空きがある場合、3年次と4年次で異なる「応用演習」の科目を履修することは可能です。研究演習、応用演習を1年ずつ履修することも可能です。
- ロ. 演習科目を履修しないと卒業要件を満たせないことから、「研究演習」「応用演習」いずれかを3年次に履修することを強く推奨します。1学年につき履修可能な演習科目の数は、「研究演習」1科目、又は「応用演習」1科目となります。
- ハ. 「研究演習」「応用演習」のいずれか4単位が必修となります。演習科目（「研究演習」「応用演習」）を4単位を超えて修得した場合、「卒業研究」を修得した場合は、余剰分の単位は「研究科目（その他）」に算入できます。
- ニ. 3年次後期から1年間の留学をする場合、3年前期・4年後期に同一の演習科目を継続履修（※）し、卒業に必要な4単位を修得することが可能です。
その他の期間で留学する場合は、1年間在学する学年で演習科目を履修することにより、卒業要件を満たしてください。
- ホ. 留学・休学により、「研究演習」を半期しか履修できない学年についても、3年次・4年次の残りの3学期間で同一の研究演習を継続する場合、1年間在学する学年での履修に4単位付与するほか、半期のみの履修期間についても、研究演習の単位を2単位付与することが可能です。
- ヘ. 演習科目・卒業研究の履修手続きの詳細については、各年度の初めにKUIS Campus Webで配布する「学年暦・注意事項等」の「研究演習及び卒業研究について」を参照してください。

※ 継続履修

- ・ 3年次後期から1年間の留学をする場合、3年前期・4年後期に、同一担当教員の同一科目を履修することで、通年科目として成績処理をすることが可能です。
- ・ この「通年科目の履修に関する特別措置」は、認定留学制度による留学だけでなく、休学して留学する場合にも適用されます。ただし、休学の場合は申請時のGPA（全体）が2.3以上であることが条件となります。

(7) 教職科目

- イ. 教育職員免許状取得に関わる授業科目は、1年次から履修できます。
- ロ. 教育職員免許状取得については、KUIS Campus Web、教職用Google Classroomで指示があるので、注意してください。
- ハ. 教職科目のうち、「教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」は、履修した場合自由選択科目として8単位まで卒業要件単位に充てることができます。
- ニ. 授業科目の一覧及び履修年次については、「XV 教職課程履修要項」を参照してください。
- ホ. 「介護等体験実習」はハ. の8単位とは別に自由選択科目として1単位を卒業要件に充てることができます。

(8) 自由選択科目

自由選択科目は、下記の科目を充てることができます。

- イ. 各科目群の要件を超えて修得した単位
 - ロ. 教職科目の一部科目8単位まで及び「介護等体験実習」(1単位) ((7)教職科目のハ. 及びホ. 参照)
 - ハ. 大学院言語科学研究科日本語学専攻の科目のうち、学部学生に開放された科目
＜履修条件＞
 - ・履修学年 学部3～4年生
 - ・事前に科目担当教員の承認を受け、履修登録期間に教務部で所定の手続きを行うこと開放科目は年度毎に定められ、KUIS Campus Webで配布される「時間割」冊子に掲載されます。科目の概要は電子シラバスで確認できますが、学部学生が履修する場合、別に履修条件が定められていることがあります。不明な点は教務部へ問い合わせてください。
 - ニ. 放送大学授業科目(20単位まで)
 - ホ. 千葉県私立大学間単位互換包括協定に基づく他大学の授業科目(20単位まで)
 - ヘ. 千葉圏域コンソーシアム単位互換協定に基づく千葉大学、敬愛大学、城西国際大学の授業科目(20単位まで)
- (ニ.～ヘ. 「X 他大学及び他機関で修得した単位の認定等について 1. 単位の認定」参照)
- ト. 国内外留学制度を利用して修得した単位のうち、自由選択科目に区分されたもの
 - チ. 別表記載の科目
 - 別表1
 - 別表2(語学能力検定試験単位認定制度により修得した単位)
 - 別表3(TOEIC演習、TOEFL演習)

自由選択科目 別表1

授 業 科 目 の 名 称	履修年次	単位数		備 考
		必修	選択	
キャリアデザインⅡ (応用)	2～4		2	※1
キャリア開発	1～4		1	重複履修可
ビジネス・インターンシップ	2～4		2	評価は「P」※1、2
学習支援活動ボランティア	1～4		1	重複履修は不可、評価は「P」
外国語学習における個別学習指導論	2～4		2	
海外実地研修 (ビジネス)	1～4		1～6	重複履修可、評価は「P」 海外オンラインプログラムを含む ※3、4
海外実地研修 (英語)	1～4		1～6	
海外実地研修 (中国語)	1～4		1～6	
海外実地研修 (韓国語)	1～4		1～6	
海外実地研修 (スペイン語)	1～4		1～6	
海外実地研修 (ポルトガル語)	1～4		1～6	
海外実地研修 (インドネシア語)	1～4		1～6	重複履修可、評価は原則「A+、A、B、C」 海外オンラインプログラムを含む ※3、4 海外オンラインプログラムの評価は「P」
海外実地研修 (ベトナム語)	1～4		1～6	
海外実地研修 (タイ語)	1～4		1～6	
日本語総合講座Ⅱ	1～4		2	国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻留学生は外国語科目(選択必修)※5
日本語総合講座Ⅳ	1～4		2	
日本語総合講座Ⅴ	1～4		2	
日本語表現演習	2～4		2	
トライ・中国語	1～4		1	・アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科の学生は、それぞれの専攻地域言語以外の言語を履修すること。 ・同一言語の履修は1回のみ。 ・異なる言語の履修は制限なし。 ※6
トライ・スペイン語	1～4		1	
トライ・韓国語	1～4		1	
トライ・フランス語	1～4		1	
トライ・ドイツ語	1～4		1	
トライ・イタリア語	1～4		1	
トライ・ロシア語	1～4		1	
トライ・アラビア語	1～4		1	
トライ・ベトナム語	1～4		1	
トライ・インドネシア語	1～4		1	
トライ・ポルトガル語	1～4		1	
トライ・タイ語	1～4		1	
トライ・ことばと文化	1～4		1	

- ※1 国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の学生が履修した場合、研究科目として扱います。原則として「キャリアデザインⅡ(応用)」→「ビジネス・インターンシップ」の順で履修してください。
- ※2 国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻は「ビジネス・インターンシップ(IBC)」、それ以外の学科専攻は「ビジネス・インターンシップ」を履修登録すること。履修登録をして、実習に参加できなかった場合は、単位認定教員が指定する期限までに同教員宛に申請することで履修を中止することが可能です。
- ※3 海外オンラインプログラムについては受講時間数に応じて付与する単位数を算出します。
- ※4 海外オンラインプログラムについては実態に即して適宜内容を見直す場合があります。
- ※5 履修希望者が多い場合は人数制限を行う場合もありますので、初回授業に必ず出席してください。
- ※6 履修希望者が多い場合は人数制限を行う場合があります。

自由選択科目 別表2

科目名	履修年次	単位数	内 容	
検定試験（英語） ※1	1～4	2	<英米語学科、国際コミュニケーション学科> TOEIC L&R 730以上、英検準1級、TOEFL ITP 520以上、TOEFL iBT 68以上、IELTS 6.0以上	
		4		TOEIC L&R 860以上、英検1級、TOEFL ITP 600以上、TOEFL iBT 100以上、IELTS 7.0以上
		2	<アジア言語学科、イペロアメリカ言語学科> TOEIC L&R 650以上、TOEFL ITP 500以上、TOEFL iBT 61以上、IELTS 5.5	
		4		TOEIC L&R 730以上、英検準1級、TOEFL ITP 520以上、TOEFL iBT 68以上、IELTS 6.0以上
6	TOEIC L&R 860以上、英検1級、TOEFL ITP 600以上、TOEFL iBT 100以上、IELTS 7.0以上			
検定試験（中国語） ※2	1～4	2	<中国語専攻> 中国語検定試験 2級 あるいは 漢語水平考試 (HSK) 5級 (180点以上210点未満)	
		4		中国語検定試験 準1級 あるいは 漢語水平考試 (HSK) 5級 (210点以上)
		6		中国語検定試験 1級 あるいは 漢語水平考試 (HSK) 6級 (180点以上) +口試高級※
		2	<中国語専攻以外> 中国語検定試験 3級 あるいは 漢語水平考試 (HSK) 4級 (180点以上)	
4	中国語検定試験 2級 あるいは 漢語水平考試 (HSK) 5級 (180点以上210点未満)			
6	中国語検定試験 準1級 あるいは 漢語水平考試 (HSK) 5級 (210点以上)			
検定試験(スペイン語)	1～4	1	<スペイン語専攻> DELE A2(初級)、SIELE A2、スペイン語技能検定4級	
		2		DELE B1(中級)、SIELE B1
		3		スペイン語技能検定3級
		4		DELE B2(中上級)、SIELE B2
		5		DELE C1(上級)、SIELE C1、スペイン語技能検定2級
		6		DELE C2(最上級)、スペイン語技能検定1級
		1	<スペイン語専攻以外> DELE A1(入門)、SIELE A1、スペイン語技能検定5級	
		2		DELE A2(初級)、SIELE A2、スペイン語技能検定4級
		3		DELE B1(中級)、SIELE B1
		4		スペイン語技能検定3級
		5		DELE B2(中上級)、SIELE B2
		6		DELE C1(上級)、SIELE C1、スペイン語技能検定2級
検定試験（韓国語）	1～4	2	<韓国語専攻> ハングル能力検定試験準2級、韓国語能力試験4級	
		4		ハングル能力検定試験2級、韓国語能力試験5級
		6		ハングル能力検定試験1級、韓国語能力試験6級
		2	<韓国語専攻以外> ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験2級	
		4		ハングル能力検定試験3級、韓国語能力試験3級
		6		ハングル能力検定試験準2級、韓国語能力試験4級
検定試験(インドネシア語)	1～4	2	<インドネシア語専攻> インドネシア語技能検定試験C級	
		3		インドネシア語技能検定試験B級
		4		インドネシア語技能検定試験A級
		2	<インドネシア語専攻以外> インドネシア語技能検定試験D級	
		3		インドネシア語技能検定試験C級

科目名	履修年次	単位数	内 容
検定試験(ポルトガル語)	1～4	1	<ブラジル・ポルトガル語専攻> CAPLE 準初級(CIPLE)A 2
		2	CAPLE 初級(DEPLE)B 1、Celpe-Bras 中級
		3	CAPLE 中級(DIPLE)B 2、Celpe-Bras 中上級
		5	CAPLE 上級(DAPLE)C 1、Celpe-Bras 上級
		6	CAPLE 大学級(DUPLE)C 2、Celpe-Bras 最上級
		1～4	1
			2
		検定試験(フランス語)	1～4
2	実用フランス語技能検定 3 級、TCF レベル 1、DELTA A 1		
3	実用フランス語技能検定 2 級、TCF レベル 2、DELTA A 2		
4	実用フランス語技能検定 2 級、TCF レベル 3、DELTA B 1		
検定試験(ドイツ語)	1～4	1	ドイツ語技能検定 4 級
		2	ドイツ語技能検定 3 級
		3	ドイツ語技能検定 2 級
検定試験(イタリア語)	1～4	1	実用イタリア語検定 5 級
		2	実用イタリア語検定 4 級
		3	実用イタリア語検定 3 級
検定試験(日本語) ※ 3	1～4	2	日本語能力試験N1 (160～180点)、BJT ビジネス日本語能力 テストJ1 レベル (530～599点)、J.TEST実用日本語検定B級 (800点以上)
		4	BJT ビジネス日本語能力テストJ1+ レベル (600～800点)、 J.TEST実用日本語検定A級 (900点以上)

- ※ 1 アジア言語学科、イペロアメリカ言語学科の学生が修得した場合、英語科目選択必修科目となります。
- ※ 2 「HSK 6 級 (筆試)」と「口試高級」の取得は、同一学期でなくても申請を受け付けます。「HSK 5 級」以下の単位認定を受けていない場合は「HSK 6 級 (筆試)」のみの申請で 4 単位を認定します。
- ※ 3 検定試験(日本語)については国際コミュニケーション学科の「外国人留学生特別選抜試験」を経て入学した外国人留学生もしくは、在留資格が「留学」となっている外国人留学生のみ認定されます。

上記の検定試験(外国語)は、成績評価「P」となり、認定は学期ごとに行います。本学での学習成果に対する単位認定という趣旨から、対象となるスコアは入学後に取得したものに限りません。また、母語でないものとします。なお、同じ言語についての上位スコア(2回目以降)の単位認定では、すでに認定された単位を差し引いた単位数だけが認定されます。

例 1) 英米語学科の学生が前期に TOEFL ITP 520 点を取得し 2 単位の認定を受けている場合に、同じ学生が後期に TOEFL ITP 600 点(4 単位相当)を取得し単位認定を受けた場合、新たに認定される単位数は、4 単位からすでに認定されている 2 単位を差し引いた「2 単位」となる。

また、それぞれの認定単位数はスコア基準ごとの上限単位数であり、併記されている複数の試験について重複して認定されることはありません。

例 2) 英米語学科の学生が、TOEIC L&R 730 点(2 単位相当)と TOEFL ITP 520 点(2 単位相当)を取得した場合、いずれか一方についてのみ申請を受け付け、2 単位が認定される。

認定にあたっては、教務部へ所定の申請手続きが必要です。申請期間は、前・後期の履修登録期間後に設けます。ひとつ前の学期に取得した検定試験のスコアが申請の対象となります(4 年次後期のみ、学期末に別途申請期間を設けます)。認定された単位は履修上限には含まれません。詳しい申請期間やスコアの有効期間、手続き方法等は KUIS Campus Web の掲示で確認してください。

自由選択科目 別表3

※ 学科専攻によっては、英語科目選択必修科目あるいは外国語科目英語・日本語選択科目などとして扱われます。

(1) TOEIC演習 (注1)

科目名	履修年次	単位数	履修条件・備考
TOEIC 500演習	1～4	1	TOEIC L&R 500点をを目指すコース TOEIC L&R 500点未満
TOEIC 600演習	1～4	1	TOEIC L&R 600点をを目指すコース TOEIC L&R 400点以上600点未満 (TOEIC未受験の場合は、TOEFL C基準(ITP 480, iBT 54)以上)
TOEIC 700演習	1～4	1	TOEIC L&R 700点をを目指すコース TOEIC L&R 500点以上700点未満 (TOEIC未受験の場合は、TOEFL C基準(ITP 480, iBT 54)以上)
TOEIC 800演習	1～4	1	TOEIC L&R 800点をを目指すコース TOEIC L&R 600点以上800点未満 (TOEIC未受験の場合は、TOEFL B基準(ITP 500, iBT 61)以上)
TOEIC 900演習	1～4	1	TOEIC L&R 900点をを目指すコース TOEIC L&R 700点以上900点未満 (TOEIC未受験の場合は、TOEFL A基準(ITP 520, iBT 68)以上)

(注1)・アジア言語学科、イペロアメリカ言語学科、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の学生が履修する場合、英語科目選択必修科目となります。

- ・国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻留学生在履修する場合、外国語科目英語・日本語選択科目となります。
- ・履修条件を満たしていれば、隣接するレベルの科目を並行履修することも可能です。ただし、オンデマンド式クラスを複数、同時に履修することはできません。
- ・上記のいずれの科目も、出席などの条件を満たした上で、履修期間中に行われるTOEIC L&R公開テストまたは学内IPテストにおいて、各科目の目標スコアを超えなければ単位が発行されません。
- ・TOEICとTOFELのどちらも未受験で「TOEIC 600 演習」以上の科目の履修を希望する人は、担当教員に相談してください。他の試験（英検やGTECなど）の結果により履修の可否を判断します。

(2) TOEFL演習 (注2)

科目名	履修年次	単位数	履修条件・備考
TOEFL ITP 480演習	1～4	1	TOEFL C基準を目指すコース TOEFL ITP 480演習を未修得
TOEFL ITP 500演習	1～4	1	TOEFL B基準を目指すコース TOEFL C基準(ITP 480, iBT 54)以上 B基準(ITP 500, iBT 61)未満 TOEFL iBT 68演習 Listening/Reading 及び TOEFL iBT 68演習 Speaking/Writing との同時履修可
TOEFL iBT 68演習 Listening/Reading	1～4	1	TOEFL iBT A基準を目指すコース 4技能のうちListeningとReadingそれぞれ17点取得を目指す TOEFL C基準(ITP 480, iBT 54)以上 A基準(ITP 520, iBT 68)未満 TOEFL ITP 500演習との同時履修可
TOEFL iBT 68演習 Speaking/Writing	1～4	1	TOEFL iBT A基準を目指すコース 4技能のうちSpeakingとWritingそれぞれ17点取得を目指す TOEFL C基準(ITP 480, iBT 54)以上 A基準(ITP 520, iBT 68)未満 TOEFL ITP 500演習との同時履修可
TOEFL iBT 80演習 Listening/Reading	1～4	1	TOEFL iBT 80を目指すコース 4技能のうちListeningとReadingそれぞれ20点取得を目指す TOEFL ITP 520以上 TOEFL iBT 68以上80未満
TOEFL iBT 80演習 Speaking/Writing	1～4	1	TOEFL iBT 80を目指すコース 4技能のうちSpeakingとWritingそれぞれ20点取得を目指す TOEFL ITP 520以上 TOEFL iBT 68以上80未満

(注2)・英米語学科の学生が履修する場合、英語科目選択必修科目となります。

- ・国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻留学生が履修する場合、外国語科目英語・日本語選択科目となります。
- ・国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の学生が「TOEFL iBT 68演習 Listening/Reading」、「TOEFL iBT 68演習 Speaking/Writing」、「TOEFL iBT 80演習 Listening/Reading」、「TOEFL iBT 80演習 Speaking/Writing」を履修する場合、英語科目選択必修科目となります。
- ・「TOEFL iBT 80演習 Listening/Reading」、「TOEFL iBT 80演習 Speaking/Writing」履修条件の特例

英米語学科以外の学生で、入学時にTOEICのA基準 (TOEIC L&R 730点以上) を達成している者が履修を希望した場合、1年次前期に限り、担当教員との面談によりTOEFL未受験であっても履修を許可することがあります。

特例での履修を希望する学生は、最初の授業でTOEIC A基準を充たしているスコアを持参し、担当教員から履修許可を得てください。その上で、前期履修登録期間に教務部で所定の手続きを行ってください。

なお、この特例は1年次前期の「TOEFL iBT 80演習 Listening/Reading」、「TOEFL iBT 80演習 Speaking/Writing」のみに適用されるものであり、その他の「TOEFL演習」や1年次後期以降には特例措置はありません。

TOEIC演習・TOEFL演習共通の注意事項

- ・「TOEIC演習」と「TOEFL演習」の両方を、同時に履修することができます。
- ・第1回授業でTOEIC L&R/TOEFL最高スコア（公開テスト、学内IP/ITPテストどちらでも可）を提示してください。
- ・評価は「P」または「F」となります。（GPA算出対象外）
- ・「TOEIC演習」及び「TOEFL演習」の履修者で、自由選択科目別表2の「検定試験（英語）」で定められたスコアを超えた場合は、申請すればさらに単位認定を受けることができます。対象となるスコアと認定される単位数は、学科専攻により異なるので、上記の表を参照してください。

Ⅸ 試験及び学力評価について

1. 試験

1) 試験の種類

試験の種類は、次の3種類です。

- イ. 期末試験
- ロ. 平常試験
- ハ. レポート

上記の他、追試験及び進級再試験、卒業再試験、教職科目再試験、選択外国語科目再試験があります。

2) 期末試験

- イ. 期末試験とは、その試験の結果により当該科目の単位修得の可否及び成績評価を決定づける試験であり、原則として大学が定めた期末試験期間に行われるものを指します。(授業期間に行われることもあります。)
- ロ. 追試験は、以下の理由で期末試験に欠席し、担当教員に承認された場合、受験することができます。受験を希望する場合、必ず証明書を用意した上で教務部の指示を受けてください。証明書が用意できない場合は、追試験の申し込みは出来ません。ただし、すべての科目で追試験が実施されるとは限らないので注意してください。公欠(以下の理由A及びB)によって期末試験を受験できなくなった学生については、所定の手続きを取れば受験できなかった全ての科目で追試もしくはそれに代わる措置を講じるものとします。ただし、その場合でも追試設定日やレポート提出期限は、前期は8月中旬まで、後期は2月上旬を限度とします。授業期間に行われる期末試験を欠席した場合の取り扱いについては、教員、教務部の指示を受けてください。

理 由	証 明 書
A. (公欠) 学校感染症	KUIS登校許可書 (p.18「公欠」学校感染症に罹患した場合を参照)
B. (公欠) 裁判員制度による欠席	裁判員制度による「公欠」の確認書 (p.18「公欠」裁判員制度による欠席を参照)
C. 病気(学校感染症を除く)	医師の診断書または病院の医療費領収書等
D. 忌引(三親等以内の通夜と葬儀。法事は含まない。)	葬儀の日程などがわかる印刷物
E. 就職試験	就職試験受験を証明するもの
F. 災害(台風・水害・火災等)	被災証明書
G. 交通関係	遅延証明書(遅延)、事故証明書(事故)
H. 教育実習	教育実習参加証明書(教職係にて発行)
I. 体育スポーツセンターが認定する公式戦への出場	体育スポーツセンター長・学生委員長連名の欠席届

ハ. 追試験の申し込みについては、次のことに注意してください。

- ① 追試験の受験を希望する場合、事前に担当教員へ直接連絡してください。ただし教員から追試験についての指示や連絡先が教えられていない場合には、教務部まで連絡してください。急な欠席の場合は当日中(やむを得ない場合は翌日の17時まで)に連絡してください。連絡のない場合には、追試験の受験資格がなくなります。追試験申請手続きは、当該科目の試験日から1週間以内に、教務部に証明書等を持参して追試験願(指定書式)を提出してください。当該科目担当教員から受験が許可された場合、追試験手数料(1つの事由につき一律1,500円)を納入して、手続きをしてください。なお、授業期間に行われる期末試験の追試験については、追試験手数料納入の必要はありません。
- ② 寝坊や勘違いなどの学生本人の責任に帰する理由は、一切認めません。

3) 平常試験

- イ. 通常授業中に行う平常試験では、教務部手続きによる追試験はありません。欠席等の場合は、直接担当教員に連絡して指示を受けてください。
- ロ. 公欠の場合は追試験は行われますが教務部での手続きは不要です。実施時期については、担当教員の指示を受けてください。

4) レポート

- イ. レポートは、提出方法、提出期限、用紙等を十分に担当教員に確認のうえ、必ず学生本人が科目担当教員に提出してください。
- ロ. 公欠の場合には、レポートの提出期限は延長できるものとします。教務部での手続きは不要です。提出期限については、担当教員の指示を受けてください。

5) 受験上の注意

- イ. 試験会場においては、学生証（追試験手数料を納入した場合は追試験手数料領収書を、進級再試験、卒業再試験、教職科目再試験、選択外国語科目再試験の場合は受験票を添える）を、必ず机の上に置いてください。学生証を所持しない学生は、受験できません。学生証を忘れた場合は、教務部で「仮学生証」（当日のみ有効）の交付を受けてください。
- ロ. 試験開始後、15分以上の遅刻者は、受験することができません。また試験開始後20分を過ぎるまでは退場できません。入退室の許可については、担当教員の指示に従ってください。
- ハ. 試験答案に記名を忘れた場合は、未受験の扱いとなります。
- ニ. スマートフォン・携帯電話・ウェアラブル端末・その他の電子機器類は、電源を切ってかばんの中にしまってください。
- ホ. その他試験について別途指示することがあるので、注意してください。

6) 不正行為厳禁

- イ. レポートや論文で、他人が書いたものやインターネットの記述を丸写ししたり、資料や情報の出典を明記せずに使用してはいけません。それは剽窃（盗作）にあたる不正行為であり、著作権を侵害する犯罪です。
- ロ. 期末試験・平常試験で不正行為をした場合は、①その科目の単位は失格（不合格）となり、かつ、②当該学期の全履修登録科目も失格（不合格）となります。③さらに、譴責（けんせき）や停学等の処分を受けることがあります。

不正行為とは、試験（クイズ、小試験、平常試験、期末試験のすべてを含む）において正当な手段をとらずに自己の解答を作成すること、他人の不正行為を助けたり、監督者の指示に従わないことです。例えば、他の学生の答案を見る、他の学生に自分の答案を見せる、答えを口頭で教える、カンニングペーパーを使用する、などの行為です。

なお、疑われるような不審な行動も不正行為とみなされます。試験場では必ず注意事項を守り、監督者の指示に従うようにしてください。監督者の指示に従わないことも不正行為となります。

7) 授業科目における生成系AI（ChatGPT等）の利用について（注意・禁止事項）

近年、人工知能（AI）技術は急速に発展し、画像や文書などのテキストを自動的に作成する生成系AI（ChatGPT等）が開発され、利用できるようになってきました。こうしたツールによって生成される文章、翻訳、質問応答には精度の高い情報が含まれており、今後、社会で広く活用されていくことが予測されます。その一方で、大学では、生成系AIとどのように対峙し、活用していくべきかが喫緊の課題となっています。

皆さんは、外国語の学習とそれに連なる様々な研究領域の知識を学習する過程で、多種多様な情報を吟味し、それらを自分の中に取り込み、知識の体系として統合していくことのできる批判的思考力を獲得することが期待されています。したがって、AIの正負両面の特性を理解し、社会において有効に活用することのできるリテラシーを獲得して欲しいと考えます。

授業科目における課題等の作成においては、安易に生成系AIを利用することなく、利用する場合は以下の点に留意してください。

- イ. 生成系AIの出力をそのまま授業のレポート等に用いることは、「不正行為（剽窃）」とみなされます。
- ロ. 授業担当教員によって生成系AIの使用が認められる場合は、必ずその指示に従ってください。
- ハ. 生成系AIの出力には誤った情報が含まれていることがあります。生成系AIの出力を用いる場合は、自らその信憑性を確認する必要があります。

- ニ. 生成系AIはインターネット上のコンテンツを利用してテキストを生成しているため、利用者は知らずして著作権を侵害する可能性があります。
- ホ. 個人情報、未発表の著作物などを生成系AIに入力すると、意図せずして機密情報が流出、漏洩し、社会的な責任が問われる可能性があります。
- ヘ. 生成系AIに入力した情報は、データベースに蓄えられ、他の利用者への回答に利用される可能性があります。そのため、個人情報、学籍番号、メールアドレスなどは、絶対に入力しないでください。

2. 学力の評価

1) 学力の評価

評価は「A+」、「A」、「B」、「C」、「F」、「P」の6種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～90点	A+	} 合格
89～80点	A	
79～70点	B	
69～60点	C	
認定	P	
59～0点	F	—— 不合格

ただし、卒業再試験、進級再試験（中国語専攻、韓国語専攻、ブラジル・ポルトガル語専攻のみ）、教職科目再試験、選択外国語科目再試験（英米語学科、国際コミュニケーション学科のみ）の評価は、「C」、「F」の2種類（認定科目は「P」）によって表示します。

2) 成績発表

成績は、KUIS Campus Webの成績照会画面で通知します。また、保証人に対しては別途成績通知表を郵送します。成績発表時期等については、KUIS Campus Web及び掲示板で連絡します。

3) 卒業要件の確認

イ. Campus Webの成績照会画面によって、学期毎に卒業要件、研究コースの修了要件を自分がどれだけ満たしているかを確認してください。確認を怠って4年間での卒業が困難とならないよう慎重に学修計画をたててください。

ロ. 成績確認画面の「単位修得状況を見る」タブの見方について

単位修得状況の見方

下記レイアウトは学科や入学年度によって異なる。学科・専攻別のカリキュラム表を参照すること。

◎修得科目の一覧

分野系列/科目名	単位	評価	年度	期間
外国語科目				
英語科目				
Freshman English I	4	A+	2023	前期
Freshman English II	4	A+	2023	後期
Foundational Literacies:Reading & Writing I	2	A	2023	前期
Foundational Literacies:Reading & Writing II	2	A	2023	後期
English for Academic Purposes I	2	B	2023	前期
English for Academic Purposes II	2	A	2023	後期
選択外国語科目				
中国語 I (a)	2	A+	2023	前期
中国語 I (b)	2	B	2023	後期
基礎教育科目				
基礎演習 I	2	A	2023	前期
基礎演習 II	2	A	2023	後期
教養科目				
体育・スポーツ	1	A+	2023	前期
研究科目(学科指定)				
必修科目				
英語学概論	4	A	2023	前期
選択必修 I 群				
英国研究入門 II	2	A+	2023	後期
選択必修 II 群				
現代英文法	2	B	2023	後期
選択必修 III 群				
英国文化実地研究	2	A+	2023	前期
選択必修 IV 群				
英語オーラルインタープリテーション	2	A+	2023	後期
研究科目(その他)				
コミュニケーション研究				
日本語プレゼンテーション	2	A+	2023	後期
自由選択科目				
情報基礎 I	1	B	2023	前期

◎単位の集計先

集計条件名	必要単位数	回修得済単位数	不足単位数
① 英語(必修)1-2年	28	16	12
英語(必修)3-4年	16	0	16
英語(選必)TOEFL	1	0	1
② 選択外国語科目	4	4	
③ 基礎教育科目	6	4	2
教養科目(講義)	8	0	8
④ 教養科目(他)	2	1	1
⑤ 学科研究(必修)	4	4	
⑥ 学科(I群)	2	2	
⑦ 学科(II群)	8	0	8
⑧ 学科(III群)	8	2	6
⑨ 学科(IV群)	12	2	10
⑩ 研究科目(その他)	16	4	12
演習科目	4	0	4
自由選択科目	5	1	4
合計単位	124	40	84
総修得単位	0	40	

注1: 教養科目の加算先について
教養科目は8単位を講義系の科目から修得しなければならない。
(体育など実技系の科目は教養科目(講義)に加算されない)
これを明示的にするために、講義科目と実技科目の集計先を分けて表示している。
なお、教養科目(講義)を8単位を超えて修得した単位は教養科目(他)に集計されるので、あえて教養科目(他)の科目を選んで履修する必要はない。

注2: 学科研究科目(選択必修)の研究コース科目加算について
「現代英文法」は英米語学科の「選択必修 II 群」で英語研究コースから指定されている科目だが、1年次はまだ研究コースを選択していないので、一旦⑩の「研究科目(その他)」に集計される。
2年次に「英語研究コース」を選択すると、「学科(II群)」に集計されるようになる。
※学科指定研究科目であっても、自分の選択した研究コース指定以外の科目は「研究科目(その他)」として集計されるので、科目の選択に注意すること。
(他の学科・専攻もルールは同じ)

A) 必要単位数:

卒業に必要な単位数が、各科目群(外国語科目・地域言語科目・選択外国語科目・基盤教育科目・教養科目・研究科目・演習科目・卒業研究・自由選択科目)ごとに表示されています。この各科目群ごとの単位数を合計すると「合計単位数」欄に表記されている数字になります。

B) 修得済単位数:

上記A)の「各科目群で定められた卒業に必要な単位数」に対し、現在までの取得済単位数が表示されています。「各科目群で定められた卒業に必要な単位数」に対する、現在までの取得合計単位数を見る場合には、「合計単位数」の欄を確認してください。

「総修得単位数」欄の数字が、「合計単位数」欄の数字より大きい場合は、卒業要件の単位数としてカウントできない単位数を含んでいます。

研究コース修了要件単位数は、学科専攻により異なります。

C) 不足単位数:

上記A) からB) を引き算した数、すなわち、卒業するために不足している単位数が、ここに表記されています。もし、この各欄に0以外の数字が表記されている場合には、卒業するのに必要な単位数に対し、その数字分の単位数が不足していることを意味します。

ただし、学科専攻によっては不足単位数がすべて0になっていても卒業要件を満たしたと判断できないケースもあるので、「Ⅷ 授業科目について」及び「学科専攻別カリキュラム表」を参照し、注意して履修状況を確認してください。

不明な点がある場合は、必ず教務部窓口にて自身で問い合わせてください。電話・メールでの問合せや、代理人からの問合せにはお応えできませんのでご了承ください。

ハ. 表示されない科目

成績証明書には付与された「F」は表示されません。

3. GPA

1) GPA とその利用目的

GPA とは、Grade Point Average の略で、高校の評定平均のように学業結果を総合的に判断する指標となるものです。成績評価の国際基準に対応するためだけではなく、自らが学習計画を策定する際の指標としても利用できます。その他、学習指導、進路指導、留学時の授業料免除の基礎資料としても利用されます。

2) GPAの計算式

学期毎に、個々の履修登録科目のGP (Grade Point) にその科目の単位数をかけ、その総和を履修登録科目の総単位数で割ってGPAを算出します。「F」評価(不合格)の科目も、GPA計算時の対象となります。認定科目(「P」または「F」で評価が付される科目)は、GPAの算出対象外です。

・成績評価基準

判定	評点	評価	GP
合格	100-90	A+	4.0
	89-80	A	3.0
	79-70	B	2.0
	69-60	C	1.0
	認定	P※	—
不合格	59点以下	F	0

※認定科目は算出対象外

(例)：以下の6科目を履修登録し、その成績評価が次の通りであった。

【授業科目名】	【単位数】	【成績評価】	【単位数×Grade Point】
歴史学 I	2	A+	2 × 4 = 8
英語学概論	4	B	4 × 2 = 8
応用言語学	4	A+	4 × 4 = 16
日本文化論 I	2	A	2 × 3 = 6
日本政治論	2	C	2 × 1 = 2
環境科学 I	2	F	2 × 0 = 0
合 計	16単位①		40②

GPA：(②÷①) → 40 ÷ 16 = 2.5 (小数点第2位で四捨五入)

4. 成績確認制度

- イ. 成績確認制度は、成績評価に対して、自分の学習成果が正しく反映しているかどうか疑いがある場合、科目担当教員に成績の確認を求める制度です。この制度を利用せずに科目担当教員に成績の確認や訂正の依頼をすることは禁止します。素点に関する確認や、成績変更の依頼などは認められません。
- ロ. 「成績確認」は、所定の期間内に教務部からの案内に従って行ってください。
- ハ. 「成績確認」は、原則として本人が行ってください。
- ニ. 「成績確認」は、すべての評価が対象になります。
- ホ. 成績に関すること以外について「成績確認願」に記入した場合は受理されず「却下」となります。
- ヘ. 「成績確認願」提出にあたっては、できるかぎり主張を裏づける客観的資料を添付してください。なお、提出された資料は返却しないので、あらかじめコピーをとっておいてください。

5. 2年次、3年次への進級再試験

一部の学科専攻では進級再試験を実施します。

進級再試験を実施する 学科専攻	中国語専攻、韓国語専攻、ブラジル・ポルトガル語専攻
進級再試験を実施しない 学科専攻	英米語学科、インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻、スペイン語専攻、国際コミュニケーション学科

イ. 進級再試験は、以下の条件を満たした者のみ受験することができます。

- ① 各専攻の基準を満たしていること。
- ② 定期試験を受験している科目であること。
- ③ 担当教員が再試験を許可すること。

各専攻の基準は以下の通りです。

<中国語専攻>

2年次への進級再試験…1年次地域言語科目のうち、前期の科目(4単位、2単位)・後期の科目(4単位、2単位)のいずれかが不合格であること。

3年次への進級再試験…2年次地域言語科目のうち、前期の科目(4単位、2単位)・後期の科目(4単位、2単位)のいずれかが不合格であること。

例 1)

前 期		後 期		再試験受験資格
中国語基礎 I (a)	合 格	中国語基礎 II (a)	不合格	それぞれの不合格科目について 受験資格あり
中国語基礎 I (b)	不合格	中国語基礎 II (b)	合 格	

例 2)

前 期		後 期		再試験受験資格
中国語基礎 I (a)	不合格	中国語基礎 II (a)	不合格	中国語基礎 I / II (a)が前期、後期とも に不合格のため受験資格なし
中国語基礎 I (b)	合 格	中国語基礎 II (b)	合 格	

<韓国語専攻>

2 年次への進級再試験…1 年次地域言語科目のうち、前期の科目（5 単位）・後期の科目（5 単位）のいずれかが不合格であること。

3 年次への進級再試験…2 年次地域言語科目のうち、前期の科目（5 単位）・後期の科目（5 単位）のいずれかが不合格であること。

<ブラジル・ポルトガル語専攻>

2 年次への進級再試験…地域言語「基礎」科目 I・II 10 単位のうち、5 単位以上修得していること。

3 年次への進級再試験…地域言語「基礎」科目 I・II 10 単位を修得しており、III・IV 10 単位のうち、5 単位以上修得していること。

ロ. 進級再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に進級再試験手数料（5,000円）を納入して手続きしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ. 進級再試験の評価は、「C」、「F」の 2 種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点 C —— 合 格

59～0 点 F —— 不合格

6. 卒業再試験

イ. 卒業再試験は、以下の条件を全て満たした 4 年次生のみ受験することができます。 ただし、すべての科目で卒業再試験が実施されるとは限らないので、注意してください。

- ① 卒業要件に対しての不足単位数が、8 単位以内であること。
- ② 定期試験を受験している科目であること。
- ③ 担当教員が再試験を許可すること。
- ④ 再試験実施対象科目を合格した場合、卒業要件を満たすこと。

ロ. 卒業再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に卒業再試験手数料（1 科目 5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ. 卒業再試験の評価は、「C」、「F」の 2 種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点 C —— 合 格

59～0 点 F —— 不合格

7. 教職科目再試験

イ. 教職科目再試験は、以下の条件を満たした4年次生のみ受験することができます。ただし、すべての科目で教職科目再試験が実施されるとは限りません。

- ① 卒業要件及び教育職員免許状取得要件に対しての不足単位数の合計が、8単位以内であること。
- ② 定期試験を受験している科目であること。
- ③ 担当教員が再試験を許可すること。

ロ. 教職科目再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に教職科目再試験手数料（1科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ. 教職科目再試験の評価は、「C」、「F」の2種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点 C —— 合格

59～0点 F —— 不合格

8. 選択外国語科目再試験

イ. 選択外国語科目再試験は、以下の条件を満たした4年次生のみ受験することができます。ただし、すべての科目で選択外国語科目再試験が実施されるとは限らないので、注意してください。

- ① I(a) または I(b)の再試験 ……英米語学科及び国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻（留学生を除く）・国際ビジネスキャリア専攻の4年次生で I(a)（前期・2単位）・I(b)（後期・2単位）のいずれかが不合格であり、かついずれかが合格であること。
- ② 定期試験を受験していること。
- ③ 担当教員が再試験を許可すること。

ロ. 選択外国語科目再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に選択外国語科目再試験手数料（1科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ. 選択外国語科目再試験の評価は、「C」、「F」の2種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点 C —— 合格

59～0点 F —— 不合格

X 他大学及び他機関で修得した単位の認定等について

1. 単位の認定

卒業要件単位として、あわせて60単位まで認定可能です。

	種 類	上限
①	海外の大学で修得した単位（「XI 海外留学について」参照）	
②	大学院授業科目のうち学部生が履修可能と指定された科目 ※英語学専攻の科目を除く	
③	放送大学の授業科目	20単位
④	千葉県私立大学・短期大学間単位互換包括協定に基づく他大学開講科目	20単位
⑤	千葉大学、敬愛大学、城西国際大学及び本学から成る千葉圏域コンソーシアムの単位互換協定に基づく開講科目	20単位
⑥	入学前に他の大学・短期大学で修得した単位（外国語科目としては認定できません）	30単位
⑦	その他、大学が認めた教育機関で修得した単位	

注) 編入学生については、編入学時に認定された単位数によって、他大学等で履修し認定される単位数に制限がかかることがあるので、教務部に相談してください。

2. 必修単位の履修免除制度

当該外国語学力の極めて優秀な学生に対して、卒業要件の一部を履修免除します。

対象専攻・学科／対象学年	1年	2年	免除科目の成績評価
中国語専攻	中国語基礎Ⅰ/Ⅱ (a) 中国語基礎Ⅰ/Ⅱ (b) 2～12単位	中国語基礎Ⅲ/Ⅳ (a) 中国語基礎Ⅲ/Ⅳ (b) 2～12単位	A+
韓国語専攻	韓国語基礎Ⅰのうち会話に相当する2単位		全500点満点のうちの200点
インドネシア語専攻			
ベトナム語専攻	地域言語科目	地域言語科目	単位発行を伴わない免除
タイ語専攻			
スペイン語専攻	スペイン語基礎Ⅰ/Ⅱ (a) スペイン語基礎Ⅰ/Ⅱ (b)	スペイン語基礎Ⅲ/Ⅳ (a) スペイン語基礎Ⅲ/Ⅳ (b) スペイン語基礎Ⅲ/Ⅳ (c)	A+

3. 千葉県内の他大学の授業科目の認定について

千葉県内の他大学の授業科目は、以下のように履修が可能です。

方 法	1. KUIS Campus Webキャビネット内所定フォルダで、各大学の募集要項を閲覧し、受講希望科目を決定 2. 神田外語大学教務部に受講希望の申し込み 3. 先方の大学が受講の可否を決定
受 講 料	千葉大学・敬愛大学・城西国際大学の場合：無料 上記以外の大学：受講する大学によって異なります

4. 入学前修得単位の認定について

大学に入学する前に他大学・短期大学で修得した単位は30単位を上限に本人の申請に基づき、教授会の審議を経て、外国語科目（英語・日本語・地域言語）以外の分野において本学で修得した単位として認めることができます。海外の大学等の教育機関で修得した単位も同様の扱いとなります。

対 象	新入生のみ
方 法	入学年度4月の指定された日までに申請（KUIS Campus Web参照）
成績評価	P（包括認定）

XI 海外留学について

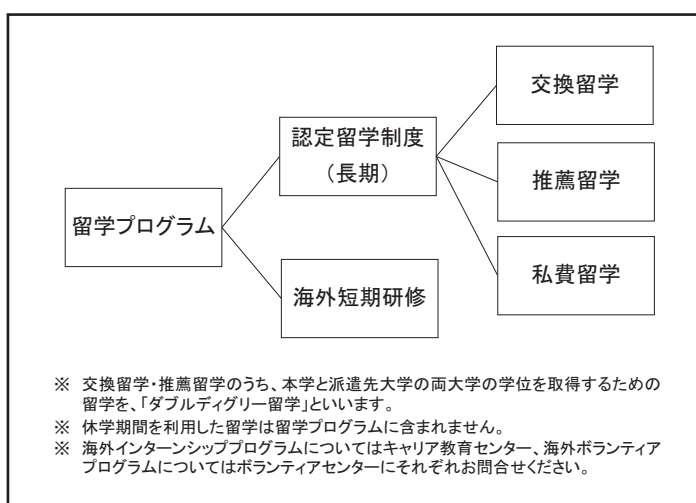
1. 認定留学制度について

1) 認定留学について

認定留学とは、本学が認める海外留学です。期間は本学の1学期間（最短3ヶ月間）/ 2学期間（最長12ヶ月間）です。ダブルディグリー留学は連続する4学期間（最長24ヶ月間）となります。留学先で修得した単位は、一定条件のもと、本学の卒業要件単位の60単位を上限として認定されるため、4年間で卒業が可能となります。また、留学種別と期間に応じた給付型の国外留学奨学金の支給対象です。

なお、留学先のカリキュラムや履修時間数などにより、日本で修得できる単位数より留学先で修得する単位数の方が少なくなることがあります。留学を考えている学生は事前に標準履修案より多く単位を修得しておくことが望めます。

本学が定める認定留学期間に該当する学期に休学することはできません。ただし、諸般の事情により休学期間中に交換・推薦留学学内選考への出願を希望する場合には、必ず事前に国際戦略部に相談してください。



認定留学制度の利用条件	
基本資格	<p>下記はあくまで基本資格であり、派遣先ごとに別途条件が定められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 成績基準：GPA（通算）2.3以上/4.0 <ul style="list-style-type: none"> ※ 以下①～③の各時点における成績を基準とする。各時点において成績基準を下回った場合は認定留学不可（渡航の中止、途中帰国を含む）とする。 <ul style="list-style-type: none"> ①学内選考出願時、②認定留学申請時、③認定留学に該当する学期の直前の学期末 ● 修得済単位数基準：2年生30単位、3年生60単位、4年生100単位以上 <ul style="list-style-type: none"> ※ 1年生は認定留学不可、但し1年次後期の認定留学学内選考への出願は可能 ※ 進級・卒業要件充足のために留学中に履修した科目の単位認定が必要な場合は、原則として1月末までに留学先の成績表を受け取り単位認定願が提出できることを事前に確認すること。間に合わない場合は留年となる可能性がある。 ※ 4年次後期での留学を希望する場合は、4年次前期までに卒業要件を充足していることが強く推奨される。 ● 誓約書に記載されている事項に同意し、保証人の了承を得た者 <ul style="list-style-type: none"> ※ 条件を満たせば、2年次・3年次編入生も認定留学制度を利用可能（希望者は必ず事前に国際戦略部に問い合わせること。） ● 認定留学該当期間中に休学していないこと <ul style="list-style-type: none"> ※ 諸般の事情により休学期間中に交換・推薦留学学内選考への出願を希望する場合には、必ず事前に国際戦略部に相談すること。
留学期間	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学の1学期間（最短3ヶ月間）～2学期間（最長12ヶ月間） <ul style="list-style-type: none"> ※ 本学の1学期間に当たる認定留学を2回まで行うことができるが、その合算期間は12ヶ月を超えないこと。 ● ダブルディグリー留学は4学期間（最長24ヶ月間）
KUIS学費	<ul style="list-style-type: none"> ● 全額納入

2) 認定留学種別

認定留学は以下の3種類です。いずれの場合も本学の学費は通常通り納入する必要があります。認定留学の種別により、留学先での学費が免除となる場合（交換留学）があるなど、内容が異なります。

① 交換留学

- ・協定校と本学で学生を相互に交換するため、留学先の授業料は原則として全額免除となります。
- ・学内で一定の成績を修め、所定の語学力を修得した上で学内選考に出願し、合格する必要があります。
- ・学内選考の出願基準などの詳細については、学内説明会等で確認してください。

② 推薦留学

- ・本学の協定校に留学するため、本学と協定校のサポートの下での留学となります。
- ・留学先の授業料は基本的に自己負担です。
- ・学内で一定の成績を修め、所定の語学力を修得した上で学内選考に出願し、合格する必要があります。
- ・学内選考の出願基準などの詳細については、学内説明会等で確認してください。

③ 私費留学

- ・一定の要件を満たし、本学が認める海外の高等教育機関へ留学する制度です。
- ・留学先の選定や手続きは学生自身で行う必要があります、留学先の授業料は基本的に自己負担です。
- ・休学制度を利用した場合の留学とは異なり、交換・推薦留学と同様に単位認定が可能です。

ダブルディグリー留学

- ・4年間で本学と派遣先大学の両方の学位を取得できるプログラムです。
- ・1・2年次は神田外語大学、3・4年次は海外の派遣先大学で学び、双方の学位を同時に取得することを目指します。

《又松（ウソン）大学校ソルブリッジ国際大学（韓国）》

（学内の公用語は英語で、全講義が英語で行われます。）

対象学生：外国語学部国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻

《慶熙（キョンヒ）大学校〈国際キャンパス〉（韓国）》

対象学生：外国語学部アジア言語学科韓国語専攻

種別	交換留学	推薦留学	私費留学	ダブルディグリー留学
留学先	国際協定校	国際協定校	本学が認める 高等教育機関	国際協定校
留学先 授業料	免除	必要	必要	協定内容による (交換留学または 推薦留学扱い)
学内選考	有	有	無	有

3) 給付型海外留学奨学金制度（「外国語学部国外留学奨学金」）

① 受給資格

- ・認定留学者であること
- ・2年次から4年次までを対象とする。
- ・留学の期間は、3ヶ月以上12ヶ月以内とする。（ダブルディグリー留学は本学の連続する4学期間とする）

② 受給条件

- ・本学学費を納入期限までに全額納入済であること
- ・認定留学申請書類一式を指定期日までに提出済であること
- ・認定留学終了後、「留学に伴う単位認定願兼留学終了届」を指定期日までに提出すること

③ 支給額

留学種別／期間	本学の1学期間	本学の2学期間	本学の4学期間 (ダブルディグリーのみ)
交換留学	15万円	30万円	60万円
推薦・私費留学	25万円	50万円	100万円

※本制度以外の奨学金等との併給ができない場合があります。詳細は国際戦略部までお問い合わせください。

④ 支給回数

本奨学金の支給は、在学中1回限りとする。ただし、本学の1学期間の認定留学を、2回した場合に限り、合計2回支給される。

⑤ 支給時期の目安

本奨学金は、留学期間中に指定口座に入金されるものとする。

⑥ 奨学金の返還

当初計画した留学を完遂しない場合、又は本学が奨学生として不適格であると判断した場合には、給付された奨学金の一部又は全額を本学に返還するものとする。

4) 通年科目の履修に関する特別措置について

認定留学期間に該当する年度に登録した通年科目（研究演習、応用演習、卒業研究）について、その年度の後期より2学期間留学する場合に限り、次年度後期より同一科目の履修を認め、後期終了時点で後期の成績と前年度前期の成績により、通年科目として成績処理をすることが可能です。この措置は、認定留学制度による留学だけでなく、休学して留学する場合にも適用されます。

ただし、原則として、同一担当教員の同一科目を履修することとします。詳細は「Ⅷ授業科目について 3. 授業科目の紹介 (6)演習科目・卒業研究」を参照してください。

2. 海外短期研修について

海外短期研修は夏期・春期休暇期間中に実施されます。研修参加費用（研修先の授業料、滞在費、渡航費など）は自己負担です。所定の成績を修めれば、単位認定（1～6単位）が可能です。参加に際して事前の履修登録は不要ですが、遅滞なく所定の手続きを行い、事前オリエンテーションへの出席が必要です。なお、修得単位数は履修登録上限単位数には含まれません。

海外インターンシッププログラムはキャリア教育センター、海外ボランティアプログラムはボランティアセンターにそれぞれ問い合わせてください。

3. 海外オンラインプログラムについて ※不定期募集

海外オンラインプログラムとは、本学が在學生に紹介し、本学の国際提携大学がオンラインで提供する授業・コースです。多くのプログラムが受講修了後、一定条件の下での単位認定の対象となります。海外オンラインプログラムは多岐に渡っており、夏期・春期休暇期間中に実施するもの、通常の本学学期中に実施するものがあります。

4. 留学プログラムに関する情報について

国際戦略部では、留学プログラムについて、担当職員による個別相談に加えて、関連する説明会やイベントなどを随時実施しています。

なお、各種説明会・イベントなどの実施については、1号館1階の国際戦略部掲示板、KUIS Campus Web、国際戦略部ウェブサイトなどに掲示しますので、日頃からよく確認をしてください。

XII 国内留学について

【留学形態】

国内交換留学は、本学と国内交換留学協定を締結している京都外国語大学へ学内選考の上、学生を派遣する制度です。この制度で留学する場合、京都外国語大学の学費は免除します。

国内交換留学生として留学するためには、別途掲示する出願資格を満たした上、学内選考に合格しなければなりません。

1. 派遣期間

原則1年間 留学期間は本学の修業年限及び在学年数に算入します。

※英米語学科4年生は、半期のみの派遣となります（本学で英語専門講読の修得が必要）。

2. 募集期間

10月～11月（予定） 第1次選考（書類審査）及び第2次選考（面接）を実施します。

3. 単位の振替・認定

京都外国語大学で修得した単位は履修科目に応じて、海外研修・放送大学等で修得した単位を含め、最大60単位まで本学で修得した単位として振替・認定します。

4. 履修できる授業科目及び修得単位数

京都外国語大学の履修ルールに従って、正規生が受講できる範囲とします。ただし、進級及び卒業要件の充足に問題を生じないような履修科目の選択方法について、必ず事前に本学教務部でガイダンスを受けることとします。なお、教職課程科目の履修は認められますが、教育実習への参加は認められません。

5. 留学中の学費

京都外国語大学の学費は免除しますが、留学期間中の本学の学費（授業料・施設費・学友会費等）は全額納入してください。

6. 宿舎の紹介

学生が宿舎を希望する場合は、次の条件で京都外国語大学が宿舎を紹介し、費用は学生負担とします。

(1) 家賃（共益費及び光熱水費含む）は、月額6万円（予定）を上限とします。ただし、敷金・礼金等の初期に関わる経費は、大学負担とします。

(2) 交通費等その他の経費は学生負担とします。

7. 施設利用等

学生は、京都外国語大学において学生生活に必要な施設及び制度を利用することができます。

8. 海外研修への参加

学生は、京都外国語大学において長期休暇中に実施される海外研修、授業期間中に行われる長期の研修及び留学については、参加することができません。

9. 保険

学生は、京都外国語大学の正規学生と同等の学生傷害保険を付与されるものとします。

XIII 転籍（転科・転専攻）について

本学には1・2年次を対象とした転籍（転科・転専攻）制度があります。選考に際しては、転籍を志望する明確な理由と優秀な成績が求められます。従って、転籍は容易にできるものではないと認識した上で、以下を熟読してください。

英米語学科から国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻への転科及び国際コミュニケーション学科内での転専攻においては、1年次から2年次に転籍後、転籍先の2年次生とほぼ同じように必修科目を履修します。

しかし、それ以外の転籍の場合（例えばアジア言語学科中国語専攻から英米語学科へ）は、転籍先の必修科目を1年次指定の科目から履修しなければなりません。この場合、1年次生が転籍した後は、残りの3年間で非常に厳しい学修が要求され、2年次生が転籍した場合は通算で最低5年間在学することが必要となります。

なお、外国語学部からグローバル・リベラルアーツ学部への転学部はできません。

以上の点を熟慮の上、**転科を希望する方は、早めに教務部に相談してください。**

1. 転籍（転科・転専攻）について

1) 出願

イ. 出願資格

次の条件を満たすこと。

- ① 2年次生、あるいは2年次生への進級が見込まれる1年次生であること。

ただし、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻へは2年次生への進級が見込まれる1年次生に限る。

- ② 在学の年数が2年を超えていないこと。

ただし、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻へは在学年数が1年を超えていない者に限る。

《注意》国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻に所属する学部留学生には、転籍（転科・転専攻）制度は適用されない。

- ③ 出願時に休学中の場合は、転籍をする年度の4月に復学する学生であること。

ロ. 出願時期：1月上旬から中旬（予定）

ハ. 出願受付窓口：教務部

2. 転籍（転科・転専攻）に伴う特例措置

1) 転籍（転科・転専攻）後の在籍年次等について

転科先の在籍年次は2年次とするが、専攻語科目は1年次指定のものを履修する。ただし、英米語学科から国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻への転科及び国際コミュニケーション学科内での転専攻においては1年次の必須科目が単位認定されることがあるので、3)を参照のこと。

2) 転籍 (転科・転専攻) 試験とその時期

転籍先 (学科/専攻)	転籍元 (学科/専攻)	対象学年		1次試験 (書類選考) の出願基準	1次試験日程	2次試験 内容	2次試験 日程	手続期間
		1年	2年					
英米語学科	国際コミュニケーション学科	受験資格なし						
	アジア言語学科 イベロアメリカ言語学科	○	○	1) 出願時にTOEFL C基準 (ITP480点又はiBT54点) 以上取得済 2) 出願年度の前期までで GPA 2.8以上 3) 出願年度の前期までの成績において、必修となっている英語科目全てでA以上の成績を有し、他の必修科目全てを単位修得済であること	1月下旬~ 2月上旬	面接	2月下旬	3月上旬
中国語専攻	外国語学部 全学科/専攻	○	○	出願年次末までの必修科目全てを単位修得見込みであること	2月上旬	1)小論文 2)面接	2月下旬	3月上旬
韓国語専攻 インドネシア語専攻 ベトナム語専攻 タイ語専攻 スペイン語専攻 ブラジル・ポルトガル語専攻		○	○			面接		
国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻	英米語学科	受験資格なし						
	国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻	○	×	1) 出願年度の前期までで GPA2.8以上 2) 1年次必修科目全てを単位修得見込みであること	1月下旬~ 2月上旬	面接	2月下旬	3月上旬
	アジア言語学科 イベロアメリカ言語学科	○	○	1) 出願時にTOEIC L&R (IP可) 650点以上取得済 2) 出願年度の前期までの成績において必修となっている英語科目全てでA以上の成績を有すること 3) 出願年次末までの必修科目全てを単位修得見込みであること				
国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻	英米語学科	○	×	1) 出願時C基準取得済 2) 出願年度の前期までで GPA2.8以上 3) 1年次必修科目全てを単位修得見込みであること	1月下旬~ 2月上旬	面接	2月下旬	3月上旬
	国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻	○	×	1) 出願年度の前期までで GPA2.8以上 2) 1年次必修科目全てを単位修得見込みであること				
	アジア言語学科 イベロアメリカ言語学科	受験資格なし						
グローバル・リベラルアーツ学部	外国語学部 全学科/専攻	受験資格なし						

※各年度における日程及び試験内容の詳細については、例年12月に実施する説明会で確認してください。

3) 転籍後の単位認定

転籍先 (学科/専攻)	転籍元 (学科/専攻)	受験時の学年	旧所属の単位	新所属の単位
英米語学科	アジア言語学科 イペロアメリカ言語学科	1 / 2	地域言語科目のうち 8 単位	選択外国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとして認定 選択外国語Ⅲのない言語の場合は、自由選択科目として 2 単位を認定
中国語専攻 韓国語専攻 インドネシア語専攻 ベトナム語専攻 タイ語専攻 スペイン語専攻 ブラジル・ポルトガル語専攻	全学科/専攻	1 / 2	教務部で要相談	
国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻	国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻	1	専攻指定研究科目以外の旧専攻の単位をそのまま認定	
	中国語専攻 韓国語専攻	1	外国語必修科目12単位を修得したとみなす	英語科目12単位として認定。不足分の4単位は転科後に合わせて履修すること
		2	外国語必修科目16単位を修得したとみなす	1年次英語科目16単位として認定 2年次の英語科目から履修すること
	インドネシア語専攻 ベトナム語専攻 タイ語専攻 スペイン語専攻 ブラジル・ポルトガル語専攻	1 / 2	修得した英語科目の単位	英語科目に包括単位認定する
国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻	英米語学科	1	英語必修16単位	英語科目に包括単位認定する
	国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻 国際コミュニケーション専攻	1	専攻指定研究科目以外の旧専攻の単位をそのまま認定	

《注意》単位認定された科目の評価は「P」とする。

XV 学内ネットワーク、コンピュータの利用について

詳細については、学生用Webサイト（KUIS Campus Web）の下記項目を参照ください。

- 「キャビネット」 ⇒ 02. 各部署情報 ⇒ 09. メディアプラザ
- 「リンク」 ⇒ Media Plaza Web

1. 学内IT設備について

(1) Media Plaza

6号館1階にMedia Plazaがあります。開館時間内であれば自由にコンピュータを使用することができます。また混雑時などはノートパソコンの貸出を行っています。

※開館時間

月～金 9：00～18：00
土 閉館
短縮 10：00～17：00

※長期休暇期間、祭日を除く。また、臨時にメンテナンスなどで閉室する際にはKUIS Campus Webにて事前にお知らせします。

(2) コンピュータ教室・共有パソコン設置場所

コンピュータ教室は、授業がない時間帯は自由に利用できます（下記Mapの4号館の各教室）。

開室時間などの開室情報はMedia Plazaの「X（旧Twitter）」で確認できます。

Media Plaza Webからアクセスしてください。

■コンピュータ教室／4号館

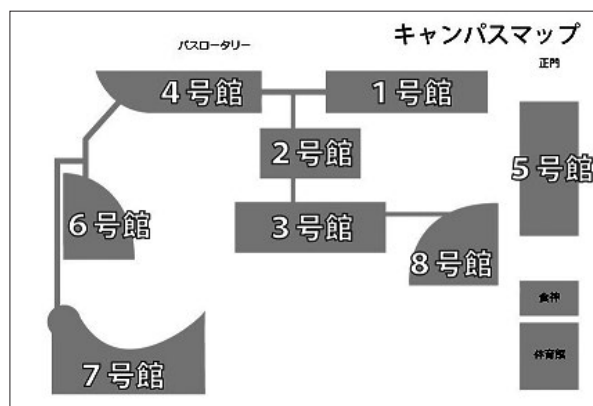
ITレクチャールーム（ITLR-1）【4-201】

ITレクチャールーム（ITLR-2）【4-202】

■共有パソコン設置場所／6号館

メディアプラザ【1階】

プロダクションルーム【6-102】



(3) 学内Wi-Fi

学内全域に自由に使える無線LAN環境が揃っています。各自持参のiPadやノートPCなどで接続してインターネットを利用できます。

詳しくは、KUIS Campus Webもしくは6号館1階メディアプラザサポートデスクにお問い合わせください。

<使用上のルール>

無線LANにPCを接続する場合、必ずウイルス対策ソフトがインストールされていること。また、パターンファイルは常に最新の状態に更新してください。

<おすすめ！>

学内のWi-Fiに繋がりにくい時は、Wi-Fi設定をOFF→ONしてください。

(4) プロダクションルーム（教室）

6号館1階にプロダクションルームがあります。Macが25台あり、ウェブサイトやグラフィックデザイン、映像編集など様々な制作活動が可能です。

※Macは共用PCのため、作業後はデータの削除をお願いします。データの保存が必要な場合は、各自で保管してください。

(5) マルチパーパスルーム（MPR）

6号館1階にマルチパーパスルーム（4～5人用 7部屋）があります。MPRはプレゼンテーションの練習やグループディスカッション等に使うことができます。MPRは予約制です。

Media Plaza WebのMPR予約ページから事前に予約してご利用ください。

(6) 印刷について

学内のパソコンと各自持参のiPadやノートPCから、A4の大きさと印刷ができます。詳しい印刷の方法はKUIS Campus Webのリンクにある「Media Plaza Web」をご確認ください。

(7) スキャンについて

6号館1階メディアプラザ、3号館2階GLA Commons、5号館キャリア教育センターにある複合機では印刷のほか書類などのスキャンができます。スキャンしたデータはGoogle Driveに保存されます。事前に初期設定が必要ですので詳しくはKUIS Campus Webのリンクにある「Media Plaza Web」をご確認ください。

(8) データの保存について

データの保存については、各自で管理するようにしましょう。USBメモリーや下記の方法でも保存できます。適材適所で使い分けてください。

オンラインストレージ

本学では、学生一人一人が、Google DriveやMicrosoft OneDriveを利用する事ができます。オンラインストレージは、PCやiPadからのデータ保存にも対応しています。

※利用に際しては後述する「3. 大学ネットワーク利用にあたっての注意点」を参照してください。

2. 学内システムの利用

(1) 学生用Webサイト（KUIS Campus Web）

大学から学生への様々な情報提供の場になります。大事な情報も掲載されますので頻りにチェックするようにしてください。

<https://camjweb.kuis.ac.jp/portal/top.do>

KUIS Campus Webからは主に次ページの項目が確認できます。

お知らせ・休講・補講情報	大学からのお知らせ、休講情報、補講情報の他、アルバイト情報やさまざまな説明会情報が掲載されます。頻繁に確認するようにしてください。
履修登録	授業科目の履修登録ができます。
成績照会	成績内容を確認することができます。
シラバス	授業内容についての検索・閲覧ができます。
留学WEB	留学申請、留学中の授業生活報告、帰国後の単位認定及び留学終了報告ができます。また、留学した学生の留学生活等の情報を閲覧することができます。
メール (KUIS Mail)	メールの送受信ができます。学外からも見ることができます。
図書館情報	図書館が提供する情報です。図書館情報は学外からも見ることができます。
就職情報	求人情報の閲覧・進路希望・内定情報の報告が行えます。
e-Learning	基礎演習、情報基礎、日本語表現基礎の受講ができます。

キャビネット一覧	学生を対象に大学からの情報を整理したライブラリーです。詳細な説明も掲載されておりますのでご確認ください。(コンピュータ利用の詳細も掲載されています)
学内コンピュータ情報	Media Plazaに関する情報(Media Plaza Web)、印刷ジョブやカラー印刷枚数確認のページ(KYOCERA Net Manager)等を掲載しています。

※PCやスマートフォン等からもアクセスすることができます。

(2) KUIS Mailの利用

学生全員にメールアドレスを発行しており、それを用いてメールのやり取りを行う事ができます。インターネットに接続できる環境で、KUIS Mailに接続するとメールの送受信が学内外から利用できます。

(3) Google Classroom

Google Classroom は、授業で利用するツールです。担当教員からの資料配布、課題、フィードバックなど、Google Classroomを通して教員とのやり取りが可能です。Google Classroom は、Google ドキュメントやGoogle ドライブなどの他の Google ツールとも連携できます。

利用方法については、各授業内で教員より案内がありますので、機能をよく理解し利用するようにしましょう。

(4) マイクロソフト Office 製品の提供について

本学ではマイクロソフト社と包括契約を締結しています。

その中に含まれる特典として「Office 365 Pro PLUS」が神田外語大学の学生・教職員であれば無償で使用できます。「Office 365 Pro PLUS」はマイクロソフト社のクラウドサービスの一つですがPCにインストールして使えます。

詳細は、新入生メディアオリエンテーションで案内がありますので、必要な学生は利用条件を確認するようにしましょう。

KUIS Campus Web のキャビネット内にも詳しい案内を入れています。

(5) MyLOFT

図書館では、学外からも学内にいるときと同じように大学が契約しているデータベース等に接続できるサービス(MyLOFT)を提供しています。

KUISメールでの認証となるため、特に申請等は必要ありません。Chromeの拡張機能をインストールしてご利用ください。※Chromeの拡張機能は学内でも必要となります。

詳しくは図書館のWebサイトにてご確認ください。

3. 大学ネットワーク利用にあたっての注意点

(1) パスワードの管理

学内ネットワークやメール及び学生用Webサイトを利用するためにはパスワードが必要になります。パスワードが他人に盗まれ、悪用される可能性がありますので、パスワードの管理には十分注意してください。パスワードを設定する場合、他人が想像しにくいものにし、頻繁に変えるようにしてください。

〈主なパスワードの種類〉

種類	説明	再発行の方法
KUIS Campus Web	学生証と一緒に交付。変更不可	KUIS CampusWebログイン前ページにある「各種パスワード再発行手続きについて」を確認（Web申請）
KUIS Mail (Gmail)	KUIS CampusWebと同じパスワード	
学内PCサインイン		
Office365	アカウント作成時に自分で設定	e-Learningのページ内の案内に従って申請
e-Learning	履修登録した学生に対してKUIS CampusWebの「あなた宛てのお知らせ」に配布	

※パスワードの再発行は翌日となります(土曜日の場合は週明け)。即日の発行はできませんのでご了承ください。

(2) 利用ルール

学内ネットワークを利用する際には、以下の注意点を守って利用してください。違反行為があった場合は、大学で処罰等の措置を講じるかどうか審議し、決定します。

●コンピュータ実習室、Media Plaza利用のマナー

1. 飲食物を持ち込まない。(Media Plazaではペットボトル・マイボトルなどの密閉された容器に入った飲み物は飲むことができます。)
2. 私語はしない。
3. 長時間の占有はしない。
4. 使用後は、周りを必ず整理整頓する。
5. コンピュータへソフトウェアのインストールはしない。
6. 印刷用紙は、無駄にしない。
7. コンピュータの操作の途中で退席しない。
8. 使用後は、USBメモリを必ず持ち帰る。

●ネットワーク利用に際しての注意点

1. 法律に抵触、または公序良俗に反する行為をしない。
2. 他人のプライバシーに触れる行為をしない。
3. 著作権の侵害をしない。
4. 不用意なインターネット上のプログラムのダウンロードはしない。
5. 公共の秩序に反する情報への接続はしない。
6. ネットワーク上で、ショッピングはしない。
7. その他、一般にネットワーク上でやってはいけないとされている行為をしない。

●クラウド利用に際しての注意点

1. オンラインストレージ（Google Drive等）は、アクセス権の設定を間違えると、世界中にデータを公開してしまいますので十分ご注意ください。なお、学内アカウントを利用して学内外の不特定多数への公開・共有はしないでください。（何人かで共有するといった限定公開のアクセス権を設定する事も可能ですが、こちらの限定公開については問題ありません。）
2. 必ずログアウトボタンを押して、自分のデータが他人に見られないように気を付けましょう。

●電子メール利用に際しての注意点

1. 他利用者の電子メールを許可なく読み、削除、変造または公開することをしてはいけない。
2. チェーンメール（拡散を目的としたもの、不確実な情報など）の発信はしてはならない。
3. 知らない人から送られてきた添付ファイルは、開かずに、削除すること。
4. 大学の授業と関係ないアンケートなどをメールで不特定多数の学生に発信することはしてはいけない。
5. シグネチャ（署名）まで含めた無意味な全文引用はしないこと。

XV 教職課程履修要項

A 教育職員免許状について

1. 教育職員免許状とは

日本の「学校」^(注)で教壇に立つためには、教員免許が必要です。本学では、中学校と高校の英語の免許などが取得できます（学科・専攻により取得できる免許状が異なります）。また、3年次から千葉経済大学短期大学部の科目を履修することにより、卒業時に小学校免許を同時に取得する制度もあります。

（注）学校教育法第1条に規定される幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校など

2. 本学の求める教員像

高い英語力と国際的な視野を身につけ、使命感を持って生徒の指導にあたると共に同僚と協調できる人間性豊かな教師

「言葉は世界をつなぐ平和の礎」という本学の理念に基づき教員を養成します。具体的には、英語指導を通して言葉の持つ魅力や他言語への憧れを喚起し、英語と将来において関わることに関心を持つ生徒を育成できる教員となる必要があると本学では考えています。そのため、まずは高い英語力を養うとともに、使命感を持って教育に職を求め姿勢を求めのほか、コミュニケーションのとれる人間性を陶冶します。

3. 本学で取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科

本学が文部科学大臣から教職課程の認定を受け、本学で取得できる教育職員免許状の種類と教科は次のとおりです。

	中学校教諭一種免許状 (英語)・高等学校教諭 一種免許状 (英語)	高等学校教諭一種 免許状 (中国語)	高等学校教諭一種 免許状 (韓国語)	高等学校教諭一種免 許状 (スペイン語)
英米語学科	○			
アジア言語学科中国語専攻	※	○		
韓国語専攻	※		○	
インドネシア語専攻	○			
ベトナム語専攻	○			
タイ語専攻	○			
イペロアメリカ言語学科スペイン語専攻	※			○
ブラジル・ポルトガル語専攻	○			
国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻	○			

備考 ※中国語、韓国語、スペイン語各専攻においては、自分の専攻する言語と英語の中学校一種・高等学校一種の免許状（副免）を合わせて取得することを原則とします。

○英語の免許を取得する学生は中学校一種・高等学校一種の両方を取得することを原則とします。

国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の学生は、教員免許状を取得することはできません。

4. 教育職員免許状取得に必要な科目・単位数

教育職員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位の他に次に示す免許状に必要な科目区分から、それぞれ定められた単位を修得することが必要です。

詳細は、「B 教職課程の履修について」を参照してください。

免許状取得に必要な科目	教育職員免許法 (平成28年改正法) での最低修得単位数		本学における科目	
	中一種	高一種		
(1) 教科及び教科の指導法に関する科目	28	24	自分の所属する学科・専攻の(1イ) <u>教科に関する専門的事項</u> の項及び(1)～(5)のうち<各学科共通部分>の項にそって履修します	
(2) 教育の基礎的理解に関する科目	10	10	(1)～(5)のうち<各学科共通部分>の項にそって履修します	
(3) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	8		
(4) 教育実践に関する科目	7	5		
(5) 大学が独自に設定する科目	4	12	自分の所属する学科・専攻の(5) <u>大学が独自に設定する科目</u> の項にそって履修します	
(6) 第66条の6に定める科目	日本国憲法に関する科目	2	2	「憲法Ⅰ」又は「憲法Ⅱ」
	体育に関する科目	2	2	「体育・スポーツ」を2種目
	外国語コミュニケーションに関する科目	2	2	自分の所属する学科・専攻の1年次必修英語科目・地域言語科目
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作に関する科目	2	2	「情報基礎Ⅰ」及び「情報基礎Ⅱ」

免許状に必要な単位の注意事項

中学と高校の免許を同時に取得するため、上表のそれぞれの最低修得単位数のうち、多い方の単位数を修得する必要があります。また、本学が定めた最低修得単位数が上表を上回る場合には、本学基準の単位数を取得してください。

なお、上表の科目のうち下記の科目は自由選択科目として8単位まで卒業要件単位に充てることができます。

- (1) 教科及び教科の指導法に関する科目 のうち、ロ) 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
- (2) 教育の基礎的理解に関する科目
- (3) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

◎ 履修上限緩和申請について

3年次までの履修上限は各学期20単位までですが、認定留学・専攻言語と英語副免の取得・他の資格課程の履修等の事情により、履修上限の緩和が必要な場合、申請により履修上限を24単位まで緩和することが可能です。毎学期、学期初めの申請期間に案内にしたがって申請してください。

◎ 在学中に留学・休学を予定している場合は、履修計画に注意が必要です。

必ず教務部教職担当に申し出て確認をうけてください。

B 教職課程の履修について

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法施行規則に定めた下記の科目区分から、それぞれ定められた単位数を修得しなければなりません。

- (1) 教科及び教科の指導法に関する科目
 - イ) 教科に関する専門的事項
 - ロ) 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
- (2) 教育の基礎的理解に関する科目
- (3) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
- (4) 教育実践に関する科目
- (5) 大学が独自に設定する科目
- (6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

(1)～(5)のうちの<各学科共通部分>

各分野での必修科目、選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

教育職員免許法施行規則所定			本 学 基 準				
分 野	各科目に含める必要事項	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修に適した年次	備 考	最低修得単位数
(1) 教科及び 教科の指 導法に関 する科目	イ) 教科に関する専門的事項	中28 高24	※自分の所属する学科・専攻の(1)イ)教科に関する専門的事項の項を参照	20			20
	ロ) 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ 中国語科教育法Ⅰ 中国語科教育法Ⅱ 韓国語科教育法Ⅰ 韓国語科教育法Ⅱ スペイン語科教育法Ⅰ スペイン語科教育法Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 (注2) 3	免許状の教科ごとに定められた教科教育法 中学8単位 高校4単位 必修(注1)	中 8 高 4
(2) 教育の基 礎的理解 に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	中・高 10	教育原理	2	1～2		中・高 11
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論	2	1～4		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育社会学	2	2～4		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	2～3		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	1	2～3		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2	2～4		

(3) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育の指導法	2	2~3	中学校一種免許状取得希望者は必修(注3)	中10 高8			
	総合的な学習の時間の指導法(中)／総合的な探究の時間の指導法(高)		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2~4					
	特別活動の指導法		教育方法論・ICT活用	2	2~4					
	教育の方法及び技術			生徒指導・進路指導論	2	2~4				
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育相談		2	2~4				
	生徒指導の理論及び方法			教育実践に関する科目	中7 高5	教育事前事後実習		2	3	(注4)
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育実践実習Ⅰ			2		4		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育実践実習Ⅱ	2	4	中学校一種免許状取得希望者は必修(注5)						
	教職実践演習	2	4							
(5) 大学が独自に設定する科目		中4 高12	教科及び教科の指導法に関する科目 ※自分の所属する学科・専攻の(1)イ)教科に関する専門的事項の項で最低必要単位数を越えて修得した単位 English for Liberal Arts (英米語学科のみ) 介護等体験実習 (中一必修) 道徳教育の指導法 (高一のみ)	中11 高12			中11 高12			
計		中59 高59	中学校68単位以上／高等学校61単位以上必修							

注1	英語科教育法は、ⅠとⅡを修得後にⅢとⅣを履修する。 中国・韓国・スペイン語科教育法は、ⅡはⅠを修得済の場合に履修できる。
注2	どの学科の学生もB基準(「Ⅷ授業科目について 1. 履修上の注意、ハ.履修基準表」を参照)が履修条件となる。
注3	「道徳教育の指導法」を高等学校1種免許状の申請に使用する場合は、その単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に充てることができる。
注4	次年度教育実習に行く学生が対象。(3年次であっても次年度教育実習を行わないものは履修できない。)
注5	英語で実習を行う場合、どの学科の学生もA基準(「Ⅷ授業科目について 1. 履修上の注意、ハ.履修基準表」を参照)が履修条件となる。 原則として、3週間以上の実習を行い「教育実践実習Ⅰ・Ⅱ」の両科目として認定する。 なお高等学校1種免許状のみの場合は2週間以上の実習で「教育実践実習Ⅰ」として認定する。

〈英米語学科〉

(1) イ) 教科に関する専門的事項

「教科に関する専門的事項」は、英語学・英語文学・英語コミュニケーション・異文化理解の分野に分かれています。各分野での教職必修科目、教職選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
英 語 学	1	◎英語学概論 ○英語音声学 ○Outline of English Phonetics ○英語統語論 I ○現代英文法 ○Approaches and Strategies in Learning English ◎第二言語習得研究 ○Issues in Second Language Acquisition ◎外国語評価法	4 4 4 4 4 4 4 4 2	1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 3~4 2~4	◎印3科目を含む 10単位以上必修
英 語 文 学	1	○英文学の歩み I ○英文学の歩み II ●米文学の歩み I ●米文学の歩み II ●Survey of American and English Literature ○英文学と文化 I ○英文学と文化 II ●米文学と文化 I ●米文学と文化 II ●Themes in American and English Literature	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1~4 1~4 1~4 1~4 2~4 3~4 3~4 3~4 3~4 2~4	○印1科目及び● 印1科目を含む4 単位以上必修
英 語 コミュニケーション	1	◎Media English I ◎Media English II ◎Academic Literacies : Reading I ◎Academic Literacies : Reading II ◎Academic Literacies : Writing I ◎Academic Literacies : Writing II Public Speaking Debate 英語オーラルインタープリテーション	2 2 2 2 2 2 4 4 4	2 2 2 2 2 2 1~4 1~4 2~4	◎印を含む12単位 以上必修
異 文 化 理 解	1	地域比較文化論 I 地域比較文化論 II ○英国研究入門 I ○英国研究入門 II ○米国研究入門 I ○米国研究入門 II ○オセアニア研究入門 I ○オセアニア研究入門 II ○カナダ研究入門 I ○カナダ研究入門 II 米国史概論 I 米国史概論 II 米国社会論 I 米国社会論 II 英国文化実地研究 オセアニア文化実地研究 カナダ文化実地研究 TESOL海外研究	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 4 4 4	2~4 2~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4	○印2科目を含む 4単位以上必修
計	4	(教職必修・選択必修を合計すると30単位となり、余剰分は(5)「大学が独自に設定する科目」に算入する。)			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

○●印は教職選択必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
中 4 高12	(1) イ) 教科に関する専門的事項 English for Liberal Arts	10	3~4	(1) イ) 教科に関する専門的事項で20単位を超えて取得した単位とEnglish for Liberal Artsの合計取得単位数が10単位以上
	介護等体験実習	1	2~4	中学校1種免許状取得希望者は必修3年次に履修することが望ましい
	道德教育の指導法	2	2~3	高校1種免許状のみ取得希望者が取得した場合
計	中学校11単位／高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
日 本 国 憲 法	2	○憲法Ⅰ	2	1~4	○印1科目2単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1~4	
体 育	2	◎体育・スポーツ	1	1~4	2種目2単位必修
		◎体育・スポーツⅡ	1	1~4	
外 国 語 コミュニケーション	2	◎Freshman EnglishⅠ	4	1	◎印12単位必修
		◎Freshman EnglishⅡ	4	1	
		◎Foundational Literacies:Reading & WritingⅠ	2	1	
		◎Foundational Literacies:Reading & WritingⅡ	2	1	
数理、データ活用 及び人工知能に 関する科目又は 情報機器の操作	2	◎情報基礎Ⅰ	1	1~4	2科目2単位必修
		◎情報基礎Ⅱ	1	1~4	

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

異文化理解	1	中国思想概論Ⅰ	2	1~4	◎印1科目を含む 2単位以上必修
		中国思想概論Ⅱ	2	1~4	
		◎中国文化概論Ⅰ	2	1~4	
		中国文化概論Ⅱ	2	1~4	
		中国文化研究Ⅰ	2	2~4	
		中国文化研究Ⅱ	2	2~4	
		中国史概論Ⅰ	2	1~4	
		中国史概論Ⅱ	2	1~4	
		中国社会事情Ⅰ	2	1~4	
		中国社会事情Ⅱ	2	1~4	
		中国社会研究Ⅰ	2	2~4	
		中国社会研究Ⅱ	2	2~4	
		中国经济概論Ⅰ	2	1~4	
		中国经济概論Ⅱ	2	1~4	
		中国经济研究Ⅰ	2	2~4	
		中国经济研究Ⅱ	2	2~4	
		中国政治外交概論Ⅰ	2	1~4	
		中国政治外交概論Ⅱ	2	1~4	
		中国政治外交研究Ⅰ	2	2~4	
		中国政治外交研究Ⅱ	2	2~4	
計	4	※(1)イ)教科に関する専門的事項の必要単位として20単位以上、さらに「大学が独自に設定する科目」へ充当する単位として10単位以上、合計30単位以上をこの表中の科目から修得する必要がある。			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
高12	介護等体験実習	1	2~4	中学校1種免許状 取得希望者は必修 3年次に履修する ことが望ましい
	道德教育の指導法	2	2~3	高校1種免許状の み取得希望者が取 得した場合
	(1)イ)教科に関する専門的事項	10		(1)イ)の表で20 単位を超えて取得 した単位
計	高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

分 野	教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
		科 目 名	単位数	履修年次	備 考
日 本 国 憲 法	2	○憲法Ⅰ	2	1~4	○印1科目2単位 以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1~4	
体 育	2	◎体育・スポーツ	1	1~4	2種目2単位必修
		◎体育・スポーツⅡ	1	1~4	
外 国 語 コミュニケーション	2	◎中国語基礎Ⅰ(a)	4	1	◎印12単位必修
		◎中国語基礎Ⅰ(b)	2	1	
		◎中国語基礎Ⅱ(a)	4	1	
		◎中国語基礎Ⅱ(b)	2	1	
数理、データ活用 及び人工知能に 関する科目又は 情報機器の操作	2	◎情報基礎Ⅰ	1	1~4	2科目2単位必修
		◎情報基礎Ⅱ	1	1~4	

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

〈アジア言語学科〉韓国語専攻

「教科に関する専門的事項」は、韓国語学・韓国語文学・韓国語コミュニケーション・異文化理解の分野に分かれています。各分野での教職必修科目、教職選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

(1) イ) 教科に関する専門的事項

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
韓 国 語 学	1	◎韓国語学概論Ⅰ	2	2～4	◎印2科目を含む 4単位以上必修
		◎韓国語学概論Ⅱ	2	2～4	
		韓国語文法論Ⅰ	2	2～4	
		韓国語文法論Ⅱ	2	2～4	
		日韓対照言語研究Ⅰ	2	2～4	
		日韓対照言語研究Ⅱ	2	2～4	
		韓国語学特講Ⅰ	2	2～4	
		韓国語学特講Ⅱ	2	2～4	
		韓国語社会言語学Ⅰ	2	2～4	
		韓国語社会言語学Ⅱ	2	2～4	
		韓国語文章表現法Ⅰ	2	2～4	
		韓国語文章表現法Ⅱ	2	2～4	
		時事韓国語Ⅰ	2	3～4	
		時事韓国語Ⅱ	2	3～4	
		韓国語対話文Ⅰ	2	3～4	
		韓国語対話文Ⅱ	2	3～4	
		韓国語講読Ⅰ	2	3～4	
		韓国語講読Ⅱ	2	3～4	
韓 国 文 学	1	◎韓国現代文学研究Ⅰ	2	3～4	◎印1科目を含む 2単位以上必修
		韓国現代文学研究Ⅱ	2	3～4	
韓 国 語 コミュニケーション	1	◎韓国語基礎Ⅲ	5	2	◎印2科目及び○ 印1科目を含む12 単位以上
		◎韓国語基礎Ⅳ	5	2	
		○韓国語口頭表現Ⅰ	2	3～4	
		○韓国語口頭表現Ⅱ	2	3～4	
		○韓国語通訳法基礎Ⅰ	2	3～4	
		○韓国語通訳法基礎Ⅱ	2	3～4	
		○韓国語通訳法上級Ⅰ	2	3～4	
		○韓国語通訳法上級Ⅱ	2	3～4	
		○韓国語翻訳法基礎Ⅰ	2	3～4	
		○韓国語翻訳法基礎Ⅱ	2	3～4	
		○韓国語翻訳法上級Ⅰ	2	3～4	
		○韓国語翻訳法上級Ⅱ	2	3～4	
異 文 化 理 解	1	◎韓国文化概論Ⅰ	2	1～4	◎印1科目を含む 2単位以上必修
		韓国文化概論Ⅱ	2	1～4	
		韓国文化特定研究Ⅰ	2	2～4	
		韓国文化特定研究Ⅱ	2	2～4	
		韓国映像文化論Ⅰ	2	2～4	
		韓国映像文化論Ⅱ	2	2～4	
		韓国政治論Ⅰ	2	2～4	
		韓国政治論Ⅱ	2	2～4	
		韓国経済論Ⅰ	2	2～4	
		韓国経済論Ⅱ	2	2～4	
		韓国史概論Ⅰ	2	1～4	

		韓国史概論Ⅱ	2	1～4	
		韓国近代史Ⅰ	2	2～4	
		韓国近代史Ⅱ	2	2～4	
		韓国史特講Ⅰ	2	2～4	
		韓国史特講Ⅱ	2	2～4	
		日韓関係史Ⅰ	2	2～4	
		日韓関係史Ⅱ	2	2～4	
計	4	※(1)イ) 教科に関する専門的事項の必要単位として20単位以上、さらに(5)「大学が独自に設定する科目」へ充当する単位として10単位以上、合計30単位以上をこの表中の科目から修得する必要がある。			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
高12	介護等体験実習	1	2～4	中学校1種免許状取得希望者は必修3年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校1種免許状のみ取得希望者が取得した場合
	(1)イ) 教科に関する専門的事項	10		(1)イ)の表で20単位を超えて取得した単位
計	高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
日 本 国 憲 法	2	○憲法Ⅰ	2	1～4	○印1科目2単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1～4	
体 育	2	◎体育・スポーツ	1	1～4	2科目2単位必修
		◎体育・スポーツⅡ	1	1～4	
外 国 語 コミュニケーション	2	◎韓国語基礎Ⅰ	5	1	◎印10単位必修
		◎韓国語基礎Ⅱ	5	1	
数理、データ活用 及び人工知能に 関する科目又は 情報機器の操作	2	◎情報基礎Ⅰ	1	1～4	2科目2単位必修
		◎情報基礎Ⅱ	1	1～4	

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

〈アジア言語学科〉 中国語専攻・韓国語専攻 英語「副免」

「教科に関する専門的事項」は、英語学・英語文学・英語コミュニケーション・異文化理解の分野に分かれています。各分野での教職必修科目、教職選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

(1) イ) 教科に関する専門的事項

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
英 語 学	1	◎英語学概論 ○英語統語論 I ○現代英文法	4 4 4	1~4 1~4 1~4	◎印1科目及び○ 印1科目を含む8 単位以上必修
英 語 文 学	1	○英文学の歩み I ○英文学の歩み II ●米文学の歩み I ●米文学の歩み II ●Survey of American and English Literature ○英文学と文化 I ○英文学と文化 II ●米文学と文化 I ●米文学と文化 II ●Themes in American and English Literature	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1~4 1~4 1~4 1~4 2~4 3~4 3~4 3~4 3~4 2~4	○印1科目及び● 印1科目を含む4 単位以上必修
英 語 コミュニケーション	1	〈英語科目〉 ◎Freshman English I (CK) ◎Freshman English II (CK) ◎総合英語 I ◎総合英語 II ◎Sophomore English I (CK) ◎Sophomore English II (CK) ◎総合英語 III ◎総合英語 IV ◎English for Multicultural Communication 時事英語 I 時事英語 II ビジネス英語 I ビジネス英語 II	2 2 1 1 2 2 1 1 4 2 2 2 2	1 1 1 1 2 2 2 2 3~4 1~4 1~4 1~4 1~4	◎印を含む8単位 以上必修 ※4単位まで算入可
異 文 化 理 解	1	○英国研究入門 I ○英国研究入門 II ○米国研究入門 I ○米国研究入門 II ○オセアニア研究入門 I ○オセアニア研究入門 II ○カナダ研究入門 I ○カナダ研究入門 II	2 2 2 2 2 2 2 2	1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4	○印1科目を含む 2単位以上必修
計	4	※(1)イ)教科に関する専門的事項の必要単位として20単位以上、さらに(5)「大 学が独自に設定する科目」へ充当する単位として10単位以上、合計30単位以上をこ この表中の科目から修得する必要がある。			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

○●印は教職選択必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
中 4 高12	介護等体験実習	1	2~4	中学校1種免許状 取得希望者は必修 3年次に履修する ことが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2~3	高校1種免許状の み取得希望者が取 得した場合
	(1) イ) 教科に関する専門的事項	10		(1) イの表で20 単位を超えて取得 した単位
計	中学校11単位／高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

中国語専攻p.117、韓国語専攻p.119の(6)の表と同じ。

〈アジア言語学科〉 インドネシア語専攻・タイ語専攻・ベトナム語専攻

(1) イ) 教科に関する専門的事項

「教科に関する専門的事項」は、英語学・英語文学・英語コミュニケーション・異文化理解の分野に分かれています。各分野での教職必修科目、教職選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
英 語 学	1	◎英語学概論 ○英語統語論 I ○現代英文法	4 4 4	1~4 1~4 1~4	◎印1科目及び○ 印1科目を含む8 単位以上必修
英 語 文 学	1	○英文学の歩み I ○英文学の歩み II ●米文学の歩み I ●米文学の歩み II ●Survey of American and English Literature ○英文学と文化 I ○英文学と文化 II ●米文学と文化 I ●米文学と文化 II ●Themes in American and English Literature	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1~4 1~4 1~4 1~4 2~4 3~4 3~4 3~4 3~4 2~4	○印1科目及び● 印1科目を含む4 単位以上必修
英 語 コミュニケーション	1	〈英語科目〉 ◎Freshman English I (ML) ◎Freshman English II (ML) ◎アカデミック英語 I ◎アカデミック英語 II ◎Sophomore English I (ML) ◎Sophomore English II (ML) ◎Media English I (ML) ◎Media English II (ML) ◎English for Multicultural Communication 時事英語 I 時事英語 II ビジネス英語 I ビジネス英語 II	2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 2 2 2 2 3~4 1~4 1~4 1~4 1~4	◎印を含む8単位 以上必修 ※4単位まで算入可
異 文 化 理 解	1	○英国研究入門 I ○英国研究入門 II ○米国研究入門 I ○米国研究入門 II ○オセアニア研究入門 I ○オセアニア研究入門 II ○カナダ研究入門 I ○カナダ研究入門 II	2 2 2 2 2 2 2 2	1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4	○印1科目を含む 2単位以上必修
計	4	※(1)イ)教科に関する専門的事項の必要単位として20単位以上、さらに(5)「大 学が独自に設定する科目」へ充当する単位として10単位以上、合計30単位以上をこ この表中の科目から修得する必要がある。			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

○●印は教職選択必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
中4 高12	介護等体験実習	1	2~4	中学校1種免許状 取得希望者は必修 3年次に履修する ことが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2~3	高校1種免許状の み取得希望者が取 得した場合
	(1) イ) 教科に関する専門的事項	10		(1) イ) の表で20 単位を超えて取得 した単位
計	中学校11単位／高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
日 本 国 憲 法	2	○憲法Ⅰ	2	1~4	○印1科目2単位 以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1~4	
体 育	2	◎体育・スポーツ	1	1~4	2科目2単位必修
		◎体育・スポーツⅡ	1	1~4	
外 国 語 コミュニケーション	2	◎インドネシア語基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e)	5	1	自身の専攻する地 域言語から◎印10 単位必修
		◎インドネシア語基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e)	5	1	
		◎ベトナム語基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e)	5	1	
		◎ベトナム語基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e)	5	1	
		◎タイ語基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e)	5	1	
		◎タイ語基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e)	5	1	
数理、データ活用 及び人工知能に 関する科目又は 情報機器の操作	2	◎情報基礎Ⅰ	1	1~4	2科目2単位必修
		◎情報基礎Ⅱ	1	1~4	

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

〈イベロアメリカ言語学科〉スペイン語専攻

(1) イ) 教科に関する専門的事項

「教科に関する専門的事項」は、スペイン語学・スペイン文学・スペイン語コミュニケーション・異文化理解の分野に分かれています。各分野での教職必修科目、教職選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
スペイン語学	1	○スペイン語音声学Ⅰ ○スペイン語音声学Ⅱ ○スペイン語学概論Ⅰ ○スペイン語学概論Ⅱ 日西語対照研究Ⅰ 日西語対照研究Ⅱ 商業スペイン語Ⅰ 商業スペイン語Ⅱ スペイン語翻訳法Ⅰ スペイン語翻訳法Ⅱ スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅱ スペイン語学研究Ⅰ スペイン語学研究Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2~4 2~4 2~4 2~4 2~4 2~4 3~4 3~4 2~4 2~4 3~4 3~4 3~4 3~4	○印2科目を含む 4単位以上必修
スペイン文学	1	○スペイン文学史Ⅰ ○スペイン文学史Ⅱ 現代スペイン文学Ⅰ 現代スペイン文学Ⅱ ○現代ラテンアメリカ文学Ⅰ ○現代ラテンアメリカ文学Ⅱ スペイン語圏文学研究Ⅰ スペイン語圏文学研究Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2	1~4 1~4 2~4 2~4 2~4 2~4 3~4 3~4	○印1科目を含む 2単位以上必修
スペイン語 コミュニケーション	1	◎スペイン語基礎Ⅲ(a) ◎スペイン語基礎Ⅲ(b) ◎スペイン語基礎Ⅲ(c) ◎スペイン語基礎Ⅳ(a) ◎スペイン語基礎Ⅳ(b) ◎スペイン語基礎Ⅳ(c) ○スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ ○スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅡ スペイン語応用Ⅰ スペイン語応用Ⅱ スペイン語総合	2 2 1 2 2 1 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 3~4 3~4 3 3 3~4	◎印6科目及び○ 印1科目を含む12 単位以上必修 ※2単位まで算入可
異文化理解	1	○スペイン文化研究Ⅰ ○スペイン文化研究Ⅱ スペイン美術史Ⅰ スペイン美術史Ⅱ イベリア史概論Ⅰ イベリア史概論Ⅱ ラテンアメリカ史概論Ⅰ ラテンアメリカ史概論Ⅱ ラテンアメリカ政治論Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2 2	3~4 3~4 3~4 3~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4	○印1科目を含む 2単位以上必修

		ラテンアメリカ政治論Ⅱ	2	1～4	
		ラテンアメリカ経済論Ⅰ	2	2～4	
		ラテンアメリカ経済論Ⅱ	2	2～4	
		メキシコ研究Ⅰ	2	3～4	
		メキシコ研究Ⅱ	2	3～4	
		スペイン時事研究Ⅰ	2	3～4	
		スペイン時事研究Ⅱ	2	3～4	
		ラテンアメリカ時事研究Ⅰ	2	3～4	
		ラテンアメリカ時事研究Ⅱ	2	3～4	
計	4	※(1)イ)教科に関する専門的事項の必要単位として20単位以上、さらに(5)「大学が独自に設定する科目」へ充当する単位として10単位以上、合計30単位以上をこの表中の科目から修得する必要がある。			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
高12	介護等体験実習	1	2～4	中学校1種免許状取得希望者は必修3年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校1種免許状のみ取得希望者が取得した場合
	(1)イ)教科に関する専門的事項	10		(1)イ)の表で20単位を超えて取得した単位
計	高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

分 野	教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
		科 目 名	単位数	履修年次	備 考
日 本 国 憲 法	2	○憲法Ⅰ	2	1～4	○印1科目2単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1～4	
体 育	2	◎体育・スポーツ	1	1～4	2科目2単位必修
		◎体育・スポーツⅡ	1	1～4	
外 国 語 コミュニケーション	2	◎スペイン語基礎Ⅰ(a)	2	1	◎印10単位必修
		◎スペイン語基礎Ⅰ(b)	3	1	
		◎スペイン語基礎Ⅱ(a)	2	1	
		◎スペイン語基礎Ⅱ(b)	3	1	
数理、データ活用 及び人工知能に 関する科目又は 情報機器の操作	2	◎情報基礎Ⅰ	1	1～4	2科目2単位必修
		◎情報基礎Ⅱ	1	1～4	

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

〈イベロアメリカ言語学科〉スペイン語専攻 英語「副免」

(1) イ) 教科に関する専門的事項

「教科に関する専門的事項」は、英語学・英語文学・英語コミュニケーション・異文化理解の分野に分かれています。各分野での教職必修科目、教職選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
英 語 学	1	◎英語学概論	4	1~4	◎印2科目を含む 8単位以上必修
		第二言語習得研究	4	1~4	
		◎現代英文法	4	1~4	
英 語 文 学	1	○英文学の歩みⅠ	2	1~4	○印1科目及び● 印1科目を含む4 単位以上必修
		○英文学の歩みⅡ	2	1~4	
		●米文学の歩みⅠ	2	1~4	
		●米文学の歩みⅡ	2	1~4	
		●Survey of American and English Literature	2	2~4	
		○英文学と文化Ⅰ	2	3~4	
		○英文学と文化Ⅱ	2	3~4	
		●米文学と文化Ⅰ	2	3~4	
		●米文学と文化Ⅱ	2	3~4	
		●Themes in American and English Literature	2	2~4	
英 語 コミュニケーション	1	〈英語科目〉			◎印を含む8単位 以上必修 ※4単位まで算入可
		◎Freshman English I (ML)	2	1	
		◎Freshman English II (ML)	2	1	
		◎アカデミック英語Ⅰ	2	1	
		◎アカデミック英語Ⅱ	2	1	
		◎Sophomore English I (ML)	2	2	
		◎Sophomore English II (ML)	2	2	
		◎Media English I (ML)	2	2	
		◎Media English II (ML)	2	2	
		◎English for Multicultural Communication	4	3~4	
		時事英語Ⅰ	2	1~4	
		時事英語Ⅱ	2	1~4	
		ビジネス英語Ⅰ	2	1~4	
ビジネス英語Ⅱ	2	1~4			
異 文 化 理 解	1	○英国研究入門Ⅰ	2	1~4	○印1科目を含む 2単位以上必修
		○英国研究入門Ⅱ	2	1~4	
		○米国研究入門Ⅰ	2	1~4	
		○米国研究入門Ⅱ	2	1~4	
		○オセアニア研究入門Ⅰ	2	1~4	
		○オセアニア研究入門Ⅱ	2	1~4	
		○カナダ研究入門Ⅰ	2	1~4	
		○カナダ研究入門Ⅱ	2	1~4	
計	4	※(1)イ)教科に関する専門的事項の必要単位として20単位以上、さらに(5)「大 学が独自に設定する科目」へ充当する単位として10単位以上、合計30単位以上をこ この表中の科目から修得する必要がある。			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

○、●印は教職選択必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
中 4	介護等体験実習	1	2~4	中学校1種免許状 取得希望者は必修 3年次に履修する ことが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2~3	高校1種免許状の み取得希望者が取 得した場合
	(1) イ) 教科に関する専門的事項	10		(1) イ) の表で20 単位を超えて取得 した単位
計	中学校11単位／高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

前頁の(6)の表と同じ。

〈イベロアメリカ言語学科〉 ブラジル・ポルトガル語専攻

(1) イ) 教科に関する専門的事項

「教科に関する専門的事項」は、英語学・英語文学・英語コミュニケーション・異文化理解の分野に分かれています。各分野での教職必修科目、教職選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
英 語 学	1	◎英語学概論	4	1～4	◎印2科目を含む 8単位以上必修
		第二言語習得研究	4	1～4	
		◎現代英文法	4	1～4	
英 語 文 学	1	○英文学の歩みⅠ	2	1～4	○印1科目及び● 印1科目を含む4 単位以上必修
		○英文学の歩みⅡ	2	1～4	
		●米文学の歩みⅠ	2	1～4	
		●米文学の歩みⅡ	2	1～4	
		●Survey of American and English Literature	2	2～4	
		○英文学と文化Ⅰ	2	3～4	
		○英文学と文化Ⅱ	2	3～4	
		●米文学と文化Ⅰ	2	3～4	
		●米文学と文化Ⅱ	2	3～4	
		●Themes in American and English Literature	2	2～4	
英 語 コミュニケーション	1	〈英語科目〉			◎印を含む8単位 以上必修 ※4単位まで算入可
		◎Freshman English I (ML)	2	1	
		◎Freshman English II (ML)	2	1	
		◎アカデミック英語Ⅰ	2	1	
		◎アカデミック英語Ⅱ	2	1	
		◎Sophomore English I (ML)	2	2	
		◎Sophomore English II (ML)	2	2	
		◎Media English I (ML)	2	2	
		◎Media English II (ML)	2	2	
		◎English for Multicultural Communication	4	3～4	
		時事英語Ⅰ	2	1～4	
		時事英語Ⅱ	2	1～4	
		ビジネス英語Ⅰ	2	1～4	
ビジネス英語Ⅱ	2	1～4			
異 文 化 理 解	1	○英国研究入門Ⅰ	2	1～4	○印1科目を含む 2単位以上必修
		○英国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		○米国研究入門Ⅰ	2	1～4	
		○米国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		○オセアニア研究入門Ⅰ	2	1～4	
		○オセアニア研究入門Ⅱ	2	1～4	
		○カナダ研究入門Ⅰ	2	1～4	
		○カナダ研究入門Ⅱ	2	1～4	
計	4	※(1)イ)教科に関する専門的事項の必要単位として20単位以上、さらに(5)「大 学が独自に設定する科目」へ充当する単位として10単位以上、合計30単位以上をこ この表中の科目から修得する必要がある。			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

○、●印は教職選択必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
中4 高12	介護等体験実習	1	2~4	中学校1種免許状 取得希望者は必修 3年次に履修する ことが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2~3	高校1種免許状の み取得希望者が取 得した場合
	(1) イ) 教科に関する専門的事項	10		(1) イ) の表で20 単位を超えて取得 した単位
計	中学校11単位／高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
日 本 国 憲 法	2	○憲法Ⅰ	2	1~4	○印1科目2単位 以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1~4	
体 育	2	◎体育・スポーツ	1	1~4	2科目2単位必修
		◎体育・スポーツⅡ	1	1~4	
外 国 語 コミュニケーション	2	◎ポルトガル語基礎Ⅰ (a)	2	1	◎印10単位必修
		◎ポルトガル語基礎Ⅰ (b)	2	1	
		◎ポルトガル語基礎Ⅰ (c)	1	1	
		◎ポルトガル語基礎Ⅱ (a)	2	1	
		◎ポルトガル語基礎Ⅱ (b)	2	1	
		◎ポルトガル語基礎Ⅱ (c)	1	1	
数理、データ活用 及び人工知能に 関する科目又は 情報機器の操作	2	◎情報基礎Ⅰ	1	1~4	2科目2単位必修
		◎情報基礎Ⅱ	1	1~4	

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

〈国際コミュニケーション学科〉 国際コミュニケーション専攻

(1) イ) 教科に関する専門的事項

「教科に関する専門的事項」は、英語学・英語文学・英語コミュニケーション・異文化理解の分野に分かれています。各分野での教職必修科目、教職選択必修科目を含めて必要単位数を修得します

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
英 語 学	1	◎英語学概論 ○英語音声学 ○現代英文法	4 4 4	1~4 1~4 1~4	◎印1科目及び○印1科目を含む8単位以上必修
英 語 文 学	1	○英文学の歩みⅠ ○英文学の歩みⅡ ●米文学の歩みⅠ ●米文学の歩みⅡ ●Survey of American and English Literature ○英文学と文化Ⅰ ○英文学と文化Ⅱ ●米文学と文化Ⅰ ●米文学と文化Ⅱ ●Themes in American and English Literature	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1~4 1~4 1~4 1~4 2~4 3~4 3~4 3~4 3~4 2~4	○印1科目及び●印1科目を含む4単位以上必修
英 語 コミュニケーション	1	〈英語科目〉 ◎English for International Communication II(a) ◎English for International Communication II(b) ◎Media English I ◎Media English II ◎Advanced Reading I ◎Advanced Reading II ◎English for International Communication III	2 2 2 2 2 2 12	2 2 2 2 2 2 3~4	◎印を含む8単位以上必修
異 文 化 理 解	1	○英国研究入門Ⅰ ○英国研究入門Ⅱ ○米国研究入門Ⅰ ○米国研究入門Ⅱ ○オセアニア研究入門Ⅰ ○オセアニア研究入門Ⅱ ○カナダ研究入門Ⅰ ○カナダ研究入門Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2	1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4 1~4	○印1科目を含む2単位以上必修
計	4	※(1)イ)教科に関する専門的事項の必要単位として20単位以上、さらに(5)「大学が独自に設定する科目」へ充当する単位として10単位以上、合計30単位以上をこの表中の科目から修得する必要がある。			
規則所定最低単位数	20				

◎印は教職必修科目

○、●印は教職選択必修科目

(5) 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則所定 最低修得単位数	本 学 基 準			
	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
中4 高12	介護等体験実習	1	2～4	中学校1種免許状 取得希望者は必修 3年次に履修する ことが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校1種免許状の み取得希望者が取 得した場合
	(1)イ) 教科に関する専門的事項	10		(1)イの表で20 単位を超えて取得 した単位
計	中学校11単位／高等学校12単位以上必修			

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本 学 基 準			
分 野	最低修得単位数	科 目 名	単位数	履修年次	備 考
日 本 国 憲 法	2	○憲法Ⅰ	2	1～4	○印1科目2単位 以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1～4	
体 育	2	◎体育・スポーツ	1	1～4	2科目2単位必修
		◎体育・スポーツⅡ	1	1～4	
外 国 語 コミュニケーション	2	◎English for International Communication I(a)	4	1	◎印16単位必修
		◎English for International Communication I(b)	4	1	
		◎Reading/Writing I	4	1	
		◎Reading/Writing II	4	1	
数理、データ活用 及び人工知能に 関する科目又は 情報機器の操作	2	◎情報基礎Ⅰ	1	1～4	2科目2単位必修
		◎情報基礎Ⅱ	1	1～4	

◎印は教職必修科目

○印は教職選択必修科目

C 教職課程履修の流れ

下記のスケジュールに基づいて、ガイダンスに出席し、諸々の手続きを行ってください。

○ガイダンス ★授業 □提出物 ▼手続き

	1 年	2 年	3 年	4 年
	○ガイダンス	○ガイダンス	○ガイダンス	○ガイダンス
4月		▼教職課程のWebでの資格登録	▼介護等体験申し込み ▼教職課程のWebでの資格登録の確認 ▼教職課程履修費納入	▼教職課程のWebでの資格登録の確認 ○教員採用試験ガイダンス
5月			教育実習校への依頼状提出	★教育実践実習 I・II
6月	○教職ポートフォリオガイダンス	○教職ポートフォリオガイダンス	○介護等体験事前指導 ★介護等体験	
7月				教員採用試験（1次）
8月				○2次試験対策講座 教員採用試験（2次）
9月		▼教職課程のWebでの資格登録の確認	▼教育事前事後実習の登録 ★教育事前事後実習（後期）	★教職実践演習（中・高） □戸籍抄本の提出
10月			教職ポートフォリオ面談	
11月		□教職ポートフォリオ提出		○免許状一括申請説明会
12月				▼手続書類記入
1月		○実習校開拓のガイダンス ○介護等体験事前安全ガイダンス	□教育実践実習日誌の提出 □介護等体験実習日誌の提出	
3月				卒業式（免許状の授与）

※教職関係の「呼び出し」「連絡」はCampus Web及び各学年のGoogle Classroomに掲示するのでよく注意してください。

1. 教職課程履修の費用

教職課程履修希望者は、「教職課程履修費」30,000円を3年次4月に納入します。（介護等体験実習を2年次に行う学生は2年次に納入します。）

2. 介護等体験実習について

1) 介護等体験の目的

教職を志す学生に「障害者、高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験」を義務づけ、ここでの体験を、将来の教育活動に生かすことを願って行われるものです。原則として3年次で行いますが、小学校教諭免許取得支援課程を履修する場合には、2年次が望まれます。

2) 事前ガイダンスの実施

介護等体験実習の履修を希望する者は、履修の前年度（2年次又は1年次）の1月に行われる「介護等体験実習事前安全ガイダンス」に必ず出席してください。

3) 介護等体験実習の流れ

※詳細はガイダンス及び事前指導で指示するので、必ず全てに出席すること。

0. (前年度)1月：事前安全ガイダンスに出席

↓

1. 4月初旬：介護等体験実習ガイダンスに出席、申込書類を教務部教職担当に提出

↓

2. 前期履修登録期間：「介護等体験実習」を履修登録

↓

3. 5月上～中旬土曜日午後：介護等体験実習事前指導1回目に参加（特別支援学校・社会福祉施設の先生方の講話）
↓
 4. 5月中～下旬：受入施設と日程決定（日程表を配布）
↓
 5. 5月下旬以降 平日昼休み：介護等体験実習事前指導2回目に参加（実習のオリエンテーション）
↓
 6. 5月下旬～12月下旬頃：個別に定められた日程で実習に参加
↓
 7. 11月下旬：介護等体験実習日誌・報告書と福祉施設実習修了証明書の提出
↓（12月に実習を行う場合は実習終了後に提出する）
 8. 後期成績発表
- ※上記は予定であり、日程が変更になることがあります。

3. 教育実習（教育実践実習Ⅰ・Ⅱ）について

1) 教育実習の目的

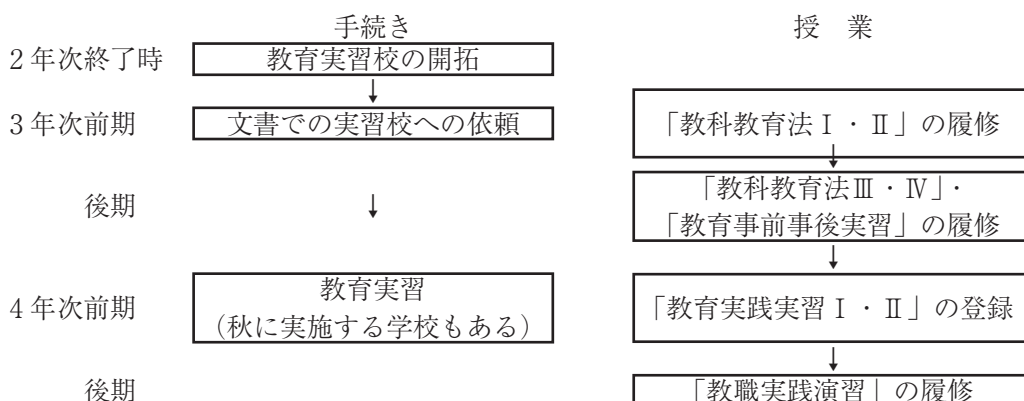
教育実習は、教育職員免許法施行規則に基づき、中学校・高等学校の現実の教育の場において、大学で学んだ理論や知識を基に、実習を通して教育の実践的な知識・技能・態度等の基礎を修得し、教員としての自覚を高めることを目的とします。

2) 教育実習の履修条件

1	教育実習を行う年度中に卒業できる見込みのある者。※
2	教職に関する科目のうち、原則として「教育原理」「教育心理学」、及び「道徳教育の指導法」（中学校免許希望者）を修得している者。
3	「教科教育法Ⅰ・Ⅱ」を前年度までに修得している者。英語で教育実習を行う場合、「英語科教育法Ⅲ・Ⅳ」も前年度までに修得していることが望ましい。
4	「教育事前事後実習」を教育実習を行う前年度に修得している者。
5	「教育実践実習Ⅰ」及び「教育実践実習Ⅱ」の履修登録をしている者。
6	英語で実習する場合、教育実習を行う学年（4年）の前期履修登録時まで、A基準（TOEIC730点、TOEFL520点、IELTS6.0、英検準1級1次合格）のスコアを取得している者。

※本学卒業後に、科目等履修生として教育実習などの不足単位を修得して、教員免許状を取得することも可能です。

3) 教育実習の手続きの流れ



XVI 小学校教諭免許取得支援課程履修要項

1. 課程の趣旨

卒業年度の春に、3枚の教員免許状〈小学校教諭二種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）〉を取得することで、小学校の教諭として仕事ができるようにするものです。（小学校教諭用に取得する免許は二種ですが、中学校一種を取得しているため、小学校一種免許を取得して教諭になる先生との待遇に差はありません）

2. 課程の概要

この課程では、本学の教職課程を履修するとともに、千葉経済大学短期大学部の科目等履修生として学ぶことによって、小学校教諭二種免許取得に必要な単位を修得することを支援するものです。小学校は全教科を担任が指導するケースが多いので、国語科指導法、音楽科指導法、体育科指導法など教科指導法の単位が多いのが特徴です。

3. 出願の条件

英米語学科・国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻の学生は時間割を組めれば2年間でこの課程を修了することが可能です。ただし、その他の学科・専攻の場合は、3年次に本学での必修科目がありますので、2年間でこの課程を修了することはできません。

- 1) 神田外語大学在籍の2年次生で3年次から課程を受講できる在学学生
- 2) 中学校（英語）教諭の教職課程を履修していて、将来教員採用試験の受験を予定していること。
- 3) 3年次から週に2～3回千葉経済大学短期大学部に通学できること
- 4) 留学制度留学及び休学を行わないこと
- 5) 出願時までにB基準(TOEIC L&R650点、TOEFL ITP500点など)の英語力を証明するスコアを提出できること

4. 課程に関わる費用

下記の金額は、2年間で課程に必要な単位を修得できた場合の金額であり、2023年度の千葉経済大学短期大学部の要項に基づいて算出した金額です。なお、個々人の履修状況や千葉経済大学短期大学部の学則改定等によっては金額が変動することがありますのでご了承ください。納入は年度毎に行うことになります。

項目	金額	備考
登録料	20,000円	年度を続けて履修する場合は免除
履修費	1単位 10,000円	一部の科目については教材費が必要な場合があります。また、電算科目においては別に実習費20,000円がかかります。
教育実習費	40,000円	
合計	400,000円	2023年度までの最低費用額（34単位履修）

教科書代ほかは、履修する科目により異なります。教科書は指定された販売日に購入してください。

XVI 日本語教員養成課程履修要項

1. 課程の趣旨

日本語を母語としない学習者に日本語を教えるなど、日本語教育に携わる人材には専門的な知識能力が求められます。本課程では、日本をはじめ世界の様々な地域において、日本語に関する専門知識を活かし、「日本語によるコミュニケーション」の支援ができる人材を育てることを目指します。履修条件に従い、区分毎に定めた所定の単位を修得することで、卒業と同時に「日本語教員養成課程修了証」が授与されます。

なお、本課程では、文化庁が日本語教育人材の養成段階において求める、コミュニケーションを核とした3つの領域（「社会・文化に関わる領域」「教育に関わる領域」「言語に関わる領域」）と5つの区分（「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と教育」「言語」）の教育内容を体系的に学ぶことができます。

2. 課程の修了要件

下記の一覧の区分毎の必要単位数合計32単位（必修20単位／選択必修12単位）を修得すること。

領域	区分	科目名	履修年次	単位数		備考	必要単位数
				必修	選択必修		
コミュニケーション	社会・文化・地域	国際関係論Ⅰ	1～4		2		2
		国際関係論Ⅱ	1～4		2		
		日本文化論Ⅰ	1～4		2		
		日本文化論Ⅱ	1～4		2		
		日本近代史	1～4		2		
		日本現代史	1～4		2		
		日本社会論	1～4		2		
		地域研究	2～4		2		
		多様性とコミュニケーションⅠ	3～4		2		
		多様性とコミュニケーションⅡ	3～4		2		
	言語と社会	社会言語学	1～4		2		2
		コミュニケーション論Ⅰ	1～4		2		
		コミュニケーション論Ⅱ	1～4		2		
		異文化コミュニケーション論Ⅰ	1～4		2		
		異文化コミュニケーション論Ⅱ	1～4		2		
		日本語パブリック・スピーキング	1～4		4		
		多文化社会コミュニケーション論Ⅰ	1～4		2		
		多文化社会コミュニケーション論Ⅱ	1～4		2		
		対人コミュニケーション論	1～4		2		
	言語と心理	心理学Ⅰ	1～4		2		4
		心理学Ⅱ	1～4		2		
		認知発達と英語教育	1～4		4		
		第二言語習得研究	1～4		4	※1	
		認知言語学入門Ⅰ	1～4		2	※3	
		認知言語学入門Ⅱ	1～4		2	※3	
		Approaches and Strategies in Learning English	1～4		2		
		心理言語学	2～4		4		
生徒指導・進路指導論		2～4		2			
英語談話分析		3～4		2	※1		
応用言語学		3～4		4			
脳・心とコミュニケーションⅠ		3～4		2			
脳・心とコミュニケーションⅡ		3～4		2			

領域	区分	科目名	履修年次	単位数		備考	必要単位数	
				必修	選択必修			
コミュニケーション	教育に関わる領域	日本語教育概論	1～4	2			8 (必修) 2 (選必)	
		日本語教授法	2～4	4		※1		
		日本語教育実習	2～4	2		※1 ※2		
		コミュニケーション研究法Ⅰ	1～4		2			
		コミュニケーション研究法Ⅱ	1～4		2			
		教師論	1～4		2			
		情報基礎Ⅰ	1～4		1			
		情報基礎Ⅱ	1～4		1			
		外国語評価法	2～4		2	※1		
		教育心理学	2～3		2			
		教育方法論・ICT活用	2～4		2			
		教育課程論	2～4		2			
	言語に関わる領域	言語	日本語学概論	1～4	4			12 (必修) 2 (選必)
			日本語学Ⅰ	1～4	4			
			日本語学Ⅱ	1～4	4			
			言語学Ⅰ	1～4		2		
			言語学Ⅱ	1～4		2		
			日本語表現法Ⅰ	1～4		2		
			日本語表現法Ⅱ	1～4		2		
			日本語スモールグループ・コミュニケーション	1～4		4		
			第二言語語用論	2～4		2	※1	
			日西語対照研究Ⅰ	2～4		2		
日西語対照研究Ⅱ	2～4		2					
日韓対照言語研究Ⅰ	2～4		2					
日韓対照言語研究Ⅱ	2～4		2					
日本語から英語を見る	3～4		4	※1				
日中比較言語Ⅰ	3～4		2					
日中比較言語Ⅱ	3～4		2					

- ※1 履修条件科目あり。Ⅷ 授業科目について (5) 研究科目参照
- ※2 4単位まで履修可
- ※3 2022年度以前の入学者は履修不可

「日本語教員養成課程」必修科目と履修条件

科目名	履修年次	単位	履修条件
日本語学概論 (前期/後期)	1～4年次	4	
日本語学Ⅰ (前期/後期)	1～4年次	4	
日本語学Ⅱ (前期/後期)	1～4年次	4	
日本語教育概論 (前期/後期)	1～4年次	2	
日本語教授法 (前期/後期)	2～4年次	4	「日本語学概論」「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」「日本語教育概論」4科目全てを修得済
日本語教育実習 (前期/後期)	2～4年次	2	「日本語教授法」を修得済

「日本語教員養成課程」を修了するには、次の履修モデルに示した通り4年間で計画的に履修することが望ましい。

特に留学を考えている場合には、必修科目、選択必修科目とも、事前に履修条件や履修年次を確認し、留学時期や期間を計画すること。

履修モデル

年次	必修科目名
1～2年	「日本語学概論」
	「日本語学Ⅰ」
	「日本語学Ⅱ」
	「日本語教育概論」
↓	
2～3年	「日本語教授法」
↓	
3～4年	「日本語教育実習」

【課程の登録について】

2年次の前期または後期に履修登録Web画面の「資格申請」ボタンから登録する。

資格申請をしている者が、他の資格課程との並行履修や留学等一定の条件を満たした場合、履修上限緩和申請が可能となる。申請の詳細については、3月にKUIS Campus Webで通知する。

【日本語教育実習について】

- ・実習を履修するためには、履修を希望する前年度の3月中に仮登録をする必要がある。
- 仮登録の詳細については、3月にKUIS Campus Webで通知する。
- ・履修人数が多い場合、4年生を優先する。
- ・実習は実費がかかることがある。

【後期「日本語教授法」と後期（春期）集中講義「日本語教育実習」の同時履修申請について】

以下に示す申請条件(1)と(2)の両方に該当する学生は、後期の「日本語教授法」と後期（春期）集中講義の「日本語教育実習」の同時履修を申請することができる。

- (1) 同時履修を行う学期において3年次以上である。
- (2) 以下のいずれかの理由により、後期に「日本語教授法」と「日本語教育実習」を同時履修しなければ、卒業までに日本語教員養成課程を修了することができない。
 - a. 1, 2年次に専攻語の必修科目と日本語教員養成課程の必修科目の時間割が重複していた
 - b. 他資格課程（教職課程／児童英語教員養成課程）との並行履修のため、日本語教員養成課程の必修科目の履修ができない
 - c. 留学との両立のため、4年次前期終了時点で「日本語教授法」の履修を終えられない
 - d. 3年次以降に日本語教員養成課程の履修を始めた
 - e. 長期の体調不良等の個人的な理由により、計画通りの履修が出来なかった

- ・申請方法等の詳細については、3月にKUIS Campus Webで通知する。
- ・後期集中講義の実習履修希望人数が多い場合、4年生及び事情により4年次に履修ができない3年生を優先する。

【選択必修科目について】

- ・それぞれの学科の指定に従い、4年次終了までに履修修得すること。
- ・履修条件等については「Ⅷ 授業科目について」も参照のこと。

XVII 児童英語教員養成課程履修要項

1. 課程の趣旨

本課程は、国が定めた小学校教員免許を取得するためのものではありません。しかし、2020年度より小学校において英語が教科となったため、児童英語の教員を目指すのであれば、しっかりした児童英語教育に関する知識を持っていることが必要です。また、中高の教職課程を履修している学生は、今後中高の英語教師として、効果的な教育を行うために、小学校で行われている英語教育についての知識を持っていることが望まれます。

2. 課程の修了要件

1. 本課程を履修して所定の単位を修得し、本課程の定める修了要件を満たせば、卒業と同時に「児童英語教員養成課程」修了証が授与されます。
2. 本課程を修了するのに必要な要件と科目及びその単位数は以下の通りです。

修了要件1：A基準（ただし、英検に関しては準1級以上を取得していること）※卒業後（又は修了要件2を達成後）1年以内に該当スコア提出をすれば要件を満たすことができる 修了要件2：下記科目の中から必修24単位、選択必修2単位、合計26単位以上を修得すること

科目名	履修年次	単位数		履修条件	必要単位数
		必修	選択必修		
児童英語教育論 ※1	1～4	4			合計26単位
認知発達と英語教育	1～4	4			
英語学概論	1～4	4			
英語音声学	1～4	4		同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可。「Outline of English Phonetics」のみC基準または「Intensive Academic Reading I」	
Outline of English Phonetics	1～4				
児童英語指導法 (Listening & Speaking)	2～4	4		「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」を修得済、かつC基準	
児童英語指導法 (Reading & Writing)	2～4	4		「Intensive Academic Reading I」／英検2級以上のいずれか	
児童英語海外実習 (アメリカ) ※2	2～4		2	「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」	
児童英語教育実習 (船橋) ※2, ※3	2～4		2		
児童英語海外実習 (ニュージーランド) ※2	2～4		2	「児童英語教育論」及び「認知発達と英語教育」を修得済、かつTOEFL ITP500点又はiBT60点、IELTS5.5点程度の英語力又は英検準1級。TOEICは認めない。	
児童英語教育実習 (沖縄) ※2	2～4		2		

※1 千葉経済大学短期大学部で科目等履修生として「英語概説」「英語科指導法」の2科目合計4単位を修得した場合、「児童英語教育論」として振替を行うことが可能

※2 他の実習科目との重複履修可能

※3 千葉経済大学短期大学部で科目等履修生として小学校課程用の「教育実習」を修得した場合、実習科目として振替を行うことが可能

履修年次と履修条件をよく確認し、計画的に履修してください。特に留学を考えている場合は、履修条件が決まっている科目を順番にとれるように留学を計画する必要があります。

XX 英米語学科通訳・翻訳課程履修要項

1. 本課程を履修し所定の単位を修得し、本課程の定める修了要件を満たせば、卒業と同時に「神田外語大学通訳・翻訳課程」修了証が授与されます。

2. 本課程を修了するのに必要な要件と科目及びその単位数は以下の通りです。

修了要件1：以下に示す必修科目32単位、選択科目4単位、合計36単位を修得すること。

修了要件2：TOEFL600点以上、TOEFL iBT100点以上、TOEIC L&R900点以上、英検1級、IELTS7.0以上のいずれかを取得していること。

修了要件3：半年から1年の英語圏への学部留学（語学留学は不可。休学留学を含める。）

履修開始前に「通訳・翻訳への招待」を受講していることが望ましい。

分野	科目名	履修年次	単位数		履修条件 ※2	必要単位数	
			必修	選択必修			
通訳・翻訳関連科目	日英翻訳法Ⅰ	2～4	4		A基準	36単位	
	日英翻訳法Ⅱ	3～4	4		A基準かつ(1)「時事英語Ⅱ」 (2)「Media EnglishⅠ/Ⅱ(英米)」 (3)「Media EnglishⅡ(IC)」のいずれか		
	英日翻訳法Ⅰ	2～4	4		A基準		
	英日翻訳法Ⅱ	3～4	4		A基準かつ(1)「時事英語Ⅱ」 (2)「Media EnglishⅠ/Ⅱ(英米)」 (3)「Media EnglishⅡ(IC)」のいずれか		
	英語通訳法Ⅰ	1～4	4				
	英語通訳法Ⅱ	1～4	4		C基準または「Intensive Academic ReadingⅠ」		
	英語通訳法Ⅲ	2～4	4		A基準		
	英語通訳法Ⅳ	2～4	4		S基準		
	通訳演習(a)※1	3～4		2	「通訳演習(a), (b)」もしくは 「翻訳演習(a), (b)」を選択し、 4単位履修。		通訳・翻訳課程履修者のみ履修可
	通訳演習(b)※1	3～4		2			
	翻訳演習(a)	3～4		2			
	翻訳演習(b)	3～4		2			
合計			32	4			

※1 通訳演習(a)と(b)の履修順序は、(a)からでも(b)からでも構いません。

※2 2022年度以前の入学者は、履修条件が異なります。

XX KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム履修要項

1. プログラムの趣旨

私たちが暮らす現代社会において、データやAIは様々な面で活用されており、必要不可欠なものとなっています。またそれらを正しく理解し活用できることは、今後の社会において求められるスキルともなります。本プログラムは、様々なデータやAIを基盤とした現代社会を生きていくために、それらへの関心を高め、適切に理解・活用するための基礎的素養を身につけ、データへの感性を養うことを目指します。

2. プログラムの修了要件

- (1) 本プログラムを履修し、所定の修了要件を満たせば、当該年度末に修了証が授与されます。
- (2) 本プログラムの修了を目指す学生は、2年次以降の前期・後期開始前にKUIS Campus Webの「資格申請」より登録を行ってください。(登録以前に修得した単位も、プログラム修了のための単位として認められます。)
- (3) 本プログラムを修了するには、以下に示す科目の6単位を全て修得してください。

科目名	履修年次	単位数
基礎演習Ⅰ	1	2
基礎演習Ⅱ	1	2
情報基礎Ⅰ	1～4	1
情報基礎Ⅱ	1～4	1

- ※ さらに理解やスキルを高めたい学生には「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」の履修も推奨します。
- ※ 3年次編入の学生は、基礎演習Ⅰ・Ⅱの履修対象外であることから、本プログラムを登録できません。
- ※ 本プログラムの修了を特に就職活動において活用する場合は、計画的に履修してください。

XVI 大学院言語科学研究科の概要

1. 設置の目的

大学院言語科学研究科は、博士前期課程と博士後期課程とから成ります。博士前期課程には、英語学専攻（東京キャンパスのみで開講）と日本語学専攻を設置しています。日本語学専攻では、総合的、科学的な言語研究の基礎訓練を重視しつつ、一般言語理論に基づいて言語の普遍性の観点から、日本語を研究する能力を養うことを目標としています。同時に言語間の比較対照研究と社会言語学、方言学の実証的方法論を身につけ、比較文化、異文化コミュニケーションをも視野に入れることによって、言語教育その他への応用研究を実効あるものとするようカリキュラムが組まれています。

2. 学内入学試験制度

博士前期課程（日本語学専攻）で、本学外国語学部において、優秀な成績をあげている学生に対して、提出された小論文と書類に対する審査及び口述試験のみで入学試験を行う制度があります。本学出身者は本学大学院への入学金が免除されます。

3. 英語学専攻の特色

現職英語教員及び社会人を対象とし、東京キャンパスで、TESOL プログラムを開講しています。講義はすべて英語で行い、TESOL（英語教授法）を実践的に学べます。

4. 日本語学専攻の特色

日本語学の理論的実証的研究を充実させ、研究の方法として現地調査法（フィールドワーク）と対照言語学の研究方法を取り入れています。さらに日本語学研究の基礎として日本文化に関する幅広い理解と知識が得られるよう、関連の授業科目を用意して充実を図っています。また、日本語教育のプロを養成するカリキュラムも充実しています。

日本語学コース、日本語教育学コースの2コースがあります。

5. 授業時間割

(1) 英語学専攻TESOLプログラム

土・日に講義を行います。

(2) 日本語学専攻

月～金曜日、午前9時から午後6時の間に5コマの授業時間を設けています。

1時限	9：00～10：30
2時限	10：40～12：10
3時限	13：10～14：40
4時限	14：50～16：20
5時限	16：30～18：00

6. 修了の要件

英語学専攻（TESOLプログラム）は必修、選択必修、選択科目の中から37単位（2025年入学者からは31単位）以上を修得し、MA Research Projectに合格することが求められます。

日本語学専攻は各コースの定める科目から32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することが求められます。なお、各コースの定める科目から40単位以上

を修得したものについては、修士研究報告の審査をもって修士論文の審査に代えることもできます。

学部で英語以外の外国語を4単位以上取得していない場合、入学後単位を取得する必要があります。

また、学部で「日本語学概論」またはそれに対応する科目を修得していない場合、入学後1年次において「言語学概論」を履修しなければなりません。

7. 学位

博士前期課程を修了した者には、本学の規定の定めるところにより、修士（文学）の学位を授与します。

8. 修了証取得

日本語学専攻では、選択したコースにかかわらず、大学院が定める授業科目を履修することによって、日本語教育教員養成プログラム修了証を取得できます。

9. 募集人員

言語科学研究科博士前期課程

英語学専攻（TESOLプログラム）8名

日本語学専攻（日本語学・日本語教育学）8名

10. 博士後期課程

博士後期課程は、言語科学専攻として、総合的な言語研究を行い、それぞれの専門分野で研究者として自立していくために必要な、高度な研究能力を培います。

11. 授業科目

- ・下記のサイトで開講科目について参照することができます。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/tesol/> 英語学専攻（TESOLプログラム）

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/japanese/> 日本語学専攻

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/expert/> 言語科学専攻（博士後期）

- ・日本語学専攻の一部の科目を外国語学部の3、4年次生へ開講しています。

開講科目（学部生が履修可能な大学院科目）は、各年度の「学年暦・注意事項等」の冊子で参照することができます。

XXII 大学院英語学専攻 (MA TESOL Program) 科目の先行履修・学部修士5年一貫プログラムについて

1. 制度の趣旨

英米語学科英語教育研究コースの学生のうち、極めて高い語学力を持ち、将来教員免許を取得する学生を対象に、本学大学院の英語学専攻 (MA TESOL Program) の科目の履修を認めます。大学院英語学専攻 (MA TESOL Program) の授業はすべて英語で行われるため、学習指導要領で求められている「英語を使って学ぶこと」を実際に経験し、高度な専門知識・技術の習得とさらなる英語力向上を目指すことが可能になります。

学部時代に大学院科目を先行履修することにより、英語教育に関する高度で実践的な知見を修得し、最短5年で大学卒業 (学士号取得)・大学院修了 (修士号取得)・中高教員免許 (1種・専修) 取得が可能となります。また、経済的・時間的制約により5年一貫プログラムを選択しない場合でも、大学卒業後に大学院英語学専攻に入学する場合、学部在学中に先行履修した大学院科目の単位が認定されるため、大学院で取得を要する単位数が少なくなり、教員として勤務しながら、少ない負担で大学院修士課程修了が可能となります。

2. 制度の概要

- ・ 神田外語大学に4年間在籍し、卒業後大学院に1年間以上在籍が必要です。
- ・ 大学の単位を124単位、大学院の単位を先行履修分も含めて31単位修得します。
- ・ 大学院の科目は、大学3年次以降、先行履修条件を満たし次第、履修可能となります。
- ・ 大学院の科目は、神田キャンパス又はオンラインでの開講となります。
- ・ 5年間での修士号取得を目指す場合、大学院科目のうち15単位程度を大学在学中に修得していることが目安となります。また、5年目にMA Research Project (修士研究報告) を含めて、16単位程度を修得することになるため、5年での修士号取得希望者は、5年目は中学校・高等学校等で就労せず、学業に専念することが基本となります。
- ・ 大学院英語学専攻の開講科目は土日に限られていることから、大学在学中に一部の科目を先行履修し、卒業後に教員として勤務しながら大学院科目を履修することも可能です。
- ・ 在学中の大学院英語学専攻科目の先行履修については、費用を徴収しません。卒業後の授業料は1単位当たり4万5千円となります。

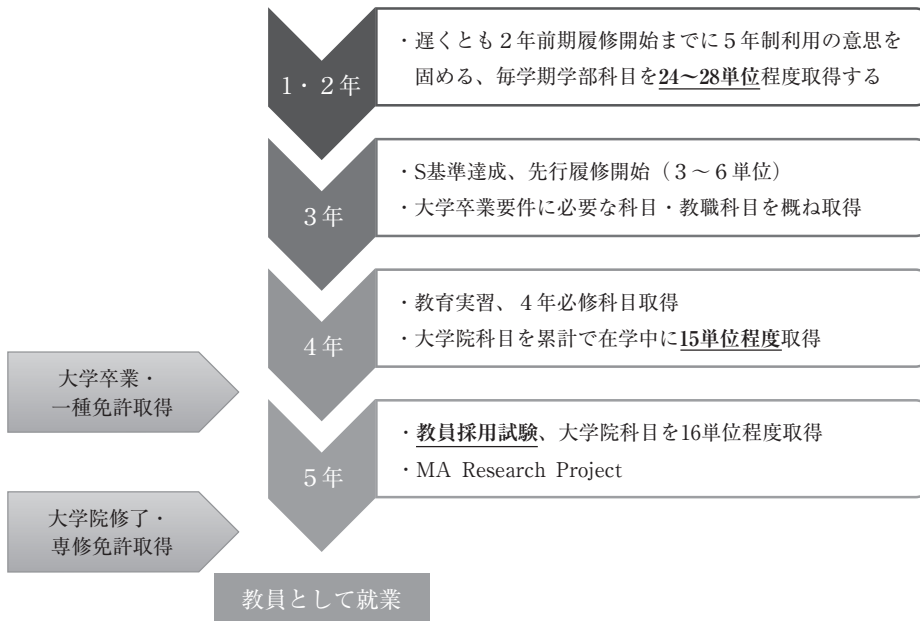
3. 履修に必要な要件・注意事項

- (1) 英米語学科英語教育研究コースに在籍している者
 - (2) 原則教職課程を履修し、大学在学中に中高一種教員免許を取得する予定の者
 - (3) 履修基準のS基準 (TOEFL ITP 550、TOEIC 800、英検準1級等) のスコアを保持している者
 - (4) 5年間での修士号取得希望者は、2年次終了までの修得単位数が、教職科目も含め、おおむね100単位程度であること
- ・ (1)~(4)の出願条件を満たした3・4年生 (新3年生含む) が、指定の期間に大学院の定めるRegistration Form・Application Form等の必要書類を提出し、毎年1月又は7月に実施される選抜試験 (大学院入試に準ずる試験) に合格することで、先行履修が可能になります。
 - ・ (4)の要件のため、履修希望者は、1年次後期より履修登録上限単位数を越えて履修することを可能とします。
 - ・ 大学在学時に大学院の科目を先行履修する場合は、最大15単位までの履修が可能です。
 - ・ 大学院進学時に特別推薦試験を受験する必要があります。

詳細については、説明会での案内を参照してください。

4. 履修モデル

○ 5年間で修士号の取得を目指す場合（5年一貫プログラム）



○ 卒業後、教員就業と大学院進学との両立を前提とした先行履修



2024年度 外国語学部 学生便覧

2024年 4 月 1 日発行

編集・発行 神田外語大学 教務部

〒261-0014 千葉県美浜区若葉1-4-1

電話番号 043-273-1320



神田外語大学

千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1

学籍番号

氏名